

令和3年度

笠岡市公営企業会計決算審査意見書

笠岡市監査委員

笠 監 第 4 6 号

令和4年8月19日

笠岡市長 小林 嘉文 殿

笠岡市監査委員 中西 尚子

同 東川 三郎

令和3年度笠岡市公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和3年度笠岡市公営企業会計（水道事業会計，下水道事業会計，病院事業会計）決算及び関係書類を審査したので、その結果について別紙のとおり意見を提出します。

目 次

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| 第 1 | 審査の対象 | 1 |
| 第 2 | 審査の期間 | 1 |
| 第 3 | 審査の方法 | 1 |
| 第 4 | 審査の結果 | 1 |
| | 水道事業会計 | 2 |
| 1 | 業務の概要 | 2 |
| | (1) 普及状況 | 2 |
| | (2) 配水量等 | 2 |
| | (3) 有収率の状況 | 3 |
| | (4) 施設の利用状況 | 3 |
| 2 | 予算の執行状況 | 4 |
| | (1) 収益的収入及び支出 | 4 |
| | (2) 資本的収入及び支出 | 4 |
| | (3) 予算で定められた限度額等に対する執行状況 | 6 |
| 3 | 経営成績 | 7 |
| | (1) 損益状況 | 7 |
| | (2) 事業収益 | 9 |
| | (3) 事業費用 | 10 |
| | (4) 供給単価と給水原価 | 12 |
| 4 | 財政状態 | 13 |
| | (1) 資 産 | 13 |
| | (2) 負 債 | 14 |
| | (3) 資 本 | 17 |
| | (4) 他会計からの繰入金 | 17 |
| | (5) 財務比率等 | 18 |
| | (6) キャッシュ・フローの状況 | 20 |
| | む す び | 21 |

| | | |
|--------------------------|-------|----|
| 下水道事業会計 | ----- | 23 |
| 1 業務の概要 | ----- | 23 |
| (1) 普及状況 | ----- | 23 |
| (2) 汚水処理水量等 | ----- | 24 |
| (3) 有収率の状況 | ----- | 24 |
| 2 予算の執行状況 | ----- | 24 |
| (1) 収益的収入及び支出 | ----- | 24 |
| (2) 資本的収入及び支出 | ----- | 25 |
| (3) 予算で定められた限度額等に対する執行状況 | ----- | 27 |
| 3 経営成績 | ----- | 28 |
| (1) 損益状況 | ----- | 28 |
| (2) 事業収益 | ----- | 30 |
| (3) 事業費用 | ----- | 31 |
| (4) 使用料単価と汚水処理原価 | ----- | 32 |
| 4 財政状態 | ----- | 33 |
| (1) 資産 | ----- | 33 |
| (2) 負債 | ----- | 34 |
| (3) 資本 | ----- | 35 |
| (4) 他会計からの繰入金 | ----- | 36 |
| (5) 財務比率等 | ----- | 36 |
| (6) キャッシュ・フローの状況 | ----- | 38 |
| むすび | ----- | 39 |

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| 病院事業会計 | ----- | 41 |
| 1 業務の概要 | ----- | 41 |
| (1) 診療科目数及び病床数 | ----- | 41 |
| (2) 患者数 | ----- | 41 |
| (3) 病床利用率等 | ----- | 43 |
| 2 予算の執行状況 | ----- | 43 |
| (1) 収益的収入及び支出 | ----- | 43 |
| (2) 資本的収入及び支出 | ----- | 43 |
| (3) 予算に定められた限度額に対する執行状況 | ----- | 46 |
| 3 経営成績 | ----- | 46 |
| (1) 損益収支の状況 | ----- | 46 |
| (2) 事業収益 | ----- | 49 |
| (3) 事業費用 | ----- | 50 |
| 4 財政状態 | ----- | 53 |
| (1) 資産 | ----- | 53 |
| (2) 負債 | ----- | 54 |
| (3) 資本 | ----- | 56 |
| (4) 一般会計からの繰入金 | ----- | 56 |
| (5) 財務比率等 | ----- | 56 |
| (6) キャッシュ・フローの状況 | ----- | 58 |
| むすび | ----- | 60 |
| 決算審査資料 | ----- | 62 |

- (注) 1 文中の金額は原則として万円単位で表し、表示単位未満の端数は切り捨てた。
このため、計数が一致しない場合がある。
- 2 各図表中の金額は、原則として表示の1桁下位で四捨五入した。このため、
合計と内訳の計とが一致しない場合がある。
- 3 文中及び各図表中の比率は百分率で表示し、原則として表示の1桁下位で四捨
五入した。このため、合計と内訳の計とが一致しない場合がある。

令和3年度笠岡市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和3年度笠岡市水道事業会計決算
令和3年度笠岡市下水道事業会計決算
令和3年度笠岡市病院事業会計決算

第2 審査の期間

令和4年6月29日～令和4年8月19日

第3 審査の方法

決算及び附属書類が法令に準拠して作成されているか、また、決算の計数は正確で事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかについて、諸帳簿等関係書類と照合し、必要に応じて担当職員の説明を聴取する等により審査した。

また、事業の運営については、年度比較により推移を把握し、その経営内容を分析した。

第4 審査の結果

決算及び附属書類は、法令に準拠して作成されており、諸帳簿等関係書類と照合審査の結果、計数は正確であり、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

以下、各会計ごとの審査意見は、次のとおりである。

水道事業会計

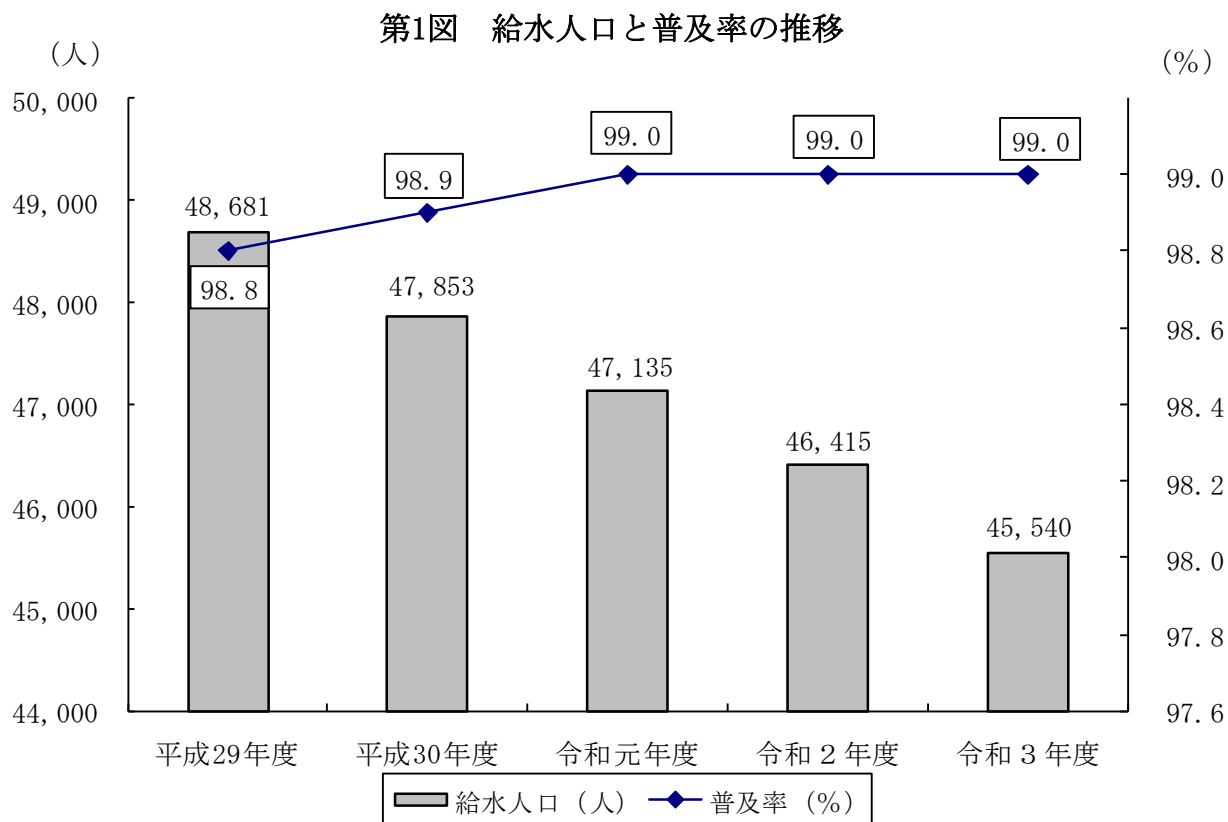
1 業務の概要（別表1「水道事業業務分析年度比較表」参照）

(1) 普及状況

令和3年度末の給水戸数は2万1,593戸で、前年度に比べ118戸減少し、給水人口は4万5,540人で、前年度に比べ875人（1.9%）減少している。また、行政区域内人口に対する普及率は99.0%で、前年度と同様である。

第1表 給水人口等の状況

| 区 分 | 平成 29年度 | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 対前年度 | |
|-------------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-------|------------|
| | | | | | | 増減 | 増減率 (%) |
| 行政区域内人口 (A) (人) | 49,268 | 48,407 | 47,613 | 46,886 | 46,003 | △ 883 | △ 1.9 |
| 給 水 人 口 (B) (人) | 48,681 | 47,853 | 47,135 | 46,415 | 45,540 | △ 875 | △ 1.9 |
| 普及率 (B/A×100) (%) | 98.8 | 98.9 | 99.0 | 99.0 | 99.0 | 0.0 | — |



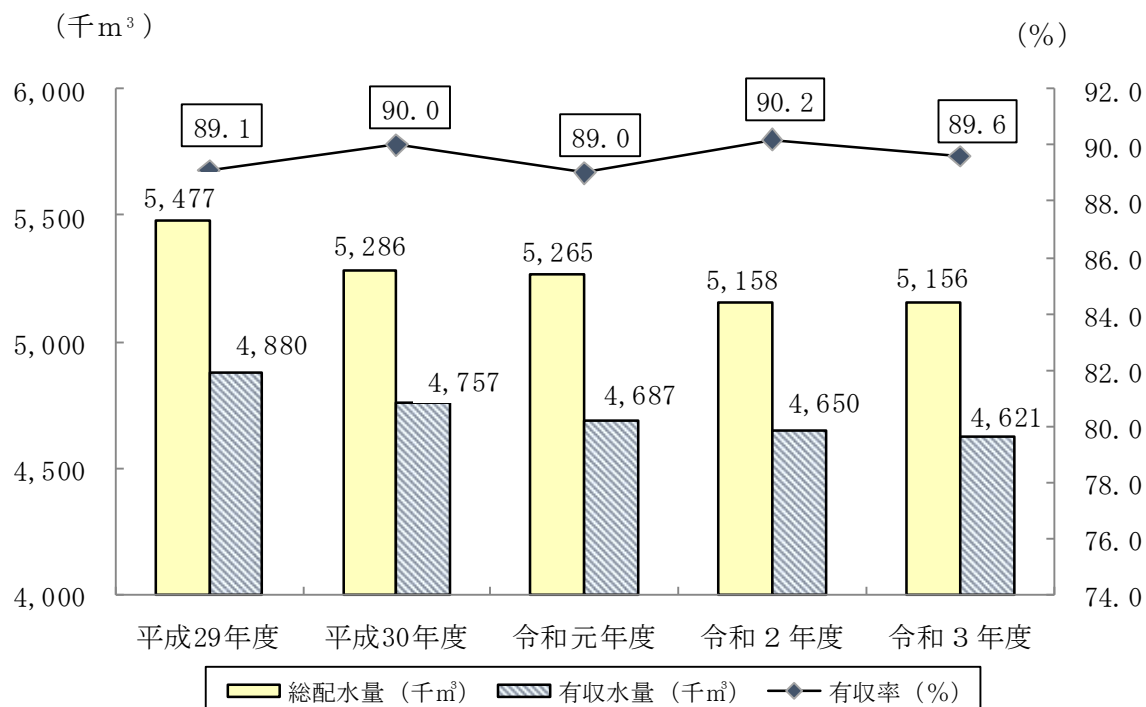
(2) 配水量等

令和3年度の年間総配水量は515万5,845 m^3 で、前年度に比べ1,927 m^3 （0.04%）減

少し、年間有収水量は462万1,350 m³で、前年度に比べ2万8,517 m³（0.61%）の減少となっている。年間総配水量の減少量に対して、年間有収水量の減少量が多いのは、漏水量が増加したためである。

また、当年度末の送水管及び配水管の総延長は0.75 km増加し、502.40 kmとなっている。

第2図 総配水量、有収水量及び有収率の推移



(3) 有収率の状況

令和3年度の有収率は、89.6%である。担当部署においては、老朽配水管の計画的な布設替や漏水調査業務の委託による漏水箇所早期発見等に尽力しているが、前年度より漏水量が増加したため、有収率は、前年度に比べ0.6ポイント低下している。

(4) 施設の利用状況（別表1「水道事業業務分析年度比較表」参照）

施設の利用状況を示す施設利用率（1日平均配水量／1日配水能力（40,000m³））は35.3%で前年度と同様である。

施設の効率性を示す負荷率（1日平均配水量／1日最大配水量）は90.4%で、前年度に比べ13.7ポイント上昇している。また、最大稼働率（1日最大配水量／1日配水能力）は39.1%で、前年度に比べ7.0ポイント低下している。これらは、1日最大配水量が1万5,631 m³と前年度に比べ2,795 m³（15.2%）減少したことによるものである。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の決算額は、13億8,214万円で、予算額を110万円上回っている。また、収益的支出の決算額は、11億6,559万円で、不用額は8,356万円となっている。

第2表 収益的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執行率 B/A | 予算額に 比べ決算 額の増減 B-A | 備 考 (決算額のうち 仮受消費税及び 地方消費税) |
|---------|------------|------------|------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 水道事業収益 | 1,381,040 | 1,382,148 | 100.1 | 1,108 | 110,115 |
| 1 営業収益 | 1,218,020 | 1,215,981 | 99.8 | △ 2,039 | 109,910 |
| 2 営業外収益 | 162,820 | 166,128 | 102.0 | 3,308 | 202 |
| 3 特別利益 | 200 | 40 | 19.8 | △ 160 | 4 |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執行率 B/A | 繰越額 C | 不用額 A-B-C | 備 考 (決算額のうち 仮払消費税及び 地方消費税) |
|---------|------------|------------|------------|----------|--------------|-------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 水道事業費用 | 1,249,160 | 1,165,594 | 93.3 | 0 | 83,566 | 66,378 |
| 1 営業費用 | 1,217,230 | 1,161,708 | 95.4 | 0 | 55,522 | 66,346 |
| 2 営業外費用 | 26,530 | 3,500 | 13.2 | 0 | 23,030 | |
| 3 特別損失 | 400 | 385 | 96.4 | 0 | 15 | 32 |
| 4 予備費 | 5,000 | 0 | 0.0 | 0 | 5,000 | |

(営業外収入のうち、消費税及び地方消費税還付予定額は、2,197千円である。)

ア 収益的収入

決算額が予算額を上回った主な理由は、営業外収益の長期前受金戻入が345万円上回ったことなどである。

イ 収益的支出

執行率は93.3%である。主な不用額は、配水及び給水費3,542万円、総係費575万円である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の決算額は、3億6,824万円で予算額を3億5,912万円下回っている。また、資本的支出の決算額は、7億6,211万円で、6億4,422万円を翌年度に繰越し、不用額は2億2,601万円となっている。

第3表 資本的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執行率 B/A | 予算額に 比べ決算 額の増減 B-A | 備 考 (決算額のうち 仮受消費税及び 地方消費税) |
|-------------|------------|------------|------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 収 入 | 727,370 | 368,247 | 50.6 | △ 359,123 | 2,031 |
| 1 企 業 債 | 400,000 | 148,000 | 37.0 | △ 252,000 | |
| 2 国 庫 補 助 金 | 161,100 | 161,103 | 100.0 | 3 | |
| 3 他会計からの出資金 | 19,880 | 14,915 | 75.0 | △ 4,965 | |
| 4 工 事 負 担 金 | 146,290 | 44,174 | 30.2 | △ 102,116 | 2,031 |
| 5 固定資産売却代金 | 100 | 54 | 54.4 | △ 46 | |
| 6 投 資 | 0 | 0 | - | 0 | |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執行率 B/A | 繰 越 額 C | 不 用 額 A-B-C | 備 考 (決算額のうち 仮払消費税及び 地方消費税) |
|---------------|------------|------------|------------|------------|----------------|-------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 支 出 | 1,632,350 | 762,118 | 46.7 | 644,220 | 226,012 | 64,870 |
| 1 建 設 改 良 費 | 1,503,360 | 738,129 | 49.1 | 644,220 | 121,011 | 64,870 |
| 2 企 業 債 償 還 金 | 23,990 | 23,989 | 100.0 | 0 | 1 | |
| 3 投 資 | 100,000 | 0 | 0.0 | 0 | 100,000 | |
| 4 予 備 費 | 5,000 | 0 | 0.0 | 0 | 5,000 | |

ア 資本的収入

決算額が予算額を下回った理由は、道路改良工事に伴う配水管布設替工事に係る工事負担金が翌年度の収入となったことなどである。

主な収入は、次のとおりである。

第1項企業債は1億4,800万円で、企業債の新規発行収入である。

第2項国庫補助金は1億6,110万円で、生活基盤施設耐震化等補助金である。

第3項他会計からの出資金は1,491万円で、消火栓設置負担金及び未給水地区解消事業企業債元金償還補助金として一般会計から繰入れられたものである。

第4項工事負担金は4,417万円で、一般家庭等の給水装置工事負担金と公共事業等に伴う配水管布設替工事負担金である。

イ 資本的支出

第1項建設改良費は、老朽配水管布設替工事、県・市道改良工事等に伴う配水管布設替工事、下水道工事に伴う配水管等布設替工事などである。決算額は7億3,812万

円で、翌年度に6億4,422万円を繰越し、不用額は1億2,101万円となっている。

第2項企業債償還金は、当年度に償還した企業債の元金であり、決算額は2,398万円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額3億9,387万円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額6,283万円、減債積立金2,300万円、建設改良積立金2億5,000万円及び過年度分損益勘定留保資金5,803万円で補てんされている。

第4表 工事等の実施状況

| 区 分 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 新設工事 | 配水管等 | 1 | 1,836 | 2 | 12,675 | 2 | 12,675 | 0 | 0 |
| | 機械・装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 改良工事 | 配水管等 | 14 | 190,418 | 24 | 570,070 | 24 | 570,070 | 11 | 408,129 |
| | 機械・装置 | 5 | 28,879 | 3 | 20,782 | 3 | 20,782 | 5 | 23,738 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3,298 |
| 合 計 | 配水管等 | 15 | 192,254 | 26 | 582,745 | 26 | 582,745 | 11 | 408,129 |
| | 機械・装置 | 5 | 28,879 | 3 | 20,782 | 3 | 20,782 | 5 | 23,738 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3,298 |

(3) 予算で定められた限度額等に対する執行状況

予算第5条に定められた企業債の限度額、第7条に定められた議会の議決を経なければ流用することができない経費、第9条に定められた、たな卸資産の購入限度額は、次のとおりいずれも予算の範囲内で執行されている。

予算第8条に定められた水道事業運営のための一般会計からの補助金については、収益的収入で212万円、資本的収入で1,191万円がそれぞれ収入されている。

第5表 予算で定められた限度額等に対する執行状況

| 条項 | 区 分 | 予算(限度額) | 執 行 額 | 予算(限度額)との比較 |
|----|------------|---------|---------|-------------|
| | | 千円 | 千円 | 千円 |
| 5 | 企 業 債 | 148,000 | 148,000 | 0 |
| 7 | 職 員 給 与 費 | 146,670 | 142,881 | △ 3,789 |
| | 交 際 費 | 50 | 0 | △ 50 |
| 8 | 他会計からの補助金 | 14,070 | 14,043 | △ 27 |
| 9 | たな卸資産購入限度額 | 21,880 | 10,159 | △ 11,721 |

3 経営成績（別表2「水道事業比較損益計算書」及び「決算報告書中の損益計算書」参照）

(1) 損益状況

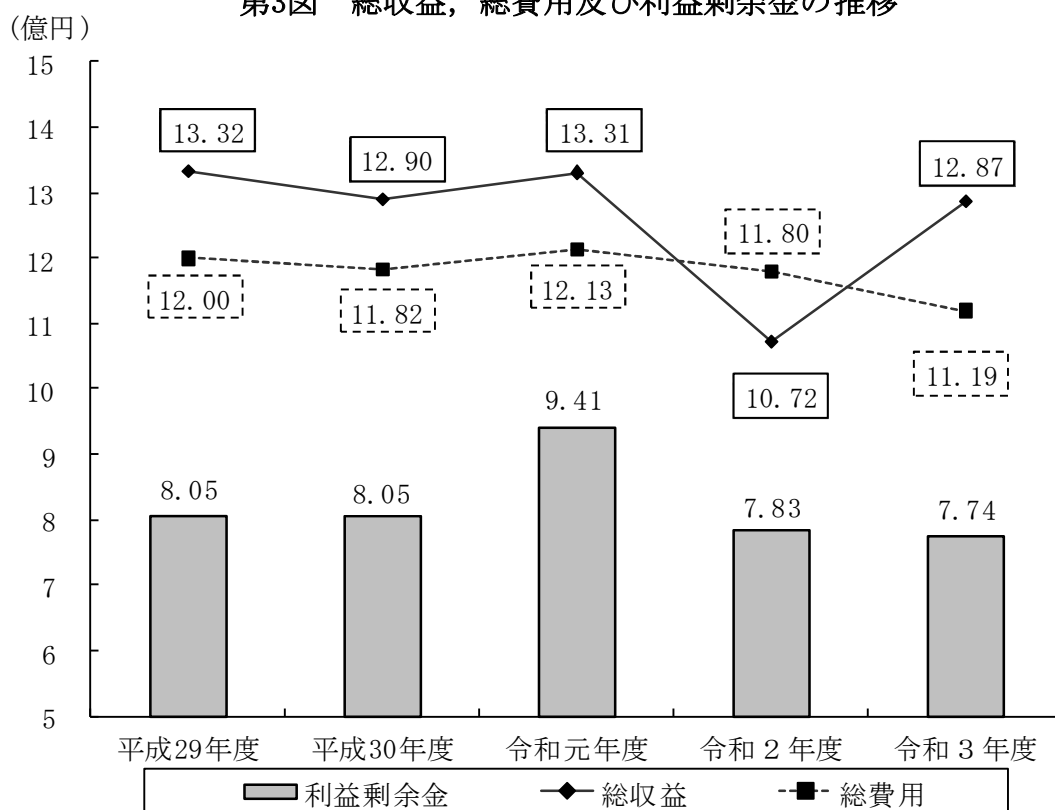
当年度は、総収益12億8,667万円（前年度に比べ2億1,474万円，20.0%の増），総費用11億1,924万円（前年度に比べ6,037万円，5.1%の減）で、差引き1億6,743万円の当年度純利益を計上している。これは、前年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により経済的な影響を受けた給水契約者への支援として、全給水契約者の水道料金の4月から9月までの6か月分の基本料金を免除したことにより、1億767万円の純損失であったが、当年度は、通常の収益を確保できたためである。

第6表 年度別総収益, 総費用比較表

| 区分 年度 | 総収益 A 千円 | 総費用 B 千円 | 純損益 A-B 千円 | 総収支比率 A/B % |
|----------|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| 平成 29 | 1,332,014 | 1,199,815 | 132,200 | 111.0 |
| 30 | 1,290,086 | 1,182,278 | 107,807 | 109.1 |
| 令和 元 | 1,330,612 | 1,212,842 | 117,769 | 109.7 |
| 2 | 1,071,937 | 1,179,612 | △ 107,675 | 90.9 |
| 3 | 1,286,679 | 1,119,242 | 167,437 | 115.0 |

前年度末の未処分利益剰余金6,893万円については、議会の議決を経て、自己資本金に1億7,600万円を組入れたことにより、繰越欠損金が1億706万円となっている。当年度末の未処分利益剰余金は、前年度繰越欠損金1億706万円に目的充当済み未処分利益剰余金2億7,300万円と、当年度純利益1億6,743万円を加えて、3億3,337万円となっている。処分済利益剰余金と合わせた利益剰余金合計額は7億7,437万円である。

第3図 総収益，総費用及び利益剰余金の推移



経常的な損益を示す経常収支についてみると、経常収益（営業収益と営業外収益との合計額）は12億8,664万円（前年度に比べ2億1,582万円，20.1%の増），経常費用（営業費用と営業外費用との合計額）は11億1,888万円（前年度に比べ1,954万円，1.7%の減）で、差引き1億6,775万円の経常利益を生じ、前年度に比べ2億3,537万円の増益となっている。経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合を示し、企業の収益性を見る際の代表的な指標）は、前年度より20.9ポイント上昇して115.0%となっている。

第7表 年度別経常損益比較表

| 区分 年度 | 経常収益 A | 経常費用 B | 経常損益 A-B | 経常収支比率 A/B |
|----------|-----------|-----------|-------------|---------------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 平成 29 | 1,330,853 | 1,191,091 | 139,762 | 111.7 |
| 30 | 1,289,537 | 1,182,182 | 107,355 | 109.1 |
| 令和 元 | 1,326,868 | 1,155,198 | 171,669 | 114.9 |
| 2 | 1,070,814 | 1,138,437 | △ 67,623 | 94.1 |
| 3 | 1,286,643 | 1,118,888 | 167,755 | 115.0 |

(2) 事業収益

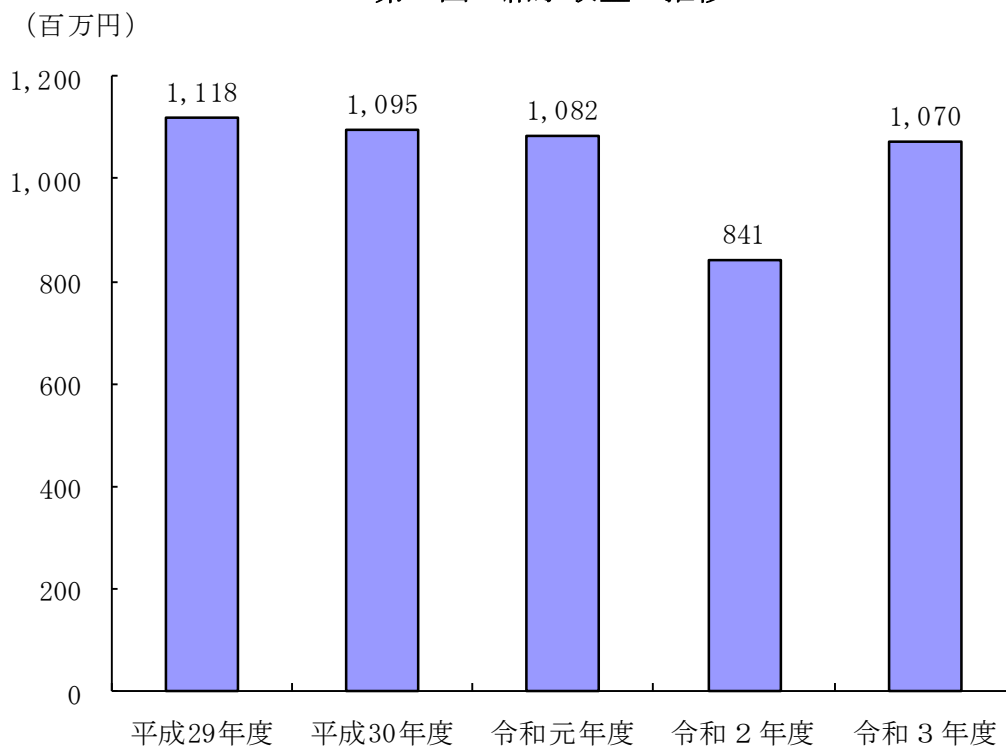
総収益は 12 億 8,667 万円で、前年度に比べ 2 億 1,474 万円増加している。

ア 営業収益

営業収益は 11 億 607 万円で、前年度に比べ 2 億 2,631 万円 (25.7%) 増加している。
給水収益 (水道料金) は 10 億 6,968 万円で総収益の 83.1% を占めている。

その他の営業収益は 3,639 万円で、前年度に比べ 241 万円 (6.2%) 減少している。
内訳は、下水道使用料収納事務受託収入等の雑収益 3,059 万円、岡山県西南水道企業団負担金などの他会計負担金 511 万円などである。

第 4 図 給水収益の推移



水道料金 (令和 4 年 6 月末現在での令和 3 年度 (現年) 分) の収納率は 98.6% で、高水準を維持している。今後とも、長期滞納の未然防止に取組み、良好な収納率の維持に努められたい。

イ 営業外収益

営業外収益は 1 億 8,057 万円で、前年度に比べ 1,047 万円 (5.5%) 減少している。

他会計補助金 212 万円は、未給水地区解消事業企業債に係る利息支払の補助金、児童手当に係る経費負担の補助金等として一般会計から繰入れられたものである。

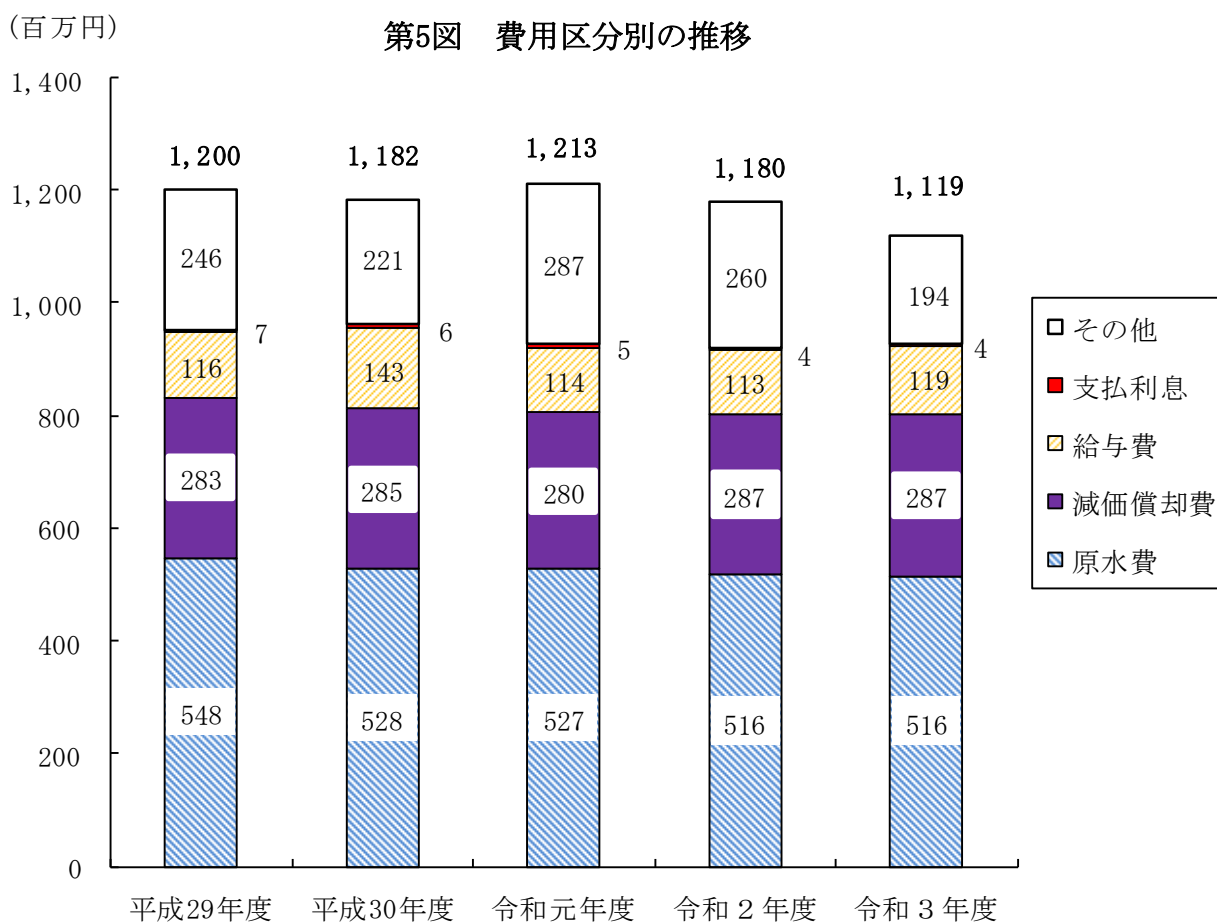
長期前受金戻入 1 億 4,751 万円は、償却資産の取得に伴い交付された補助金等の当

年度の減価償却見合分が収益化されたもので、前年度に比べ 291 万円（1.9%）減少している。

雑収益 3,070 万円は、施設使用料収入などで、前年度に比べ 304 万円（9.0%）減少している。これは、海底送水管の漏水事故に対する保険金が減少したことなどによるものである。

(3) 事業費用

総費用は 11 億 1,924 万円で、前年度に比べ 6,037 万円（5.1%）減少している。



ア 営業費用

営業費用は 10 億 9,536 万円で、前年度に比べ 2,210 万円（2.0%）減少している。

原水費は 5 億 1,585 万円で、総費用の 46.1%を占めている。これは、岡山県西南水道企業団水道用水供給事業からの受水費で、前年度に比べ 22 万円（0.0%）減少しているもののおおむね前年並みである。

配水及び給水費は 1 億 6,538 万円で、前年度に比べ 2,352 万円（12.5%）減少している。これは、委託料の減少（1,354 万円）、修繕料の減少（1,311 万円）などによるもの

のである。

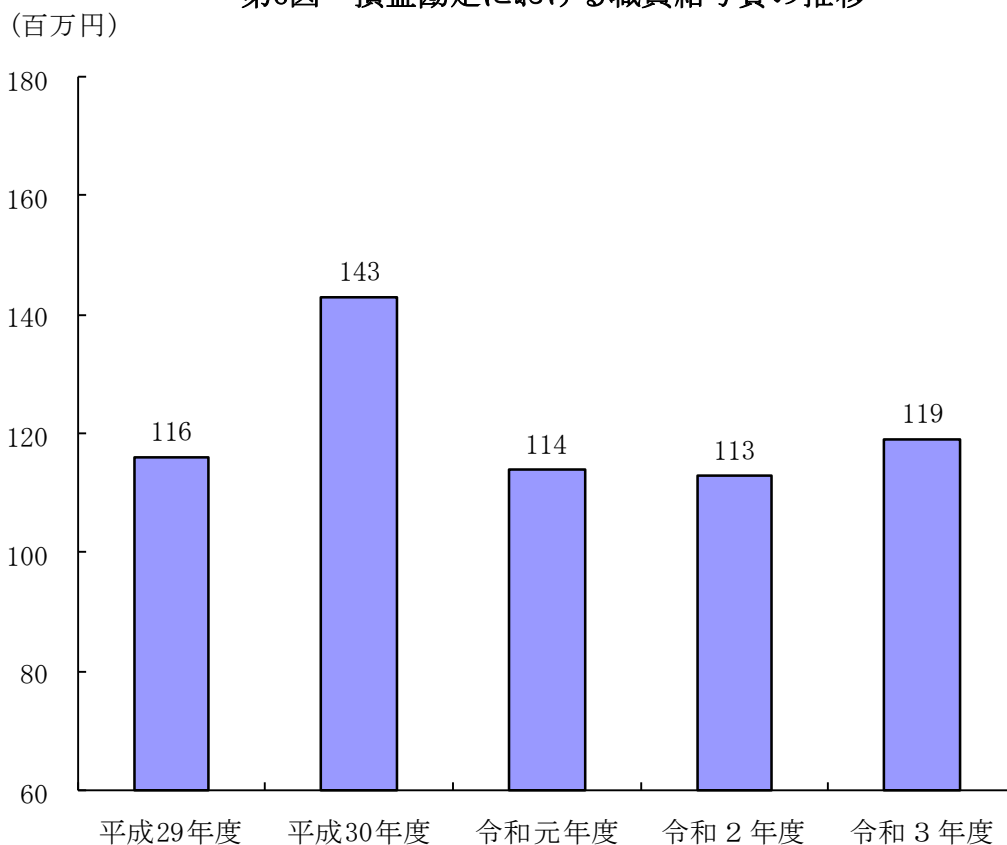
総係費は1億1,634万円で、前年度に比べ663万円(6.0%)増加している。これは、給料が216万円、退職給付費が169万円、修繕費が280万円、貸倒引当金繰入額が104万円増加したことなどによるものである。

減価償却費は2億8,707万円で総費用の25.6%を占めており、前年度に比べ14万円(0.1%)減少している。

資産減耗費は1,071万円で、前年度に比べ483万円(31.1%)減少している。これは、当年度布設替えした配水管は減価償却が進んだ古い配水管が多く、固定資産除却費が199万円減少したこと、また、たな卸資産減耗費が285万円減少したことなどによるものである。

損益勘定における職員給与費(給料、手当、賞与引当金繰入額、法定福利費及び退職給付費の合計)は1億1,878万円で、前年度に比べ594万円(5.3%)増加している。

第6図 損益勘定における職員給与費の推移



- ※ 令和元年度以前は、全職員の給与費を損益勘定とし、嘱託職員・臨時職員の給与費は除いた額としている。
- ※ 令和2年度は、職員5名分の給与費を損益勘定から資本勘定に移行した。また、嘱託職員・臨時職員が会計年度任用職員に移行したことにより、会計年度任用職員の給与費を含めた額としている。
- ※ 令和3年度は、資本勘定に職員4名分の職員給与費を含む。

イ 営業外費用

営業外費用は 2,352 万円で、前年度に比べ 255 万円（12.1%）増加している。

このうち、企業債利息は 350 万円で、前年度に比べ 25 万円（6.8%）減少しており、平成 25 年度以降、連続の減少となっている。雑支出は 2,002 万円で、前年度に比べ 280 万円（16.3%）増加している。

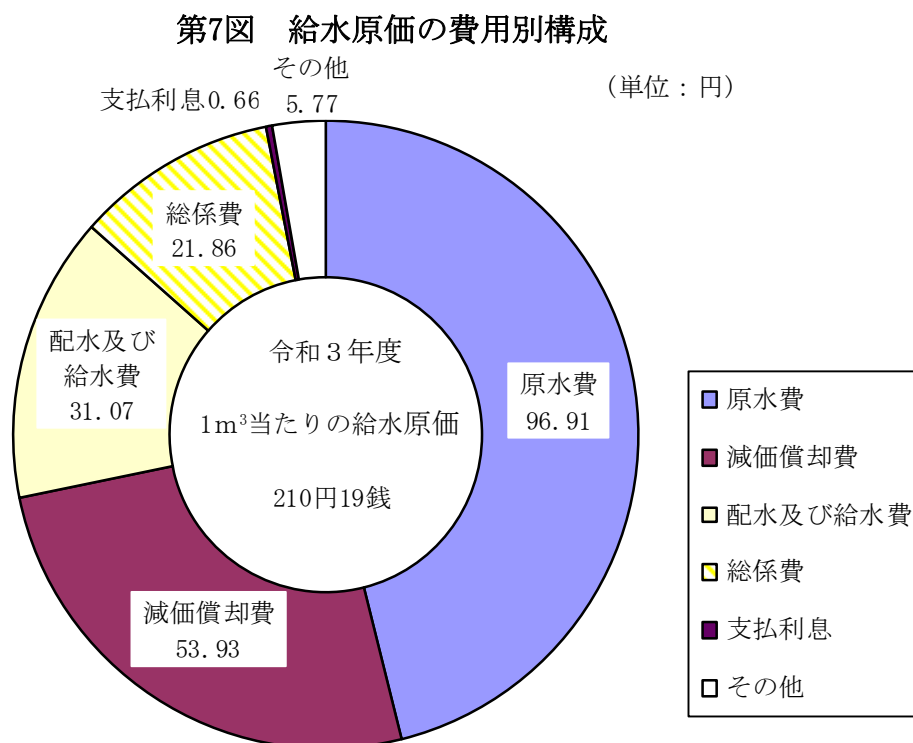
ウ 特別損失

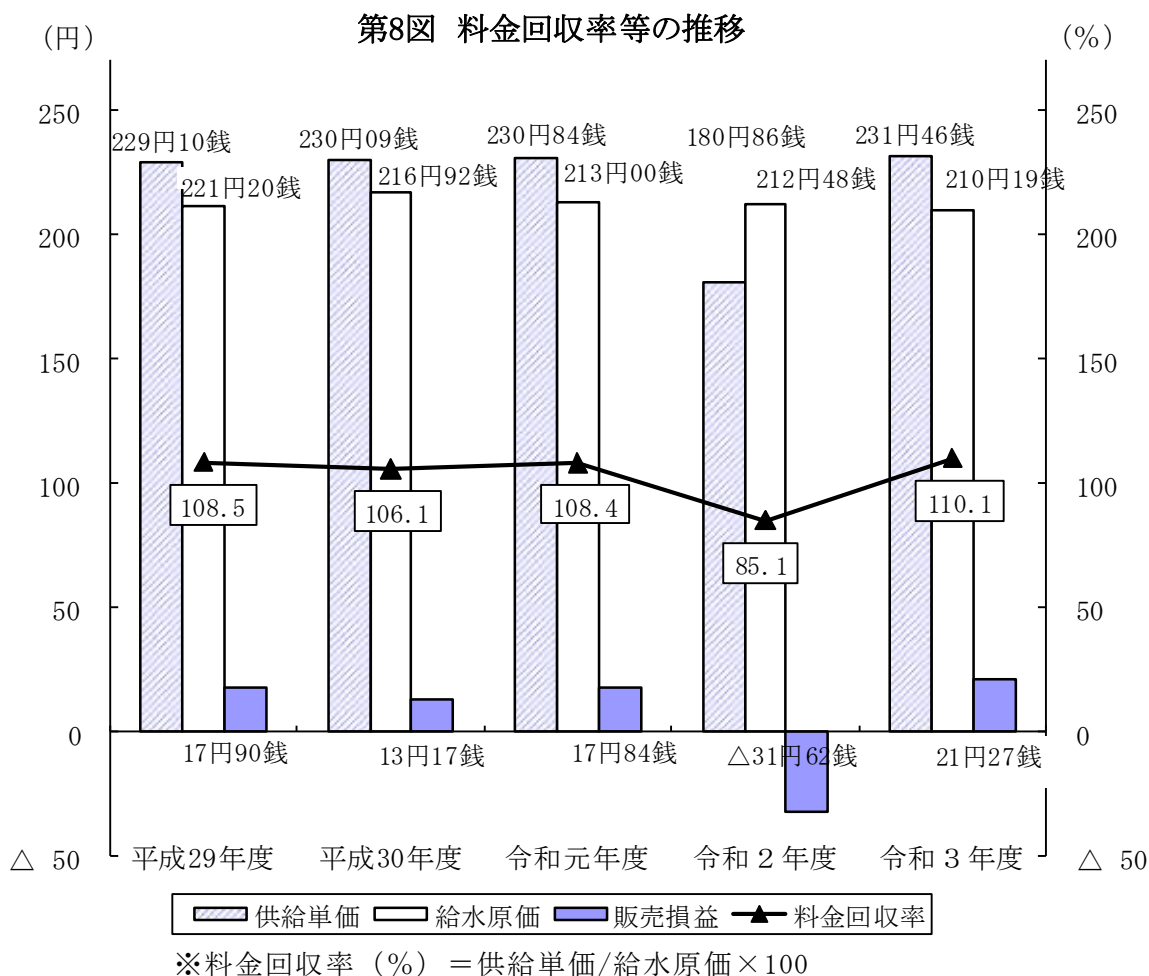
特別損失は 35 万円で、前年度に比べ 4,082 万円（99.1%）減少している。これは、前年度で処理した過大計上していた流動資産の損失計上（4,117 万円）が皆減となったことによる。

(4) 供給単価と給水原価

有収水量 1m³ 当たりの給水収益（供給単価）は 231 円 46 銭で、前年度に比べ 50 円 60 銭増加した。これは、前年度は、水道料金の基本料金を 6 か月分免除したことにより減少した給水収益が、前々年度並みに回復したことによるものである。一方、1m³ 当たりの水を供給するための費用（給水原価）は 210 円 19 銭と、前年度に比べ 2 円 29 銭減少している。この結果、1m³ 当たりの利益は 21 円 27 銭となり、前年度に比べ販売損益は 52 円 89 銭増加している。

給水原価が供給単価でどれだけ賄われているかをみる料金回収率は、110.1%となり、前年度に比べ 25.0 ポイント上昇している。





4 財政状態 (別表3「水道事業比較貸借対照表」及び「決算報告書中の貸借対照表」参照)

当年度末における資産は100億4,528万円、負債は43億979万円、資本は57億3,548万円となっている。

(1) 資産

当年度末における資産の総額は100億4,528万円で、前年度末に比べ3億8,937万円(4.0%)増加している。

ア 固定資産

固定資産は78億4,377万円で、前年度末に比べ3億8,779万円(5.2%)増加している。

有形固定資産は75億3,826万円で、構築物などの増加により、前年度末に比べ3億8,827万円増加している。

無形固定資産は3億550万円で、ソフトウェア(会計システム)の減価償却により、前年度末に比べ48万円減少している。

第8表 長期貸付金残高の内訳

| 区 分 貸 付 先 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | 残 高 | 残 高 | 残 高 | 残 高 | 残 高 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 岡山県西南水道企業団 | 104,690 | 65,628 | 26,566 | — | — |
| 計 | 104,690 | 65,628 | 26,566 | — | — |

イ 流動資産

流動資産は22億151万円で、前年度末に比べ158万円増加している。これは、未収金が1,887万円減少したものの、現金預金が1,165万円、前払金が1,040万円増加したことなどによるものである。

未収金は5億7,546万円で、その内訳は、営業未収金3億9,349万円、営業外未収金432万円及びその他未収金1億7,765万円となっている。営業未収金の内訳は、未収給水収益3億6,014万円（うち、現年度未収金3億5,773万円）及び未収その他営業収益3,335万円となっている。その他未収金は、下水道使用料徴収事務費などである。また、貸倒引当金は181万円となっている。

当年度末現在の過年度未収金は241万円で、前年度に比べ211万円（46.7%）減少、件数は、467件で前年度に比べ406件（46.5%）減少しており、不納欠損は、41件51万円となっている。今後とも滞納の未然防止と債権の適切な管理に留意されたい。

第9表 過年度未収金及び不納欠損額

| 区 分 | | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 過年度 未収金 | 件数(件) | 865 | 816 | 821 | 873 | 467 |
| | 金額(千円) | 5,069 | 4,879 | 5,288 | 4,527 | 2,412 |
| 不 納 欠 損 額 | 件数(件) | 0 | 23 | 42 | 0 | 41 |
| | 金額(千円) | 0 | 88 | 140 | 0 | 510 |

※消費税及び地方消費税を含む。

貯蔵品の翌年度への繰越額は1,052万円で、前年度末に比べ115万円（9.9%）減少している。

(2) 負 債

当年度末における負債総額は43億979万円で、前年度末に比べ2億702万円（5.0%）増加している。これは、工事請負費に係る未払金の増加、企業債の発行などによるものである。また、当年度の企業債発行額は1億4,800万円、償還額は2,398万円、未

償還残高は3億6,573万円となっている。総債務残高（固定負債＋流動負債）は10億2,016万円で、前年度に比べ1億5,507万円（17.9%）増加している。

ア 固定負債

固定負債は4億2,926万円で、前年度末に比べ1億799万円（33.6%）増加している。これは、企業債の発行によるものである。

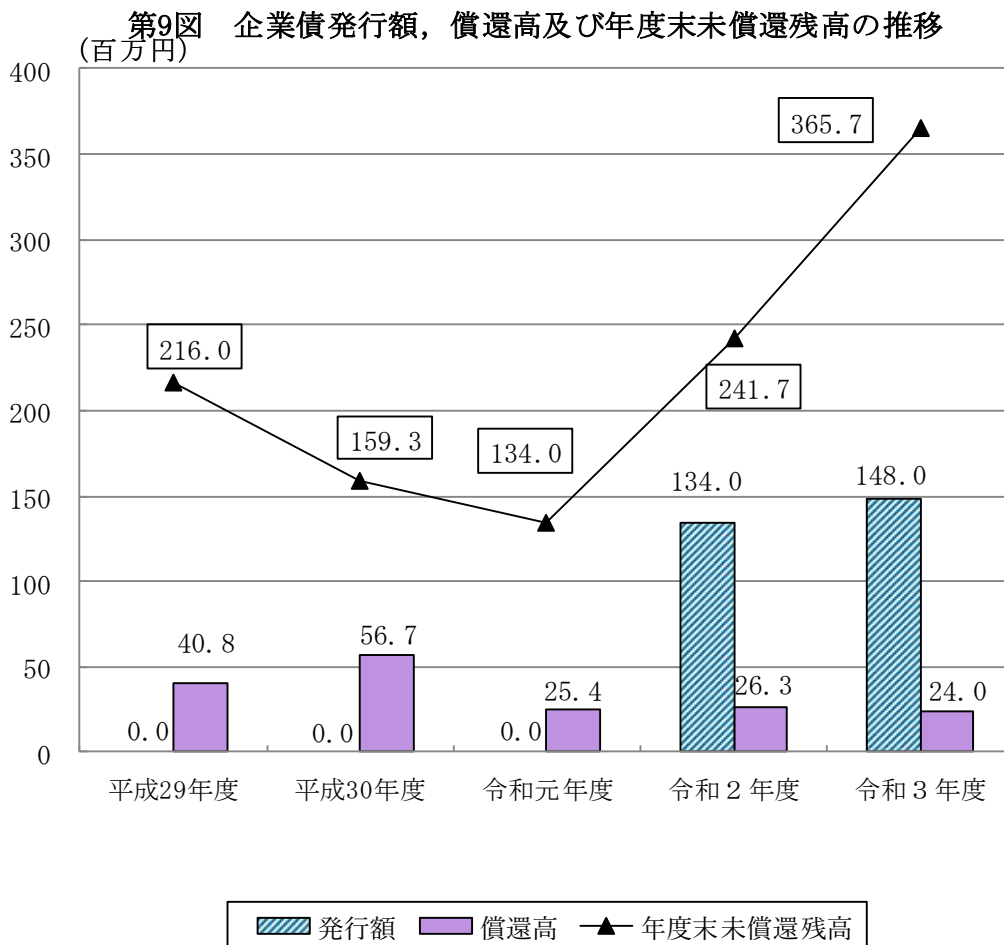
イ 流動負債

流動負債は5億9,089万円で、前年度末に比べ4,708万円（8.7%）増加している。

企業債は2,815万円で、前年度末に比べ417万円（17.4%）増加している。

未払金は4億5,580万円で、前年度末に比べ3,426万円（8.1%）増加している。その内訳は、営業未払金8,148万円、その他未払金（工事請負費等）3億7,431万円となっている。

その他流動負債は9,739万円で、前年度末に比べ795万円（8.9%）増加している。その内訳は、預り保証金8,519万円、諸預り金1,160万円である。



当年度末企業債未償還残高の借入先別内訳は，次のとおりである。

第10表 企業債未償還残高の内訳

| 借入先 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 残高 | 残高 | 残高 | 残高 | 残高 | 構成比 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 財務省財政融資資金 | 125,046 | 107,966 | 92,547 | 210,586 | 342,060 | 93.5 |
| 地方公共団体金融機構 | 60,994 | 51,374 | 41,425 | 31,135 | 23,672 | 6.5 |
| 市中銀行 | 30,000 | — | — | — | — | — |
| 計 | 216,039 | 159,340 | 133,972 | 241,721 | 365,732 | 100.0 |

ウ 繰延収益

繰延収益は32億8,963万円で，前年度に比べ5,195万円（1.6%）増加している。これは，償却資産の取得に際して交付された補助金，工事負担金等の長期前受金80億8,029万円から，減価償却見合分の長期前受金収益化累計額47億9,065万円を差引いたものである。

(3) 資 本

当年度末における資本総額は57億3,548万円で、前年度末に比べ1億8,235万円(3.3%)増加している。

ア 資本金

資本金は43億940万円で、前年度末に比べ1億9,091万円(4.6%)増加している。これは、目的充当済み未処分利益剰余金1億7,600万円を組入れたこと及び他会計からの出資金1,492万円を繰入れたことによるものである。

イ 剰余金

剰余金は14億2,608万円で、前年度末に比べ856万円(0.6%)減少している。

資本剰余金は6億5,170万円で、前年度末と同額である。これは、土地などの非減価償却資産の取得に際して交付された補助金、工事負担金等で、長期前受金に含まれないものである。

利益剰余金は7億7,437万円で、前年度末に比べ856万円(1.1%)減少している。その内訳は、減債積立金1億5,100万円、建設改良積立金2億9,000万円、未処分利益剰余金3億3,337万円となっている。

(4) 他会計からの繰入金

当年度における他会計からの繰入金は1,860万円で、前年度に比べ781万円(29.6%)減少している。これは、経営戦略の策定に係る経費負担補助金341万円が皆減となったことや消火栓設置費負担金が202万円減少したことなどによるものである。

第11表 他会計からの繰入金の状況

| 年度 | 他会計負担金及び 他会計補助金 | | 計 | | 他会計 出資金 | | 合 計 ③+④ | 指数 |
|----|--------------------|------------|-------|----------------|------------|----------------|------------|-----|
| | 営業収益 ① | 営業外収益 ② | ①+②=③ | ③のうち基 準内繰入金 | ④ | ④のうち基 準内繰入金 | | |
| 平成 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| 29 | 2,240 | 4,469 | 6,709 | 3,266 | 20,365 | 7,092 | 27,074 | 100 |
| 30 | 2,074 | 3,860 | 5,934 | 3,036 | 17,066 | 4,868 | 23,000 | 85 |
| 令和 | | | | | | | | |
| 元 | 1,084 | 3,420 | 4,504 | 2,104 | 16,421 | 3,731 | 20,925 | 77 |
| 2 | 2,637 | 6,294 | 8,931 | 7,032 | 17,487 | 5,020 | 26,418 | 98 |
| 3 | 1,559 | 2,127 | 3,686 | 2,263 | 14,915 | 3,000 | 18,602 | 69 |

(指数は平成29年度を100として比較)

(5) 財務比率等（別表4「水道事業財務分析比率年度比較表」参照）

ア 収益率

(ア) 営業損益及び営業収支比率

当年度の営業利益は1,070万円で、前年度に比べ2億4,839万円（2,321.4%）の増益となり、営業損失に陥った平成29年度来の5期ぶりの利益計上となった。前年度は、水道料金の基本料金を6か月分免除したことにより給水収益は大きく減少した。当年度は、前々年度並みの収益を確保した。

当年度の営業収支比率（営業活動に要する費用が、営業活動から生じた収益でどの程度賄われているかを示す指標）は101.0%で、前年度に比べ22.3ポイント上昇している。

(イ) 経常損益及び経常収支比率

当年度の経常損益は営業利益の改善を受けて1億6,775万円の利益で、前年度に比べ2億3,537万円（140.3%）の増益である。これは、今年度は、前年度の水道料金の基本料金の6か月分免除がなかったことによる営業収益の増などによるものである。

当年度の経常収支比率（通常の事業活動に要する費用が、通常の事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標）は115.0%で、前年度に比べ20.9ポイント上昇している。

(ウ) 純損益及び総収支比率

当年度の純損益は、1億6,743万円の利益となり、前年度に比べ2億7,511万円（164.3%）増加している。

当年度の総収支比率（事業活動に要する費用が、事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標）は115.0%で、前年度に比べ24.1ポイント上昇している。

なお、これらの指標は、100%を超えて比率が高いほど経営成績が良好とされている。

第12表 営業損益、経常損益及び純損益の状況

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|----------|----------|---------|-----------|---------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 営業損益 ① (営業収益－営業費用) | △ 22,940 | △ 41,715 | △ 8,984 | △ 237,697 | 10,709 |
| 経常損益 ② (①＋営業外収益－営業外費用) | 139,762 | 107,355 | 171,669 | △ 67,623 | 167,755 |
| 純損益 (②＋特別利益－特別損失) | 132,200 | 107,807 | 117,769 | △ 107,675 | 167,437 |

第13表 収支比率の推移

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| | % | % | % | % | % |
| 営業収支比率 (営業収益／営業費用×100) | 98.0 | 96.4 | 99.2 | 78.7 | 101.0 |
| 経常収支比率 (経常収益／経常費用×100) | 111.7 | 109.1 | 114.9 | 94.1 | 115.0 |
| 総収支比率 (総収益／総費用×100) | 111.0 | 109.1 | 109.7 | 90.9 | 115.0 |

イ 構成比率

財務状態の長期的な安全性をみる構成比率のうち、固定資産構成比率（小さいほどよい）は78.1%で、前年度に比べ0.9ポイント上昇している。これは、老朽配水管の更新による固定資産の増加などによるものである。

固定負債構成比率（小さいほどよい）は4.3%で、前年度に比べ1.0ポイント上昇している。これは、企業債の発行などによるものである。

自己資本構成比率（大きいほどよい）は89.8%で、前年度に比べ1.2ポイント低下している。これは、利益剰余金の減などによるものである。

ウ 財務比率

財務比率のうち、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較した流動比率（200%以上が適当）は372.6%で、前年度に比べ31.9ポイント低下している。

流動負債に対する現金・預金、換金性の高い未収金等の当座資産の割合を示し、短期債務に対する支払能力をみる当座比率（100%以上が適当）は366.6%で、前年度に比べ33.1ポイント低下している。また、流動負債に対する現金預金の割合を示す現金預金比率（20%以上が適当）は269.5%で、前年度に比べ21.2ポイント低下している。

また、自己資本と他人資本との割合によって経営の健全性を表す負債比率（100%以下が適当）は11.3%で、前年度に比べ1.5ポイント上昇している。

(6) キャッシュ・フローの状況 (別表5「キャッシュ・フロー計算書」参照)

資金期末残高は15億9,242万円で、前年度に比べ1,165万円(0.7%)増加している。これは、業務活動によるキャッシュ・フローが当年度純利益の増加などにより1億6,317万円増加、投資活動によるキャッシュ・フローが固定資産の取得による支出の増加などにより6,825万円減少したこと、財務活動によるキャッシュ・フローが1,571万円増加したことなどによるものである。

第14表 キャッシュ・フロー計算書(概要)

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 対前年度 | |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | | | | | | 増減額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 業務活動による キャッシュ・フロー (A) | 273,486 | 278,440 | 260,300 | 194,522 | 357,694 | 163,172 | 83.9 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (B) | △ 145,964 | △ 133,786 | △ 307,168 | △ 475,137 | △ 481,962 | △ 6,825 | 1.4 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (C) | △ 40,777 | △ 56,700 | △ 25,367 | 120,215 | 135,926 | 15,711 | 13.1 |
| 資金増減額 (A)+(B)+(C) | 86,745 | 87,954 | △ 72,235 | △ 160,400 | 11,658 | 172,058 | △ 107.3 |
| 資金期首残高 | 1,638,704 | 1,725,449 | 1,813,403 | 1,741,167 | 1,580,768 | △ 160,400 | △ 9.2 |
| 資金期末残高 | 1,725,449 | 1,813,403 | 1,741,167 | 1,580,768 | 1,592,426 | 11,658 | 0.7 |

む す び

令和3年度水道事業会計決算の概要は、以上のとおりである。

当年度の給水人口は4万5,540人で、前年度に比べ875人減少し、行政区域内人口に対する普及率は99.0%となっている。年間総配水量は515万5,845^mで、前年度に比べ1,927^m減少しており、年間有収水量は462万1,350^mで、前年度に比べ2万8,517^m減少している。有収率は89.6%と、前年度に比べ0.6ポイント低下している。

経営成績については、総収益は12億8,667万円、総費用は11億1,924万円で、その結果、収益的収支において1億6,743万円の当年度純利益が生じている。本業の営業損益は5期ぶりに黒字となった。その要因は、前年度に実施した水道料金の基本料金の6か月分、額にして約2億3千万円の免除を当年度は実施しなかったことにより、本来の収益を確保したことである。

事業運営の基本となる1^m当たりの供給単価は231円46銭、給水原価は210円19銭で、販売損益は21円27銭の黒字となり、前年度に比べ52円89銭の増益となっている。

キャッシュ・フローについては、前年度に比べ資金が1,165万円増加している。これは、基本料金の免除を当年度は実施しなかったため料金収入の増収により当年度純利益が増加したことによる。

本市は、昭和40年代から昭和50年代に建設された水道施設の老朽化への対策として、平成30年3月に「笠岡市水道事業更新計画（中長期更新計画）」を策定した。令和元年度に重要管路及び施設の更新事業に着手し、当年度は更新事業の3年目である。更新事業は計画に沿って実施されている。当年度の有収率は前年度を下回ったが、老朽管路における漏水対策には管路の更新が最も有効であることから、同計画に沿って施設の更新に努められたい。

「笠岡市水道事業経営戦略（令和2年度～令和21年度）」（令和3年3月策定）、「笠岡市水道事業ビジョン（平成29年度～令和8年度）」（中間見直し令和3年3月）に示す将来の事業環境においては、年次的な給水人口の減少にともなう水需要（有収水量）の減少を見込んでいる。水需要の逡減傾向を考慮すると、当年度以降における給水収益の維持は容易ではなく、ましてや増収は難しいであろう。更新のみならず維持管理費用等の増加が見込まれることから、一層の経営の効率化が求められることになる。水道施設においては、今後の水需要の動向に適合した更新並びに適正規模の検討を的確に行うとともに、年度毎に喫緊の課題を見極め、中長期更新計画と照らし合わせながら、安定した経営基盤を築くため限られた財源を有効活用されたい。

また、近年特に懸念される自然現象に起因する水道施設の被害については、未然防止措置とともに、被災時における被害想定のもとでの施設の復旧に必要な対応についても留意されたい。

本市の水道事業は、現在の普及率99.0%を達成する過程において施設の整備のみならず水

源確保に要する多大の困難を克服してきた。このことを念頭に、安全で安心、良質な水の安定供給を次世代へつないでいくよう望むものである。

下水道事業会計

1 業務の概要（別表7「下水道事業業務分析表」参照）

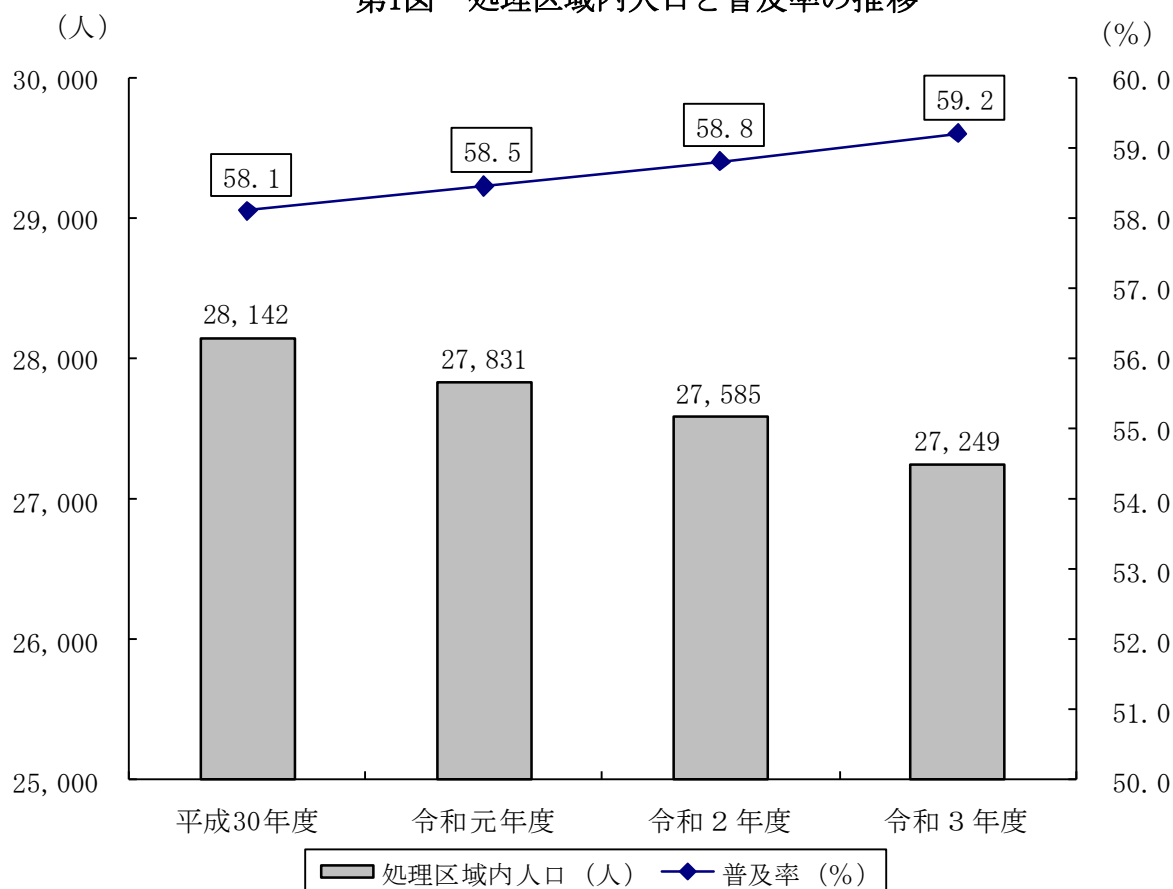
(1) 普及状況

令和3年度末の処理区域内人口は2万7,249人で、前年度に比べ336人減少している。また、行政区域内人口に対する普及率は59.2%で、前年度に比べ0.4ポイント上昇している。

第1表 普及率等の状況

| 区 分 | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 対前年度 | |
|-------------------|------------|-----------|-----------|-----------|-------|------------|
| | | | | | 増減 | 増減率 (%) |
| 行政区域内人口 (A) (人) | 48,407 | 47,613 | 46,886 | 46,003 | △ 883 | △ 1.9 |
| 処理区域内人口 (B) (人) | 28,142 | 27,831 | 27,585 | 27,249 | △ 336 | △ 1.2 |
| 普及率 (B/A×100) (%) | 58.1 | 58.5 | 58.8 | 59.2 | 0.4 | — |

第1図 処理区域内人口と普及率の推移



(2) 汚水処理水量等

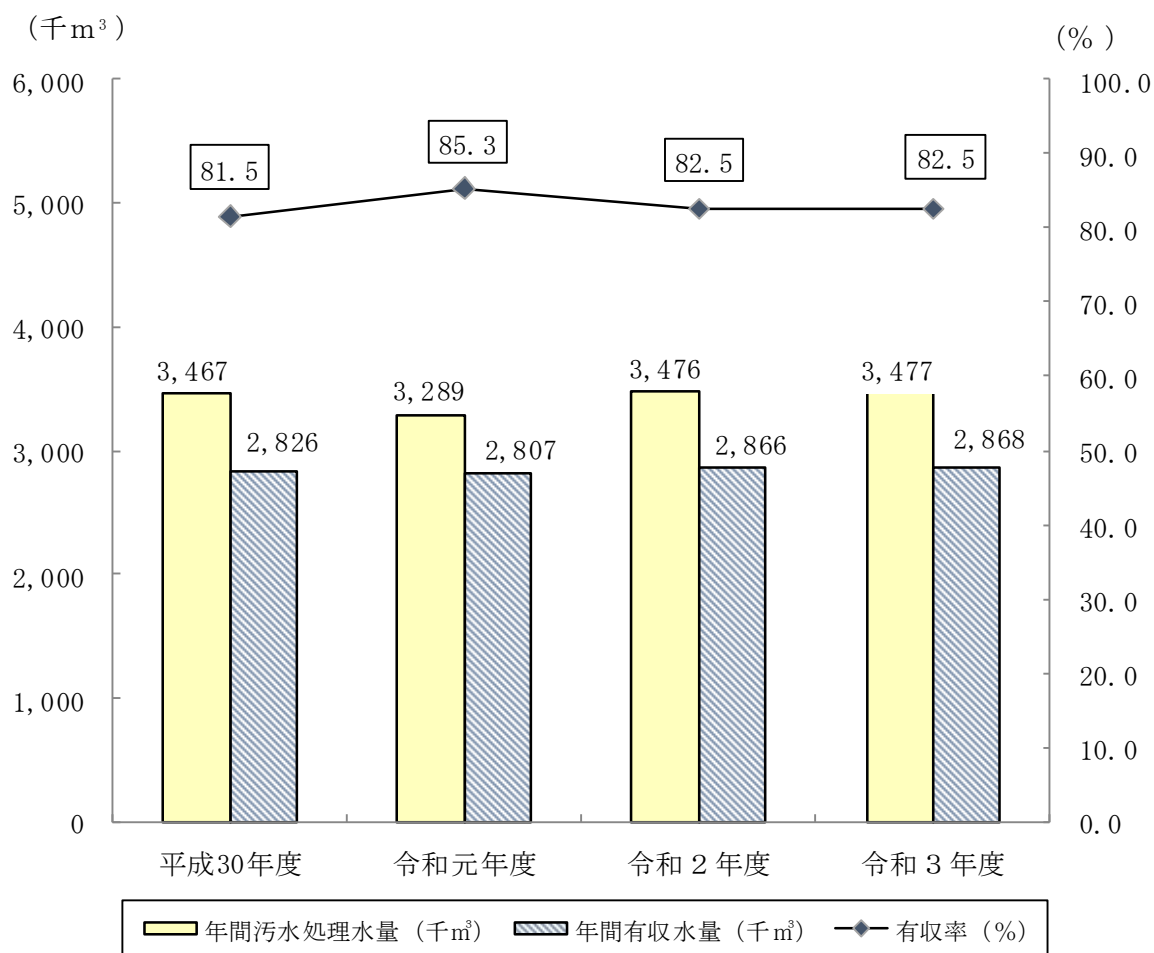
年間汚水処理水量は 347 万 6,837 m^3 で、前年度に比べ 1,084 m^3 (0.03%) 増加し、年間有収水量は 286 万 7,548 m^3 で前年度に比べ 1,361 m^3 (0.05%) の増加となっている。

また、汚水管渠延長は 225 km で、前年度末に比べ 2 km 増加している。

(3) 有収率の状況

有収率は 82.5% で、前年度と同率となっている。

第2図 年間汚水処理水量、年間有収水量及び有収率の推移



2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の決算額は、15 億 6,980 万円で、予算を 701 万円上回っている。また、収益的支出の決算額は、14 億 8,644 万円で、不用額は 1,569 万円となっている。

第2表 収益的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 予算額に 比べ決算 額の増減 | 備 考 |
|---------|-----------|-----------|-------|----------------------|------------------------------|
| | A | B | B/A | B-A | (決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税) |
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 下水道事業収益 | 1,562,790 | 1,569,809 | 100.4 | 7,019 | 47,041 |
| 1 営業収益 | 719,300 | 723,505 | 100.6 | 4,205 | 46,802 |
| 2 営業外収益 | 843,460 | 846,304 | 100.3 | 2,844 | 238 |
| 3 特別利益 | 30 | 0 | 0.0 | △ 30 | 0 |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 繰越額 | 不用額 | 備 考 |
|---------|-----------|-----------|-------|-----|--------|------------------------------|
| | A | B | B/A | C | A-B-C | (決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税) |
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 下水道事業費用 | 1,502,140 | 1,486,448 | 99.0 | 0 | 15,692 | 28,234 |
| 1 営業費用 | 1,304,431 | 1,289,770 | 98.9 | 0 | 14,661 | 28,234 |
| 2 営業外費用 | 196,679 | 196,679 | 100.0 | 0 | 0 | |
| 3 特別損失 | 30 | 0 | 0.0 | 0 | 30 | |
| 4 予備費 | 1,000 | 0 | 0.0 | 0 | 1,000 | |

(営業外費用のうち、消費税及び地方消費税納付予定額は、1,790千円である。)

ア 収益的収入

決算額が予算額を上回った理由は、営業収益中の下水道使用料が643万円上回ったことなどである。

イ 収益的支出

執行率は99.0%である。不用額は、営業費用の管渠費1,105万円、処理場費305万円などである。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の決算額は6億7,471万円で予算額を1億1,742万円下回っている。また、資本的支出の決算額は13億4,699万円で、1億9,000万円を翌年度に繰越し、不用額は1,330万円となっている。

第3表 資本的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 予算額に 比べ決算 額の増減 | 備 考 (決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税) |
|-----------|---------|---------|-------|----------------------|-------------------------------------|
| | A | B | B/A | B-A | |
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 収 入 | 792,140 | 674,715 | 85.2 | △ 117,425 | 1,016 |
| 1 企 業 債 | 449,700 | 407,600 | 90.6 | △ 42,100 | |
| 2 国庫補助金 | 229,500 | 166,000 | 72.3 | △ 63,500 | |
| 3 他会計出資金 | 55,290 | 55,287 | 100.0 | △ 3 | |
| 4 負 担 金 | 57,650 | 45,829 | 79.5 | △ 11,822 | 1,016 |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 執行率 | 繰越額 | 不用額 | 備 考 (決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税) |
|-----------|-----------|-----------|-------|---------|--------|-------------------------------------|
| | A | B | B/A | C | A-B-C | |
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 支 出 | 1,550,301 | 1,346,997 | 86.9 | 190,000 | 13,304 | 42,141 |
| 1 建設改良費 | 706,011 | 503,719 | 71.3 | 190,000 | 12,292 | 42,141 |
| 2 企業債償還金 | 843,280 | 843,277 | 100.0 | 0 | 3 | |
| 3 投 資 | 10 | 0 | 0.0 | 0 | 10 | |
| 4 予 備 費 | 1,000 | 0 | 0.0 | 0 | 1,000 | |

ア 資本的収入

予算額と決算額との差の理由は、工事の繰越に伴い企業債及び国庫補助金の収入が翌年度になったことなどである。

主な収入は、次のとおりである。

第1項企業債は4億760万円で、公共下水道事業2億4,400万円、特定環境保全公共下水道事業1億6,360万円である。

第2項国庫補助金は1億6,600万円で、公共下水道事業1億6,000万円、特定環境保全公共下水道事業600万円である。

第3項他会計出資金は5,528万円で、一般会計が負担する企業債の元金償還金である。

第4項負担金は4,582万円で、受益者負担金などである。

イ 資本的支出

第1項建設改良費は、用之江分区汚水幹線枝線工事、北部処理区汚水枝線工事など

である。決算額は5億371万円で、翌年度に1億9,000万円を繰越し、不用額は1,229万円となっている。

第2項企業債償還金は当年度に償還した企業債の元金であり、決算額は8億4,327万円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額6億7,228万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2,203万円、減債積立金8,564万円、過年度損益勘定留保資金3,955万円、当年度損益勘定留保資金5億2,504万円で補てんされている。

第4表 工事等の実施状況

| 区 分 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | |
|------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 新設工事 | 管渠等布設 | 31 | 173,513 | 40 | 374,220 | 38 | 495,965 | 30 | 239,547 |
| | 機械・装置 | 4 | 8,680 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 改良工事 | 管渠等布設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 47,831 |
| | 機械・装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 管渠等布設 | 31 | 173,513 | 40 | 374,220 | 38 | 495,965 | 32 | 287,378 |
| | 機械・装置 | 4 | 8,680 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(3) 予算で定められた限度額等に対する執行状況

予算第5条に定められた企業債の限度額、第6条に定められた一時借入金の限度額、第8条に定められた職員給与費は、次のとおりいずれも予算の範囲内で執行されている。

第5表 予算で定められた限度額等に対する執行状況

| 条項 | 区 分 | | 予 算 額 (限度額) | 執 行 額 | 予 算 額 (限度額) と の 比 較 |
|----|-----------|-------------------|----------------|---------------|------------------------|
| 5 | 企業債 | 公共下水道事業 | 千円 180,200 | 千円 147,600 | 千円 △ 32,600 |
| | | 特定環境保全 公共下水道事業 | 173,100 | 163,600 | △ 9,500 |
| | | 漁業集落排水事業 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資本費平準化債 | 146,000 | 146,000 | 0 |
| 6 | 一 時 借 入 金 | | 1,200,000 | 0 | △ 1,200,000 |
| 8 | 職 員 給 与 費 | | 89,416 | 86,828 | △ 2,588 |

3 経営成績（別表8「下水道事業損益計算書」及び「決算報告書中の損益計算書」参照）

(1) 損益状況

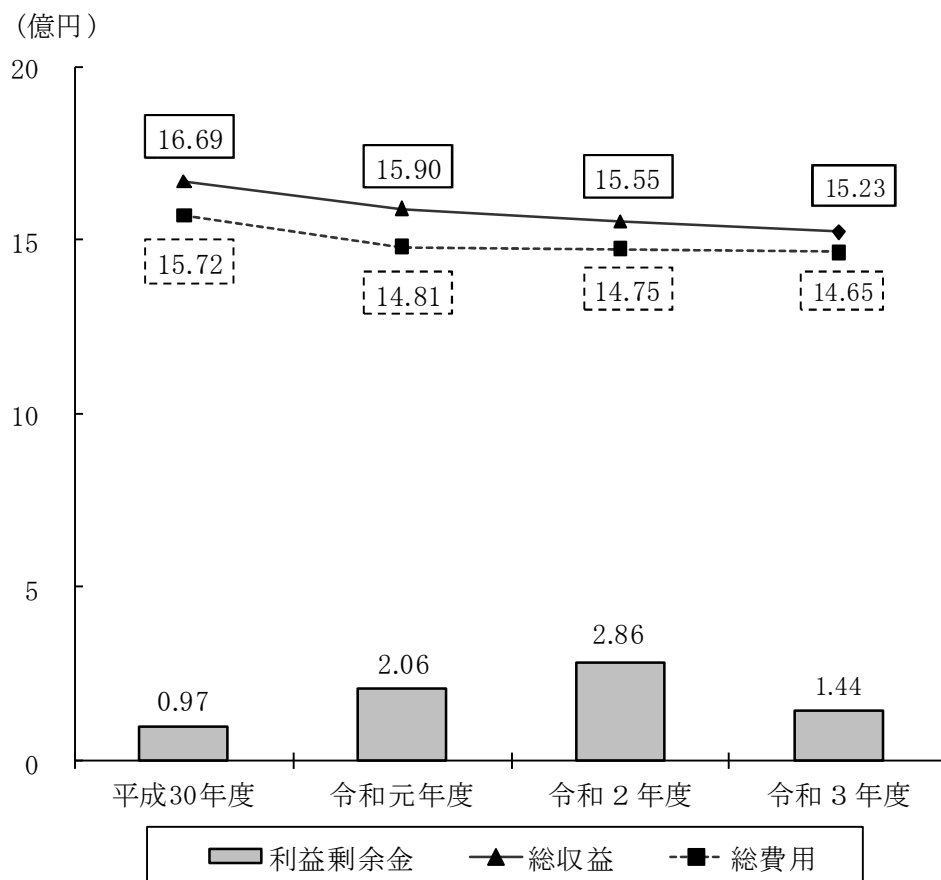
当年度は、総収益 15 億 2,297 万円（前年度に比べ 3,164 万円，2.0%の減），総費用 14 億 6,504 万円（前年度に比べ 967 万円，0.7%の減）で、差引き 5,793 万円の当年度純利益を計上している。

第6表 年度別総収益, 総費用比較表

| 区分 年度 | 総収益 A | 総費用 B | 純損益 A-B | 総収支比率 A/B |
|----------|-----------------|-----------------|--------------|--------------|
| 平成 30 | 千円 1,669,372 | 千円 1,572,198 | 千円 97,174 | % 106.2 |
| 令和 元 | 1,590,033 | 1,481,469 | 108,564 | 107.3 |
| 2 | 1,554,621 | 1,474,716 | 79,904 | 105.4 |
| 3 | 1,522,975 | 1,465,040 | 57,935 | 104.0 |

前年度末の未処分利益剰余金 2 億 8,564 万円については、議会の議決を経て、資本金へ 2 億円を組入れ、減債積立金に 8,564 万円を積立てている。当年度末の未処分利益剰余金は、前年度取崩した減債積立金 8,564 万円と当年度純利益 5,793 万円が加わり、1 億 4,357 万円となっている。

第3図 総収益，総費用及び利益剰余金の推移



経常的な損益を示す経常収支についてみると，経常収益（営業収益と営業外収益との合計額）は15億2,297万円（前年度に比べ3,164万円，2.0%の減），経常費用（営業費用と営業外費用との合計額）は14億6,504万円（前年度に比べ967万円，0.6%の減）で，差引き5,793万円の経常利益を生じ，前年度に比べ2,196万円の減益となっている。経常費用に対する経常収益の割合を示し，企業の収益性をみる際の代表的な指標である経常収支比率は，前年度より1.4ポイント低下して104.0%となっている。

第7表 年度別経常損益比較表

| 区分 年度 | 経常収益 A | 経常費用 B | 経常損益 A-B | 経常収支比率 A/B |
|----------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|
| 平成 30 | 千円 1,665,945 | 千円 1,559,321 | 千円 106,624 | % 106.8 |
| 令和 元 | 1,586,310 | 1,481,469 | 104,841 | 107.1 |
| 2 | 1,554,621 | 1,474,716 | 79,904 | 105.4 |
| 3 | 1,522,975 | 1,465,040 | 57,935 | 104.0 |

(2) 事業収益

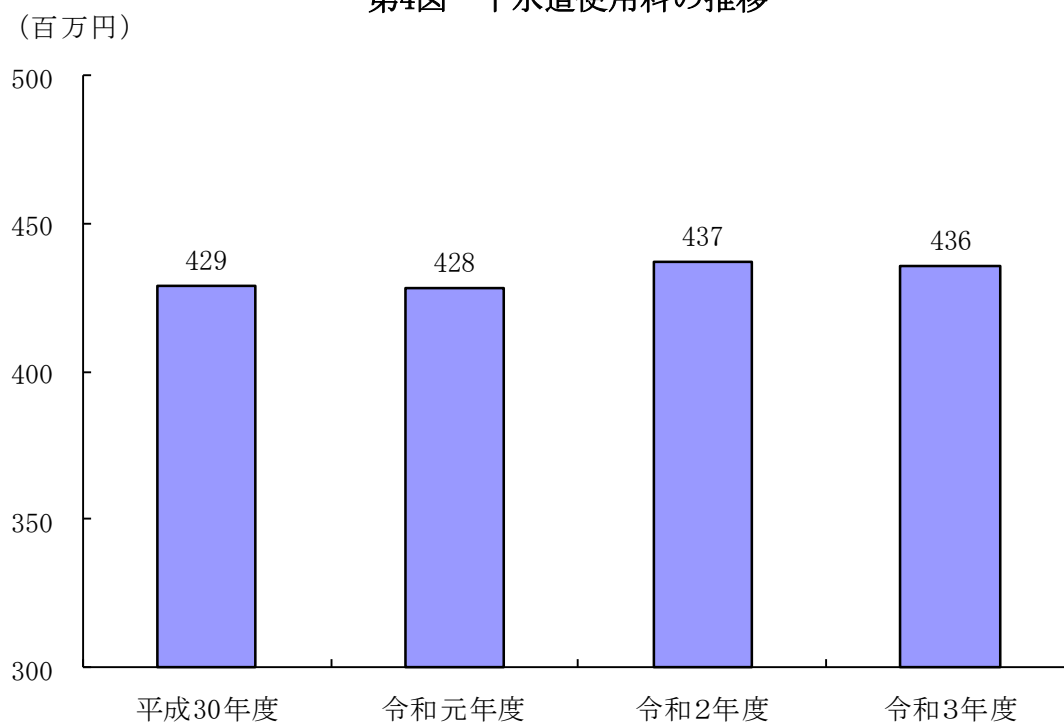
総収益は15億2,297万円で、前年度に比べ3,164万円減少している。

ア 営業収益

営業収益は6億7,670万円で、前年度に比べ1,230万円（1.8%）減少している。

下水道使用料は4億3,579万円で総収益の28.6%を占めている。前年度に比べ126万円（0.3%）減少している。

第4図 下水道使用料の推移



下水道使用料（令和4年6月末現在での令和3年度（現年）分）の収納率は98.7%となっている。

他会計負担金は2億762万円で、前年度に比べ1,344万円（6.1%）減少している。

イ 営業外収益

営業外収益は8億4,627万円で、前年度に比べ1,933万円（2.2%）減少している。これは、長期前受金戻入の減少などによるものである。

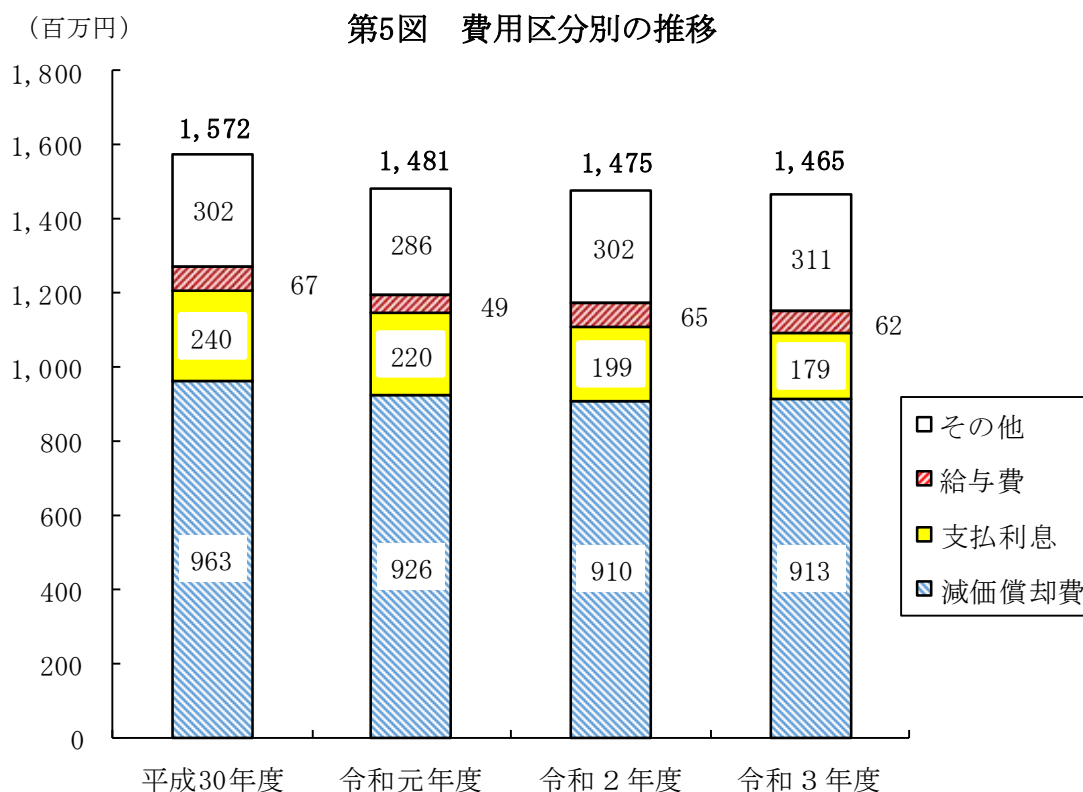
他会計負担金4億6,716万円は、分流式下水道に要する経費、高度処理に要する経費などとして一般会計から繰入れられたもので、前年度に比べ1,771万円（3.7%）減少している。

長期前受金戻入3億7,635万円は、償却資産の取得に伴い交付された補助金等の当年度の減価償却見合分が収益化されたもので、前年度に比べ264万円（0.7%）減少している。

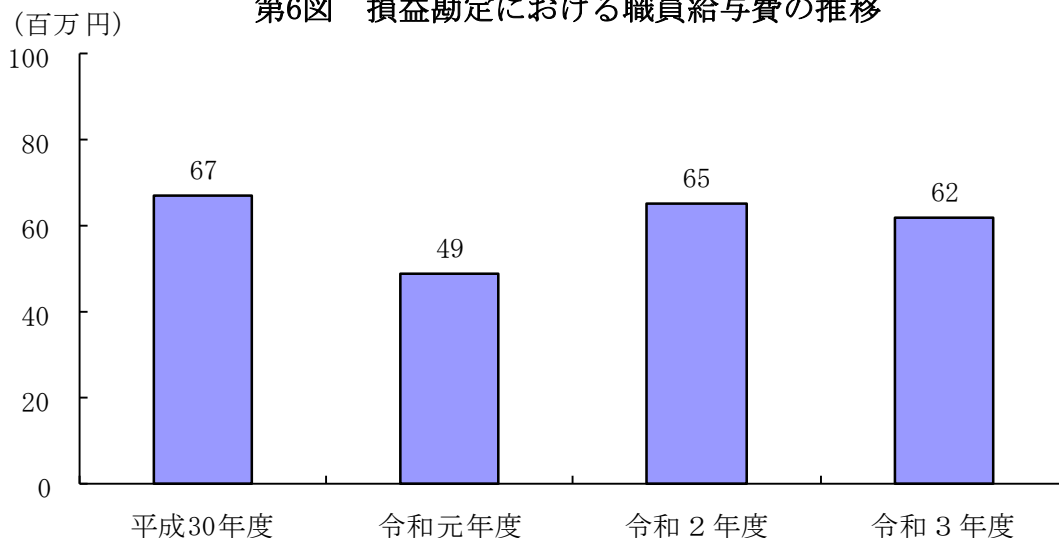
雑収益275万円は、終末処理場に設置している太陽光発電施設の売電収入などである。

(3) 事業費用

総費用は14億6,504万円で、前年度に比べ967万円（0.7%）減少している。



第6図 損益勘定における職員給与費の推移



- ※ 損益勘定の職員給与費のみとし、資本勘定の職員給与費は除いている。
- ※ 令和元年度以前は、嘱託職員・臨時職員の給与費は除いた額としている。
- ※ 令和2年度に、嘱託職員・臨時職員が会計年度任用職員に移行したことにより、

ア 営業費用

営業費用は12億6,153万円で、前年度に比べ1,156万円(0.9%)増加している。

管渠費は4,601万円で、前年度に比べ929万円(16.8%)減少している。これは、給料等人件費が減少したことなどによるものである。

ポンプ場費は2,864万円で、前年度に比べ560万円(24.3%)増加している。これは、動力費が300万円、修繕費が270万円増加したことなどによるものである。

処理場費は2億483万円で、前年度に比べ789万円(4.0%)増加している。これは、動力費が139万円、修繕費が436万円増加したことなどによるものである。

総係費は6,947万円で、前年度に比べ434万円(6.7%)増加している。これは、給料等人件費が増加したことなどによるものである。

減価償却費は9億1,256万円で総費用の72.3%を占めており、前年度に比べ302万円(0.3%)増加している。

イ 営業外費用

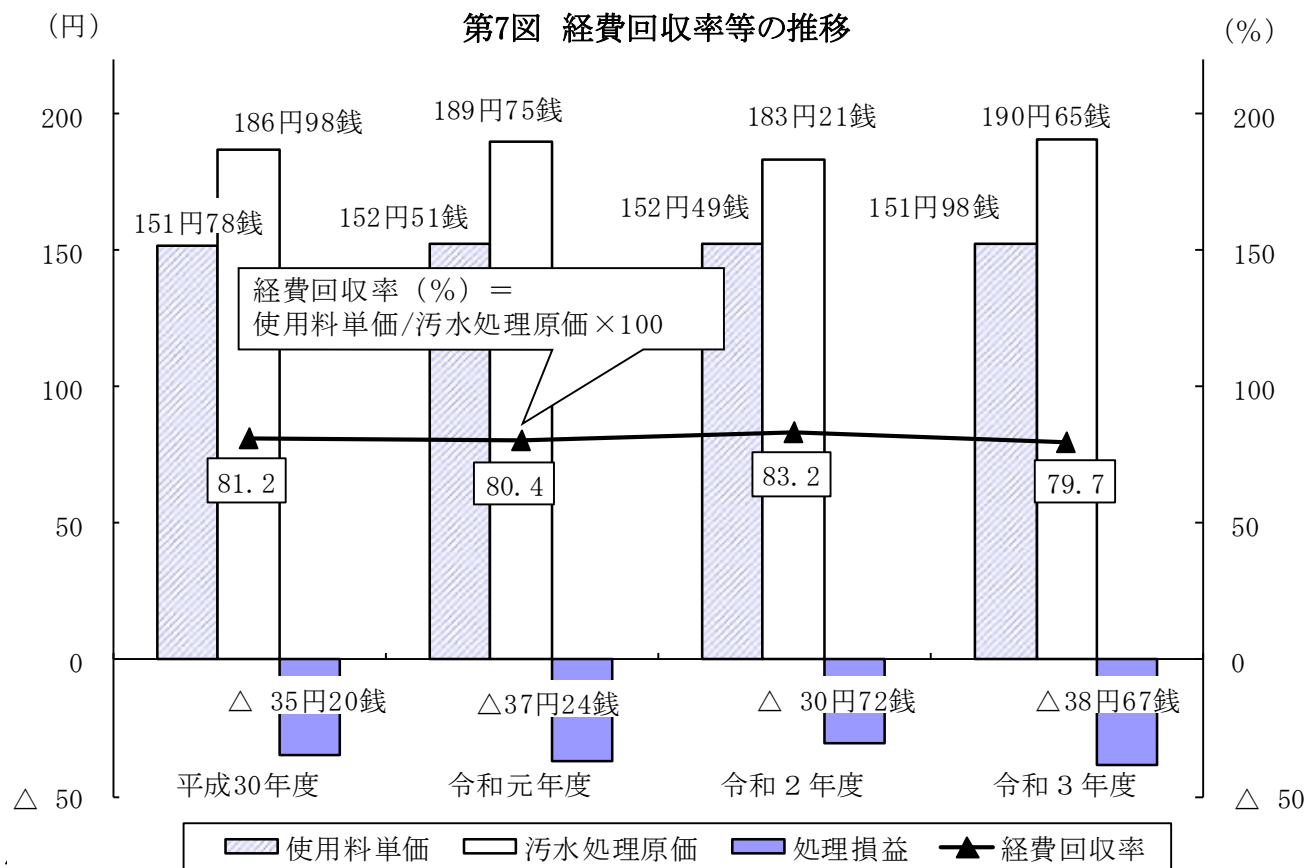
営業外費用は2億350万円で、前年度に比べ2,124万円(9.5%)減少している。

このうち、支払利息は1億7,939万円で、前年度に比べ1,932万円(9.7%)減少している。雑支出は2,410万円で、前年度に比べ191万円(7.4%)減少している。

(4) 使用料単価と汚水処理原価

有収水量1m³当たりの下水道使用料収入(使用料単価)は151円98銭で、前年度

に比べ 51 銭減少している。1m³ 当たりの汚水を処理するための費用（汚水処理原価）は 190 円 65 銭と、前年度に比べ 7 円 44 銭増加している。この結果、1m³ 当たりの処理損失は 38 円 67 銭と、前年度に比べ 7 円 95 銭損失が拡大している。



当年度末における資産は 271 億 8,481 万円、負債は 216 億 3,441 万円、資本は 55 億 5,039 万円となっている。

(1) 資 産

当年度末における資産の総額は 271 億 8,481 万円で、前年度に比べ 4 億 7,699 万円 (1.7%) 減少している。

ア 固定資産

固定資産は 268 億 3,641 万円で、前年度末に比べ 4 億 5,098 万円 (1.7%) 減少している。

有形固定資産は 262 億 6,319 万円で、前年度末に比べ 5 億 4,056 万円減少している。無形固定資産は 5 億 4,251 万円で、矢掛町公共下水道事業矢掛浄化センターに係る施設利用権の増加により、前年度末に比べ 8,957 万円増加している。

投資は 3,070 万円で、前年度と同程度である。これは、下水道事業債償還基金とし

て積立っているものである。

イ 流動資産

流動資産は3億4,840万円で、前年度末に比べ2,600万円(6.9%)減少している。これは、現金預金が120万円、未収金が1,072万円、前払金が1,400万円減少したことなどによるものである。

未収金は2億308万円で、前年度末に比べ1,072万円(5.0%)減少している。未収金の内訳は、営業未収金1億9,162万円、営業外未収金1,129万円、未収その他17万円となっている。営業未収金の内訳は、未収下水道使用料1億5,531万円、未収下水道処理負担金3,545万円などとなっている。また、貸倒引当金は131万円となっている。

当年度末の下水道使用料過年度未収金は96万円で、前年度に比べ84万円(46.5%)、件数は、346件で、前年度に比べ225件(39.4%)減少しており、不納欠損はなかった。

第8表 下水道使用料過年度未収金及び不納欠損額

| 区 分 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 過年度 未収金 | 件数(件) | 527 | 487 | 571 | 346 |
| | 金額(千円) | 2,014 | 2,548 | 1,812 | 969 |
| 不 納 欠 損 額 | 件数(件) | 47 | 0 | 0 | 0 |
| | 金額(千円) | 178 | 0 | 0 | 0 |

※消費税及び地方消費税を含む。

(2) 負 債

当年度末における負債総額は216億3,441万円で、前年度末に比べ5億9,021万円(2.7%)減少している。これは、企業債の未償還残高の減少などによるものである。また、当年度の企業債発行額は4億760万円、償還額は8億4,327万円、未償還残高は105億1,919万円となっている。総債務残高(固定負債+流動負債)は107億7,941万円で、前年度に比べ4億2,467万円(3.8%)減少している。

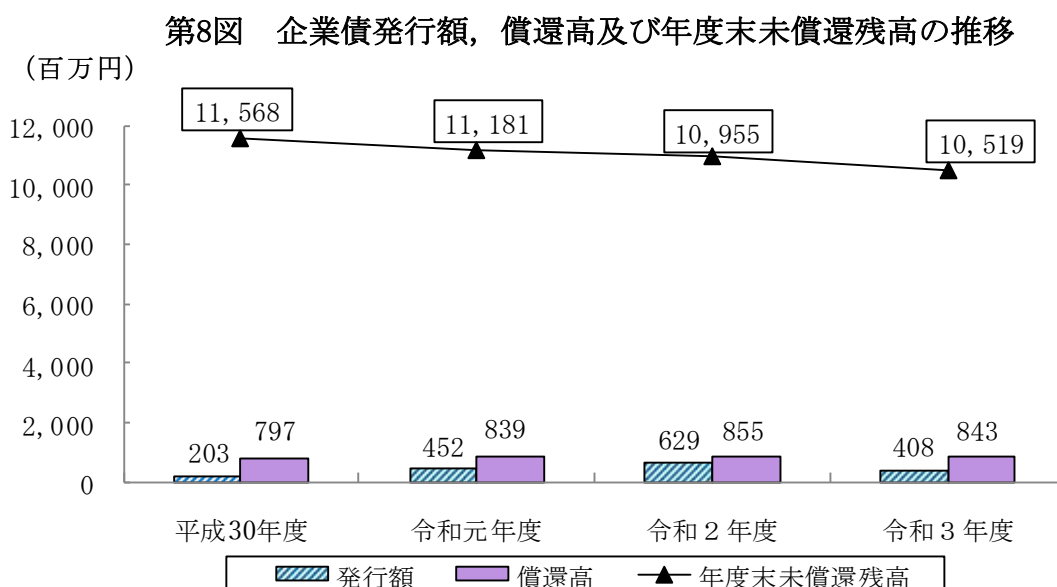
ア 固定負債

固定負債は97億13万円で、前年度末に比べ4億3,143万円(4.3%)減少している。この内訳のほとんどは企業債である。

イ 流動負債

流動負債は10億7,928万円で、前年度末に比べ677万円(0.6%)増加している。

企業債は8億3,800万円で、前年度末に比べ53万円(0.1%)増加している。
未払金は2億3,078万円で、前年度末に比べ2,980万円(14.8%)増加している。
その他流動負債は、契約保証金327万円などである。



第9表 企業債未償還残高の内訳

| 借入先 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
|------------|------------|------------|------------|------------|-------|
| | 残高 | 残高 | 残高 | 残高 | 構成比 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 財務省財政融資資金 | 5,866,141 | 6,095,675 | 6,467,489 | 6,602,265 | 62.8 |
| 簡易保険局 | 3,119,158 | 2,820,192 | 2,513,134 | 2,197,744 | 20.9 |
| 地方公共団体金融機構 | 2,469,400 | 2,185,504 | 1,918,637 | 1,668,727 | 15.9 |
| 市中銀行 | 113,591 | 79,342 | 55,614 | 50,460 | 0.5 |
| 計 | 11,568,290 | 11,180,713 | 10,954,873 | 10,519,196 | 100.0 |

ウ 繰延収益

繰延収益は108億5,500万円で、前年度に比べ1億6,554万円(1.5%)減少している。これは、償却資産の取得に際して交付された補助金などの長期前受金232億7,488万円から、減価償却見合分の長期前受金収益化累計額124億1,987万円を差引いたものである。

(3) 資本

当年度末における資本総額は55億5,039万円で、前年度末に比べ1億1,322万円(2.1%)増加している。

ア 資本金

資本金は48億6,485万円で、前年度末に比べ2億5,528万円(5.5%)増加している。これは、一般会計からの出資金を繰入れたことによるものである。

イ 剰余金

剰余金は6億8,554万円で、前年度末に比べ1億4,206万円(17.2%)減少している。

資本剰余金は5億4,196万円で、前年度末と同額である。これは、土地などの非減価償却資産の取得に際して交付された補助金、負担金などで、長期前受金に含まれないものである。

利益剰余金は1億4,357万円で、前年度末に比べ1億4,206万円(49.7%)減少している。これは、当年度純利益の計上によるものである。

(4) 他会計からの繰入金

当年度における他会計からの繰入金は7億3,007万円で、前年度に比べ3,310万円減少している。

第10表 他会計からの繰入金の状況

| 年度 | 他会計負担金及び 他会計補助金 | | 計 | | 他会計 出資金 | | 合 計 ③+④ | 指数 |
|----------|--------------------|---------------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|-----|
| | 営業収益 ① | 営業外収益 ② | ①+②=③ | ③のうち基 準内繰入金 | ④ | ④のうち基 準内繰入金 | | |
| 平成 30 | 千円 232,533 | 千円 555,747 | 千円 788,280 | 千円 750,780 | 千円 114,340 | 千円 61,149 | 千円 902,620 | 100 |
| 令和 元 | 247,625 | 481,834 | 729,458 | 722,945 | 76,836 | 62,485 | 806,294 | 89 |
| 2 | 221,063 | 484,873 | 705,936 | 705,936 | 57,234 | 57,234 | 763,170 | 85 |
| 3 | 207,623 | 467,160 | 674,783 | 674,783 | 55,287 | 55,287 | 730,070 | 81 |

(指数は平成30年度を100として比較)

(5) 財務比率等 (別表10「下水道事業財務分析比率表」参照)

ア 収益率

(ア) 営業損益及び営業収支比率

当年度の営業損失は5億8,483万円で、前年度に比べ2,387万円(4.3%)損失が拡大している。これは、他会計負担金の減少などによるものである。

当年度の営業収支比率(営業活動に要する費用が、営業活動から生じた収益でどの程度賄われているかを示す指標)は53.6%で、前年度に比べ1.5ポイント低下している。

(イ) 経常損益及び経常収支比率

当年度の経常利益は、5,793 万円で、前年度に比べ 2,196 万円 (27.5%) 減少している。これは、営業収益が減少したことなどによるものである。

当年度の経常収支比率 (通常の事業活動に要する費用が、通常の事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標) は 104.0% で、前年度に比べ 1.4 ポイント低下している。

(ウ) 純損益及び総収支比率

当年度の純利益は 5,793 万円で、前年度に比べ 2,196 万円 (27.5%) 減少している。

当年度の総収支比率 (事業活動に要する費用が、事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標) は 104.0% で、前年度に比べ 1.4 ポイント低下している。

なお、これらの指標は、100% を超えて比率が高いほど経営成績が良好とされている。

第11表 営業損益、経常損益及び純損益の状況

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 営業損益 ① (営業収益-営業費用) | △ 607,252 | △ 539,840 | △ 560,955 | △ 584,833 |
| 経常損益 ② (①+営業外収益-営業外費用) | 106,624 | 104,841 | 79,904 | 57,935 |
| 純損益 (②+特別利益-特別損失) | 97,174 | 108,564 | 79,904 | 57,935 |

第12表 収支比率の推移

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|--------|-------|-------|-------|
| | % | % | % | % |
| 営業収支比率 (営業収益/営業費用×100) | 53.1 | 56.9 | 55.1 | 53.6 |
| 経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) | 106.8 | 107.1 | 105.4 | 104.0 |
| 総収支比率 (総収益/総費用×100) | 106.2 | 107.3 | 105.4 | 104.0 |

構成比率

財務状態の長期的な安全性をみる構成比率のうち、固定資産構成比率（小さいほどよい）は98.7%で、前年度に比べ0.1ポイント上昇している。これは、固定資産が減少したものの、流動資産も減少して総資産が減少したことによるものである。

自己資本構成比率（大きいほどよい）は60.3%で、前年度に比べ0.8ポイント上昇している。

ウ 財務比率

財務比率のうち、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較した流動比率（200%以上が適当）は32.2%で、前年度に比べ2.7ポイント低下している。これは、流動資産が減少し、流動負債が増加したことによるものである。

流動負債に対する現金・預金、換金性の高い未収金などの当座資産の割合を示し、短期債務に対する支払能力をみる当座比率（100%以上が適当）は32.2%で、前年度に比べ1.3ポイント低下している。また、流動負債に対する現金預金の割合を示す現金預金比率（20%以上が適当）は13.5%で、前年度に比べ0.2ポイント低下している。

また、自己資本と他人資本との割合によって経営の健全性を表す負債比率（100%以下が適当）は65.7%で前年度に比べ2.4ポイント低下している。

(6) キャッシュ・フローの状況

資金期末残高は1億4,583万円で、前年度に比べ120万円（0.8%）減少している。これは、投資活動によるキャッシュ・フローが有形固定資産の増加などにより2億8,840万円増加したものの、業務活動によるキャッシュ・フローが未払金の減少などにより1億2,908万円減少、財務活動によるキャッシュ・フローでは建設財源の財源に充てるための企業債に加えて資本費平準化債の減少などにより2億1,178万円減少したことによるものである。

第13表 キャッシュ・フロー計算書(概要)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 対前年度 | |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | | | | | 増減額 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 業務活動による キャッシュ・フロー (A) | 732,695 | 534,141 | 745,033 | 615,951 | △ 129,082 | △ 17.3 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (B) | △ 99,721 | △ 363,719 | △ 525,168 | △ 236,766 | 288,402 | △ 54.9 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (C) | △ 479,430 | △ 310,741 | △ 168,606 | △ 380,390 | △ 211,784 | 125.6 |
| 資金増減額 (A)+(B)+(C) | 153,544 | △ 140,319 | 51,259 | △ 1,205 | △ 52,464 | △ 102.4 |
| 資金期首残高 | 82,560 | 236,104 | 95,785 | 147,044 | 51,259 | 53.5 |
| 資金期末残高 | 236,104 | 95,785 | 147,044 | 145,839 | △ 1,205 | △ 0.8 |

む す び

令和3年度下水道事業会計決算の概要は、以上のとおりである。

地方公営企業法全部適用事業に移行して4期目の決算で、当期と過去3期との比較を中心に行った。

当年度の水洗化人口は2万4,690人で、前年度に比べ160人減少し、行政区域内における普及率は59.2%となっている。年間汚水処理水量は347万6,837^mで、前年度に比べ1,084^m増加し、年間有収水量も286万7,548^mと、前年度に比べ1,361^m増加している。有収率は前年度と同様に82.5%である。

経営成績については、総収益は15億2,297万円、総費用は14億6,504万円で、その結果、収益的収支において5,793万円の当年度純利益を生じている。これは、営業外収益の他会計負担金及び長期前受金戻入によるところが大きく、営業損益は5億8,483万円の損失を計上している。

下水道事業は「汚水私費、雨水公費」を原則としている。当市においても汚水処理費は原則として利用者からの使用料などで回収すべきものであるが、1^m当たりの使用料単価は151円98銭、汚水処理原価は190円65銭で、38円67銭の赤字となっており、使用料収益で汚水処理費を賄っていない。本市の使用料単価と汚水処理原価の割合を示す経費回収率は連年80%台前半で推移しており、経費負担や使用料の適正化を図る必要がある。県内各市の下水道事業においては、経費回収率が100%を越えている事業体やこれに近い事業体も多くみられる。（別表12「県内各市の下水道事業経営状況」参照）

本市では、昭和49年度から公共下水道事業、平成19年度から特定環境保全公共下水道（北部処理区）事業に着工、また、平成14年度に真鍋島で漁業集落排水事業の施設が完成した。このように下水道の整備を進めた結果、多額の固定資産を保有することとなり、また、当年度末の企業債残高は105億1,919万円となっている。

今後、これらの固定資産の維持・改良（特に公共下水道事業においては、老朽化の進展により更新のための投資が増加する。）及び企業債の償還のため多額の費用が見込まれる。

これらの費用を賄う財源の確保においては、事業毎の経営状況を適切に把握し、それぞれの事業にふさわしい財源構成を検討し、人口動態や普及率、水洗化率等の現実的な見通しを踏まえた需要予測のもとで適正な原価を基礎として下水道使用料を算定することにより、事業の健全な経営を確保することができるものでなければならない。しかしながら、当年度の財源不足を補うために前年度並びに前々年度と同様に資本費平準化債を借入れており、財源不足を企業債に頼る手法は今後の事業経営において負担増となるため、借入れの際は経営計画との調整に十分注意されたい。

公営企業会計に移行して4年経過した。移行後の事業の見通しのもとで策定した「笠岡市下水道事業経営戦略（計画期間：令和3年度～令和12年度）」（令和3年3月）では、

下水道経営に関する課題の項目中で、使用料見直しの検討については、使用料単価が安価であること、また、今後の有収水量（人口）減少により経営基盤の安定性に欠けることを想定し、使用料の見直しの検討や水洗化率の向上により増収を進めていく必要があるとしている。また、同経営戦略策定と同時期に開催の笠岡市上下水道事業運営審議会で審議された「持続可能な下水道事業の運営及び経営状況について」に係る答申では適切な下水道使用料設定の検討に言及している。

これらも踏まえて、下水道事業の汚水処理に係る経費は、独立採算の原則に基づいて使用料で賄うとの観点から、下水道使用料の適正化等による増収対策等により経営基盤の強化と安定化に向けて取り組まれない。

病 院 事 業 会 計

1 業務の概要（別表 13「病院事業業務分析年度比較表」参照）

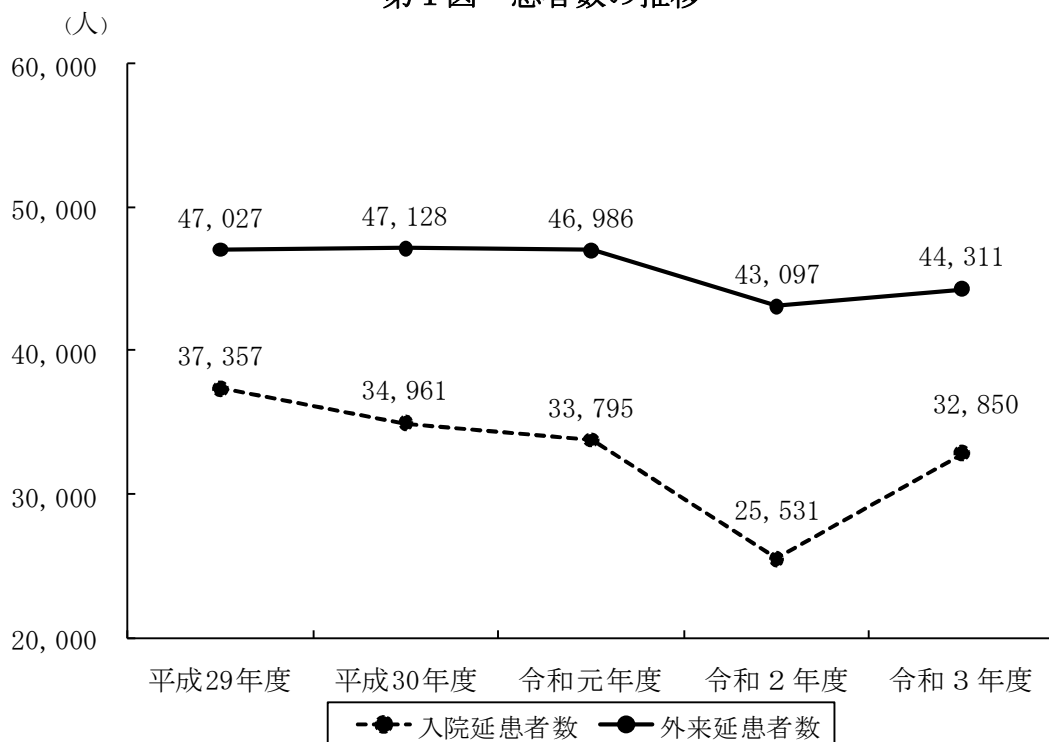
(1) 診療科目数及び病床数

令和 3 年度末の診療科目数は 12 科，病床数は 99 床であり，前年度末に比べ病床数が 95 床減少している。

(2) 患者数

年間延患者数は，入院 3 万 2,850 人，外来 4 万 4,311 人，合計 7 万 7,161 人で，前年度に比べ 8,533 人（12.4%）増加している。入院・外来別の内訳では，入院で 7,319 人（28.7%），外来で 1,214 人（2.8%）増加している。

第 1 図 患者数の推移



第1表 利用患者実績表

| 科目 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 増減 | |
|--------|------------|----------|--------|----------|-------|--------------|--------------|
| | | 患者数 B | 構成比 | 患者数 B | 構成比 | 患者数 C=B-A | 率 C/A×100 |
| 入 院 | 内 科 | 22,143 | 86.7 | 26,878 | 81.8 | 4,735 | 21.4 |
| | 循環器内科 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| | 呼吸器内科 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| | 外 科 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| | 消化器内科 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| | 整形外科 | 3,142 | 12.3 | 5,279 | 16.1 | 2,137 | 68.0 |
| | 皮膚科 | 122 | 0.5 | 273 | 0.8 | 151 | 123.8 |
| | 泌尿器科 | 0 | 0.0 | 128 | 0.4 | 128 | — |
| | 産婦人科 | 7 | 0.0 | 1 | 0.0 | △ 6 | △ 85.7 |
| | 眼 科 | 26 | 0.1 | 23 | 0.1 | △ 3 | △ 11.5 |
| | リハビリテーション科 | 0 | 0.0 | 44 | 0.1 | 44 | — |
| 小 児 科 | 91 | 0.4 | 224 | 0.7 | 133 | 146.2 | |
| 小 計 | 25,531 | 100.0 | 32,850 | 100.0 | 7,319 | 28.7 | |
| 外 来 | 内 科 | 18,531 | 43.0 | 20,109 | 45.4 | 1,578 | 8.5 |
| | 循環器内科 | 355 | 0.8 | 353 | 0.8 | △ 2 | △ 0.6 |
| | 呼吸器内科 | 269 | 0.6 | 271 | 0.6 | 2 | 0.7 |
| | 外 科 | 2,468 | 5.7 | 1,659 | 3.7 | △ 809 | △ 32.8 |
| | 消化器内科 | 54 | 0.1 | 258 | 0.6 | 204 | 377.8 |
| | 整形外科 | 4,233 | 9.8 | 4,632 | 10.5 | 399 | 9.4 |
| | 皮膚科 | 7,977 | 18.5 | 6,734 | 15.2 | △ 1,243 | △ 15.6 |
| | 泌尿器科 | 1,348 | 3.1 | 1,561 | 3.5 | 213 | 15.8 |
| | 産婦人科 | 782 | 1.8 | 759 | 1.7 | △ 23 | △ 2.9 |
| | 眼 科 | 1,296 | 3.0 | 1,141 | 2.6 | △ 155 | △ 12.0 |
| | リハビリテーション科 | 104 | 0.2 | 152 | 0.3 | 48 | 46.2 |
| 小 児 科 | 5,680 | 13.2 | 6,682 | 15.1 | 1,002 | 17.6 | |
| 小 計 | 43,097 | 100.0 | 44,311 | 100.0 | 1,214 | 2.8 | |
| 合 計 | 68,628 | — | 77,161 | — | 8,533 | 12.4 | |

ア 入 院

入院延患者数は3万2,850人で、前年度に比べ7,319人(28.7%)増加している。これは、内科で4,735人(21.4%)、整形外科で2,137人(68.0%)、それぞれ増加したことなどによるものである。

1日平均入院患者数は90人で、前年度に比べ20人(28.6%)増加している。

イ 外 来

外来延患者数は4万4,311人で、前年度に比べ1,214人(2.8%)増加している。これは、外科で809人(32.8%)、皮膚科で1,243人(15.6%)減少したものの、内科

で1,578人(8.5%)、小児科で1,002人(17.6%)それぞれ増加したことなどによるものである。

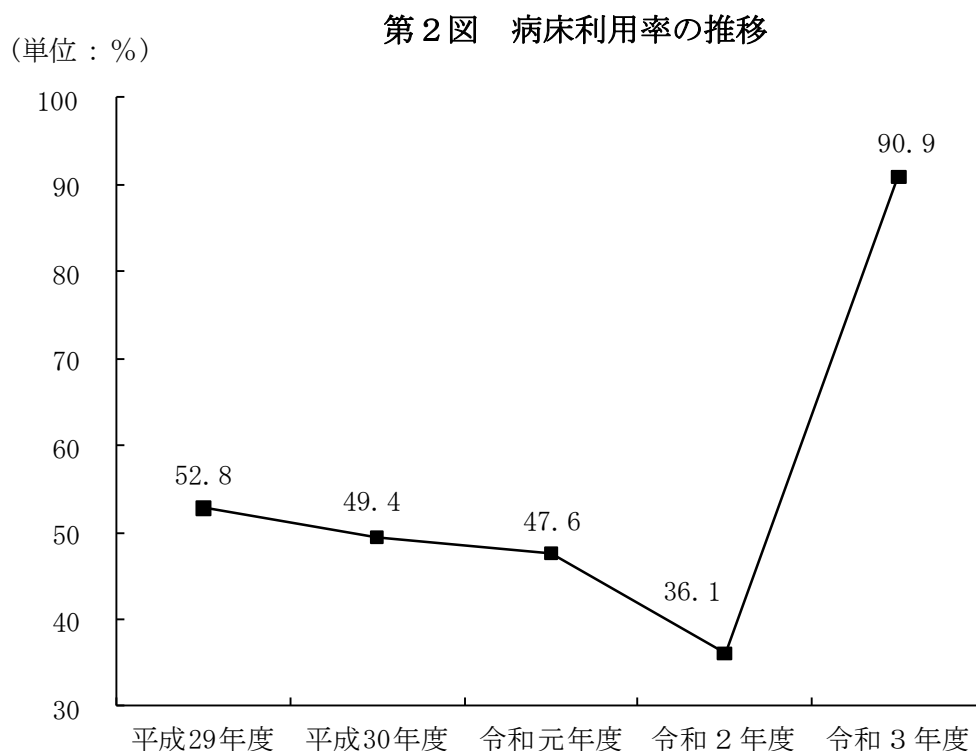
外来診療日数254日間における1日平均外来患者数は174人で、前年度に比べ4人(2.4%)増加している。

(3) 病床利用率等

病床利用率は90.9%で、前年度に比べ54.8ポイント上昇している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院では3万1,486円で前年度に比べ1,027円(3.4%)増加し、外来は9,021円で前年度に比べ1,164円(14.8%)増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は2万5,348円で、前年度に比べ5,228円(26.0%)増加している。



2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の決算額は22億403万円で、予算額を599万円上回っている。また、収益的支出の決算額は20億5,593万円で、不用額は991万円となっている。

第2表 収益的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執 行 率 B/A | 予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 B-A | 備 考 (決算額のうち、 仮受消費税及び 地方消費税) |
|---------|------------|------------|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 病院事業収益 | 2,198,040 | 2,204,033 | 100.3 | 5,993 | 17,537 |
| 1 医業収益 | 1,626,420 | 1,640,728 | 100.9 | 14,308 | 14,702 |
| 2 医業外収益 | 571,050 | 562,736 | 98.5 | △ 8,314 | 2,835 |
| 3 特別利益 | 570 | 570 | 99.9 | △ 0 | 0 |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執 行 率 B/A | 不 用 額 A-B | 備 考 (決算額のうち、 仮払消費税及び 地方消費税) |
|---------|------------|------------|--------------|--------------|--------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 病院事業費用 | 2,065,850 | 2,055,936 | 99.5 | 9,914 | 44,449 |
| 1 医業費用 | 2,026,460 | 1,968,583 | 97.1 | 57,877 | 44,449 |
| 2 医業外費用 | 29,900 | 78,860 | 263.7 | △ 48,960 | 0 |
| 3 特別損失 | 9,390 | 8,493 | 90.4 | 897 | 0 |
| 4 予備費 | 100 | 0 | 0.0 | 100 | 0 |

(医業外費用のうち、消費税及び地方消費税納付予定額は、9,549千円である。)

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の決算額は5,210万円で、予算額を1,506万円下回っている。また、資本的支出の決算額は9,654万円で、181万円を翌年度に繰越し、不用額は3,894万円となっている。

第3表 資本的収入及び支出の予算執行状況

収 入

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執 行 率 B/A | 予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 B-A | 備 考 (決算額のうち、 仮受消費税及び 地方消費税) |
|-------------|------------|------------|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 収 入 | 67,170 | 52,105 | 77.6 | △ 15,065 | 0 |
| 1 企 業 債 | 0 | 0 | - | 0 | 0 |
| 2 他会計からの出資金 | 67,170 | 40,820 | 60.8 | △ 26,350 | 0 |
| 3 補 助 金 | 0 | 11,285 | - | 11,285 | 0 |

支 出

| 区 分 | 予 算 額 A | 決 算 額 B | 執 行 率 B/A | 繰 越 額 C | 不 用 額 A-B-C | 備 考 (決算額のうち、 仮払消費税及び 地方消費税) |
|----------------------|------------|------------|--------------|------------|----------------|--------------------------------------|
| | 千円 | 千円 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 資 本 的 支 出 | 137,300 | 96,546 | 70.3 | 1,810 | 38,944 | 2,447 |
| 1 建 設 改 良 費 | 27,660 | 26,912 | 97.3 | 1,810 | △ 1,062 | 2,447 |
| 2 企 業 債 償 還 金 | 62,440 | 62,434 | 100.0 | 0 | 6 | 0 |
| 3 他会計からの借入れ 償 還 金 | 40,000 | 0 | 0.0 | 0 | 40,000 | 0 |
| 4 貸 付 金 | 7,200 | 7,200 | 100.0 | 0 | 0 | 0 |

ア 資本的収入

第2項他会計からの出資金4,082万円は、一般会計から繰り入れられたもので、主に、企業債元金償還金に充当されている。

イ 資本的支出

第1項建設改良費2,691万円は、医療機器の購入に要した費用で、国庫補助金を財源としている。

第2項企業債償還金6,243万円は、建設改良費に充当した企業債の償還元金である。

第3項他会計からの借入れ償還金は、執行がなかった。

第4項貸付金720万円は、笠岡市医師確保修学資金貸与条例により貸与者とした、市民病院に医師として勤務しようとする大学生3名に修学資金を貸与したものである。

(3) 予算に定められた限度額に対する執行状況

ア 予算第6条に定められた企業債の限度額，第7条に定められた一時借入金の限度額，第8条に定められた議会の議決を経なければ流用することのできない経費及び第10条に定められたたな卸資産の購入限度額は，次のとおりいずれも予算の範囲内で執行されていた。

イ 予算第9条に定められた病院事業運営のための一般会計からの補助金3億4,797万円については2億2,759万円が執行されている。その内訳は，収益的収入1億8,677万円及び資本的収入4,082万円であり，予算の範囲内で受け入れられている。

第4表 予算に定められた限度額に対する執行状況

| 条項 | 区 分 | 予算限度額 | 執 行 額 (税込) | 予算(限度額) との比較 |
|----|---------------------|-----------|---------------|-----------------|
| | | 千円 | 千円 | 千円 |
| 6 | 企 業 債 | | | |
| | 医療機器及び備品等の購入 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 一 時 借 入 金 | 800,000 | 400,000 | △ 400,000 |
| 8 | 職 員 給 与 費 | 1,193,920 | 1,163,454 | △ 30,466 |
| | 交 際 費 | 90 | 88 | △ 2 |
| 9 | 他 会 計 か ら の 補 助 金 | 347,970 | 227,599 | △ 120,371 |
| 10 | た な 卸 資 産 購 入 限 度 額 | 170,270 | 127,397 | △ 42,873 |

3 経営成績 (別表14「病院事業比較損益計算書」及び決算報告書中の損益計算書参照)

(1) 損益収支の状況

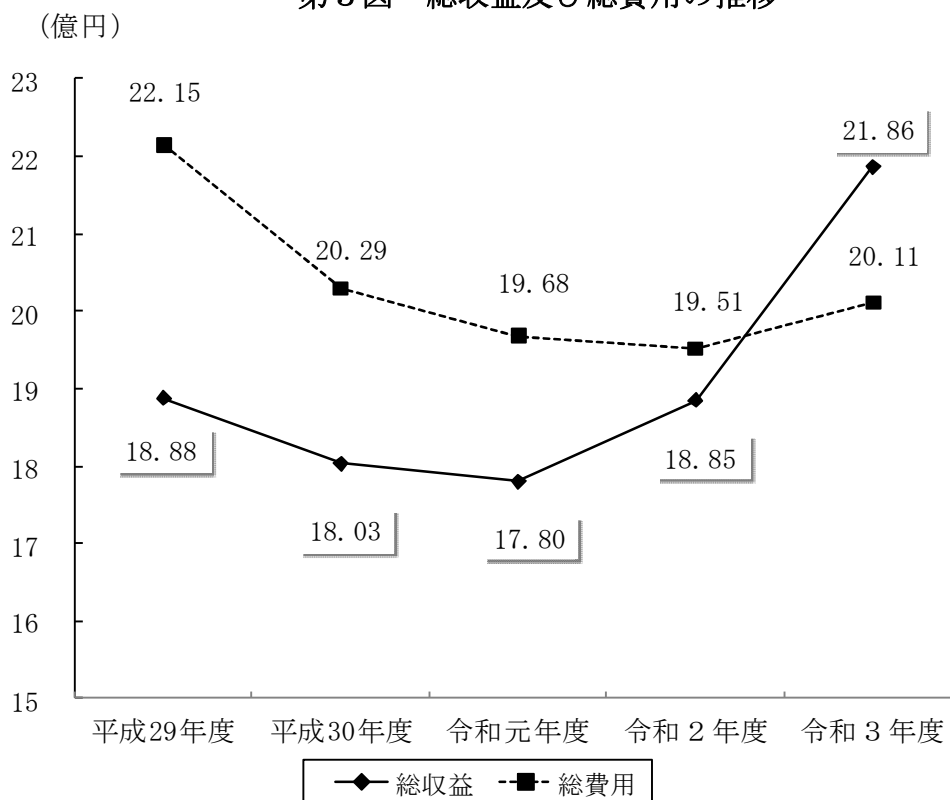
当年度は，総収益21億8,649万円（対前年度3億156万円，16.0%の増）に対し，総費用20億1,148万円（対前年度6,006万円，3.1%の増）で，差引き1億7,500万円の純利益を生じており，8期ぶりの黒字決算となった。前年度繰越欠損金40億3,975万円と合わせて，当年度未処理欠損金は38億6,474万円である。

第 5 表 年度別総収益・総費用比較表

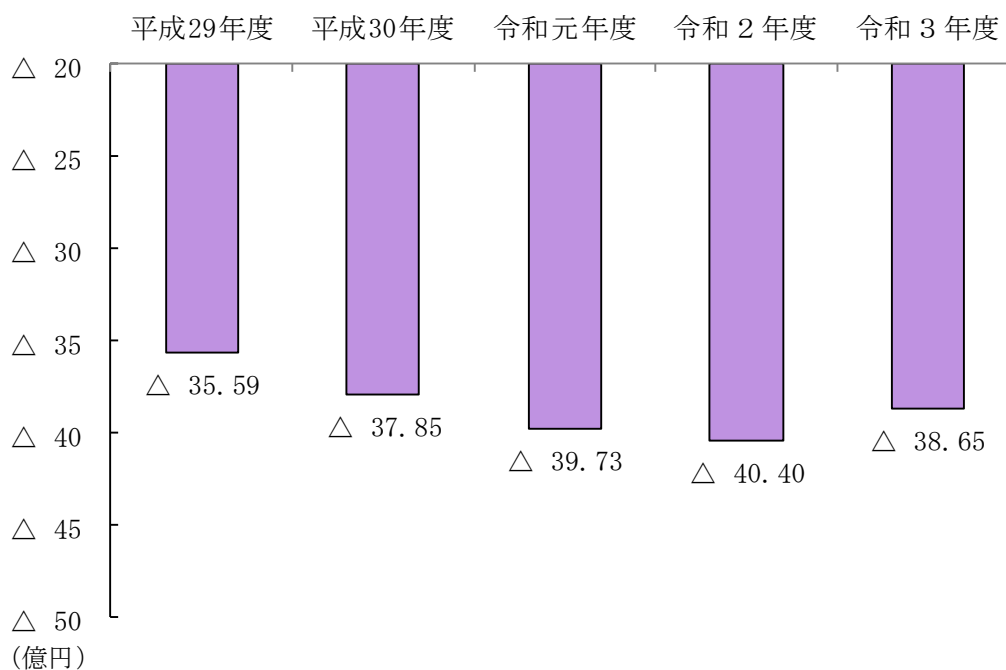
| 区分 年度 | 総 収 益 A | 総 費 用 B | 損益 (△損失) C=A-B | 総収支 比 率 A/B |
|----------|------------|------------|-------------------|-------------------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 平成 29 | 1,887,782 | 2,215,479 | △ 327,697 | 85.2 |
| 30 | 1,802,871 | 2,028,814 | △ 225,942 | 88.9 |
| 令和 元 | 1,779,905 | 1,968,126 | △ 188,220 | 90.4 |
| 2 | 1,884,932 | 1,951,426 | △ 66,494 | 96.6 |
| 3 | 2,186,496 | 2,011,487 | 175,009 | 108.7 |

過去 5 年間の総収益，総費用及び未処理欠損金の推移は次のとおりである。

第 3 図 総収益及び総費用の推移



第4図 未処理欠損金の推移



経常損益をみると、当年度は、1億8,293万円の経常利益を生じている。これは、医業外収益の新型コロナウイルス感染症関連の補助金1億8,493万円により収益が増加したことなどによるものである。

経常費用に対する経常収益の割合を示し、企業の収益性をみる際の代表的な指標である経常収支比率は109.1%で、前年度に比べ12.3ポイント上昇している。

第6表 年度別経常損益比較表

| 区分 年度 | 経常収益 A 千円 | 経常費用 B 千円 | 経常損益 C=A-B 千円 | 経常収支 比 率 A/B % |
|----------|-----------------|-----------------|---------------------|----------------------------|
| 平成 29 | 1,887,662 | 2,195,482 | △ 307,819 | 86.0 |
| 30 | 1,801,972 | 2,019,318 | △ 217,346 | 89.2 |
| 令和 元 | 1,779,287 | 1,960,246 | △ 180,960 | 90.8 |
| 2 | 1,842,715 | 1,904,125 | △ 61,410 | 96.8 |
| 3 | 2,185,927 | 2,002,994 | 182,933 | 109.1 |

(2) 事業収益

総収益は 21 億 8,649 万円で、前年度に比べ 3 億 156 万円（16.0%）増加している。

ア 医業収益

医業収益は 16 億 2,602 万円で、前年度に比べ 3 億 9,480 万円（32.1%）増加している。

医業収益の 63.6%を占める入院収益は 10 億 3,430 万円で、入院患者数の増などにより、前年度に比べ 2 億 5,666 万円（33.0%）増加している。

外来収益は 3 億 9,974 万円で、外来患者数の増などにより、前年度に比べ 6,110 万円（18.0%）増加している。

その他医業収益は 1 億 9,197 万円で、前年度に比べ 7,703 万円（67.0%）増加している。これは、新型コロナウイルスワクチン接種収益が 5,919 万円、PCR 検査費用助成事業委託料が 370 万円それぞれ増加したことなどによるものである。

イ 医業外収益

医業外収益は 5 億 5,990 万円で、前年度に比べ 5,158 万円（8.4%）減少している。

他会計補助金 1 億 8,677 万円は主に、医師の派遣を受けることに要する経費、基礎年金拠出金に要する経費、医師勤務環境の改善に要する経費に対する一般会計補助金で、前年度に比べ 7,847 万円（29.6%）減少している。

補助金 1 億 8,493 万円は、新型コロナウイルス感染症患者等の受入れ支援に関する国からの交付金で、前年度に比べ 9,135 万円減少している。

長期前受金戻入 591 万円は、建設改良に際して交付された補助金の当年度分の減価償却見合分を収益化したものである。

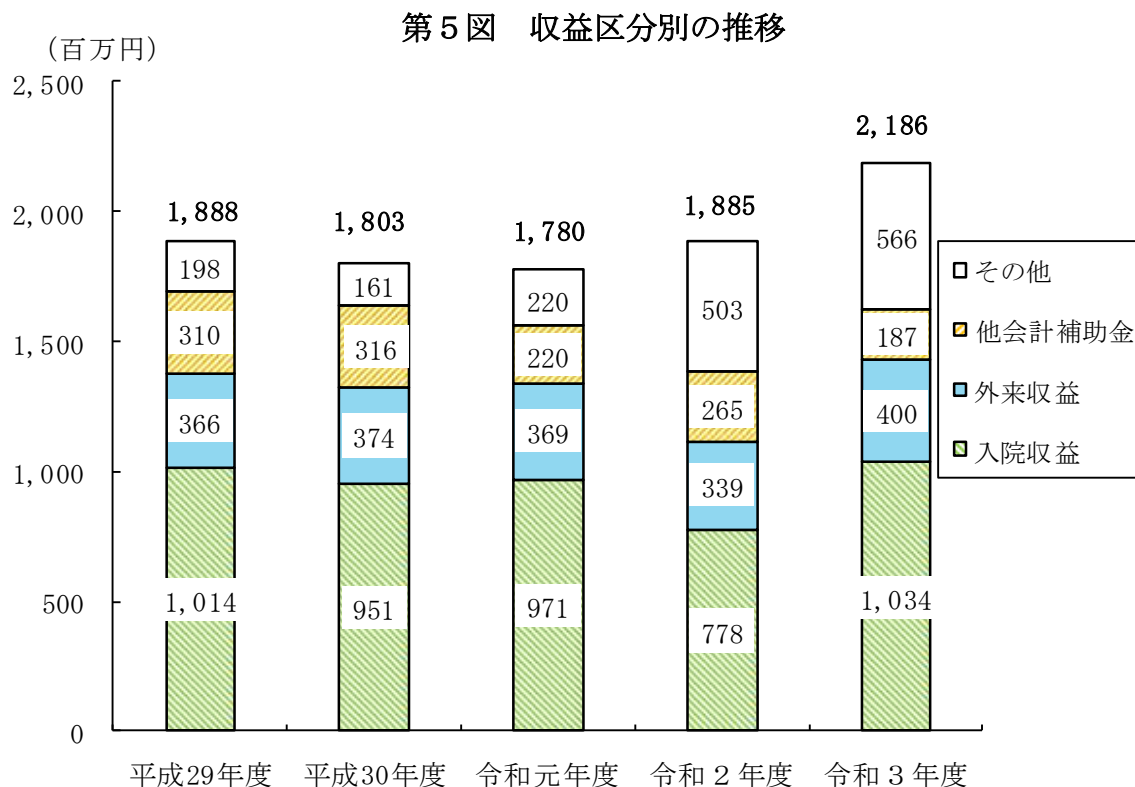
その他医業外収益 3,091 万円は、島しょ部の診療所への医師派遣に係る収入、医師住宅の家賃、自動販売機設置料などである。

他会計負担金 1 億 4,781 万円は、高度医療、救急医療、退職給付引当金繰入金補助、寄附講座などに対して一般会計から繰入れられたもので、前年度に比べ 9,658 万円（188.5%）増加している。

ウ 特別利益

特別利益は 57 万円で、前年度に比べ 4,164 万円（98.7%）減少している。

収益区分別の推移は、次のとおりであり、入院収益の増加が顕著である。



(3) 事業費用

総費用は20億1,148万円で、前年度に比べ6,006万円(3.1%)増加している。

ア 医業費用

医業費用は19億2,413万円で、前年度に比べ1億1,212万円(6.2%)増加している。

そのうち、材料費は1億9,839万円で、前年度に比べ5,499万円(38.3%)増加している。これは、薬品費が3,363万円、診療材料費が1,624万円増加したことなどによるものである。

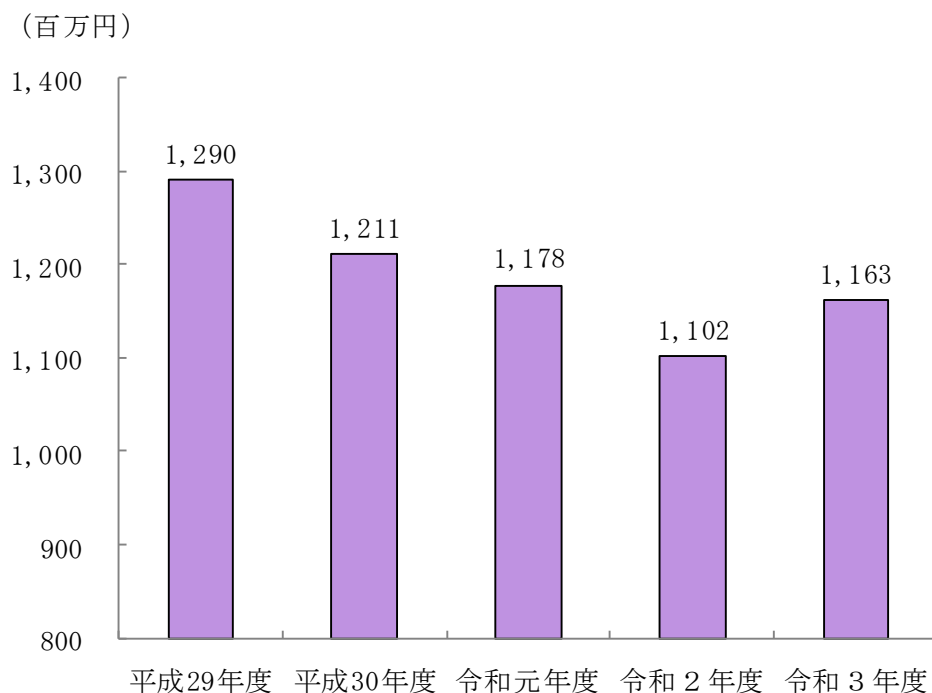
経費は4億4,914万円で、前年度に比べ2,199万円(4.7%)減少している。これは、修繕費が1,675万円、委託料が1,932万円減少したことなどによるものである。

(ア) 給与費

職員の給与費は11億6,260万円で、前年度に比べ6,013万円(5.5%)増加している。これは、早期退職者を含む退職給付費や医師等の職員数の増加

による手当の増加などによるものである。給与費の総費用に占める割合は57.8%で、前年度に比べ1.3ポイント上昇している。

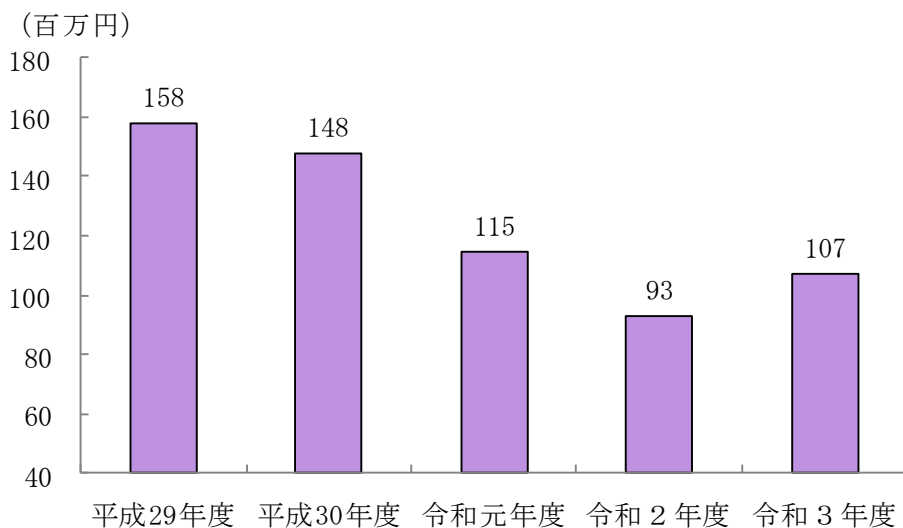
第6図 給与費の推移



(イ) 減価償却費

減価償却費は1億731万円で、前年度に比べ1,413万円(15.2%)増加している。

第7図 減価償却費の推移



イ 医業外費用

医業外費用は7,886万円で、前年度に比べ1,325万円(14.4%)減少している。これは、消費税及び地方消費税が前年度に比べ1,359万円(20.3%)減少したことなどによるものである。

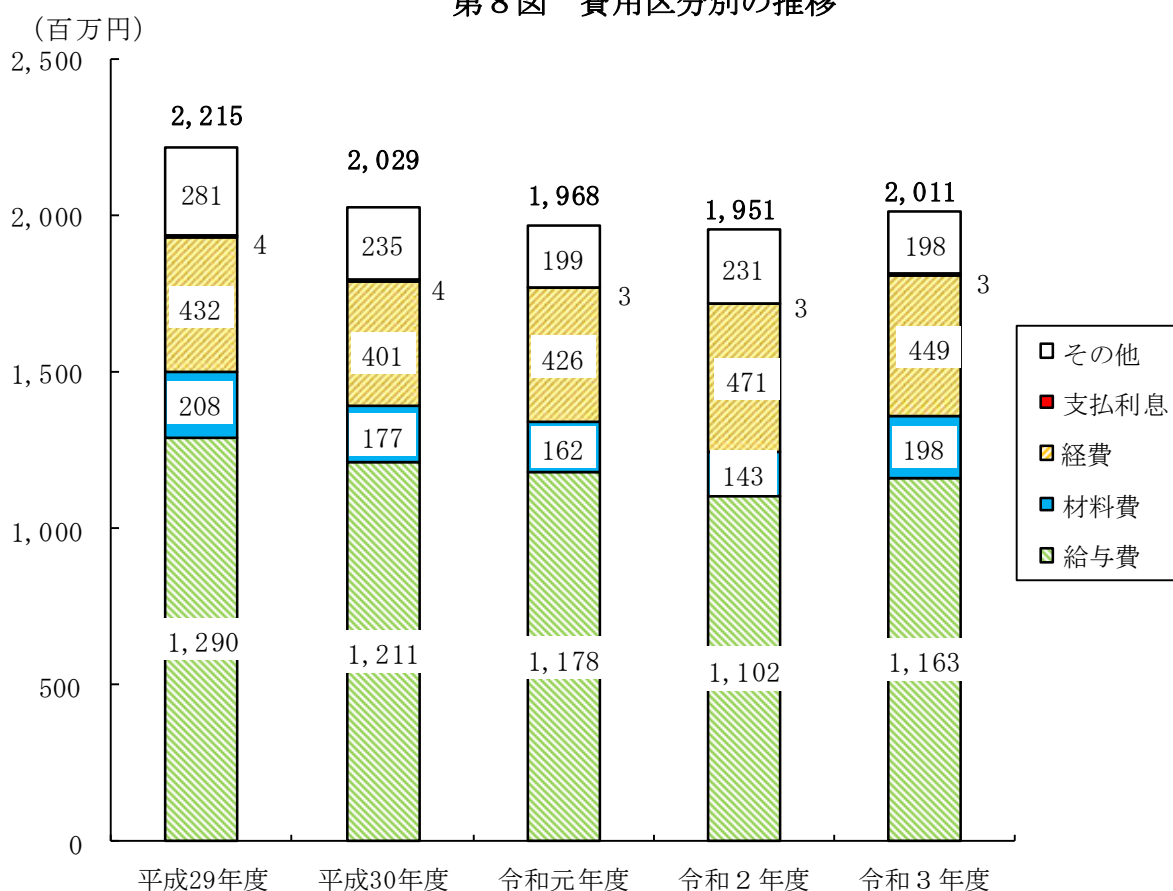
このうち、企業債利息は337万円で、前年度に比べ34万円(11.2%)増加している。

ウ 特別損失

特別損失は849万円で、前年度に比べ3,880万円(82.0%)減少している。これは、新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金の支出4,160万円が皆減となったことなどによるものである。

費用区分別の推移は、次のとおりであり、給与費、材料費の増加及び経費の減少が顕著である。

第8図 費用区分別の推移



4 財政状態（別表 15「病院事業比較貸借対照表」及び決算報告書中の貸借対照表参照）

(1) 資 産

当年度末における資産の総額は 13 億 7,968 万円で、前年度末に比べ 5,324 万円（3.7%）減少している。

ア 固定資産

固定資産は 9 億 7,723 万円で、前年度末に比べ 7,893 万円（7.5%）減少している。これは、建物が 3,179 万円、器械備品が 5,434 万円減少したことなどによるものである。

イ 流動資産

流動資産は 4 億 244 万円で、前年度末に比べ 2,568 万円（6.8%）増加している。これは、未収金が 2,966 万円増加したことなどによるものである。

未収金は 2 億 8,902 万円で、前年度末に比べ 2,966 万円（11.4%）増加している。未収金の内訳は、医業未収金 2 億 5,329 万円、医業外未収金 3,439 万円及びその他未収金（過年度未収金）133 万円などとなっている。また、貸倒引当金は 235 万円となっている。

過去 5 年間の年度末における過年度未収金（医業収益の滞納繰越分）の状況は、次のとおりである。

当年度末現在の過年度未収金は徴収額が増加したことにより 19 件、133 万円で、前年度に比べ件数では 26 件減少したものの金額では 31 万円増加している。また、当年度において不納欠損処分はなかった。引き続き債権の適切な管理に努められたい。

第 7 表 過年度未収金及び不納欠損額

| 区 分 | | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 過年度 未収金 | 件数(件) | 429 | 209 | 92 | 45 | 19 |
| | 金額(千円) | 8,704 | 5,968 | 1,391 | 1,029 | 1,337 |
| 不 納 欠損額 | 件数(件) | 387 | 10 | 10 | 1 | 0 |
| | 金額(千円) | 23,640 | 867 | 545 | 9 | 0 |

※消費税及び地方消費税を含む。

(2) 負 債

当年度末における負債総額は12億5,868万円で、前年度末に比べ2億6,907万円(17.6%)減少している。

また、当年度末の企業債の未償還残高は5億4,164万円で、前年度末に比べ6,244万円(10.3%)減少している。6,244万円の元金償還の一方で、新たな借入れはなかった。

ア 固定負債

固定負債は9億2,283万円で、前年度末に比べ1億8,478万円(16.7%)減少している。

企業債は4億8,170万円で、前年度末に比べ5,994万円(11.1%)減少している。

他会計借入金は1億6,000円で、前年度に比べ4,000万円(20.0%)減少している。

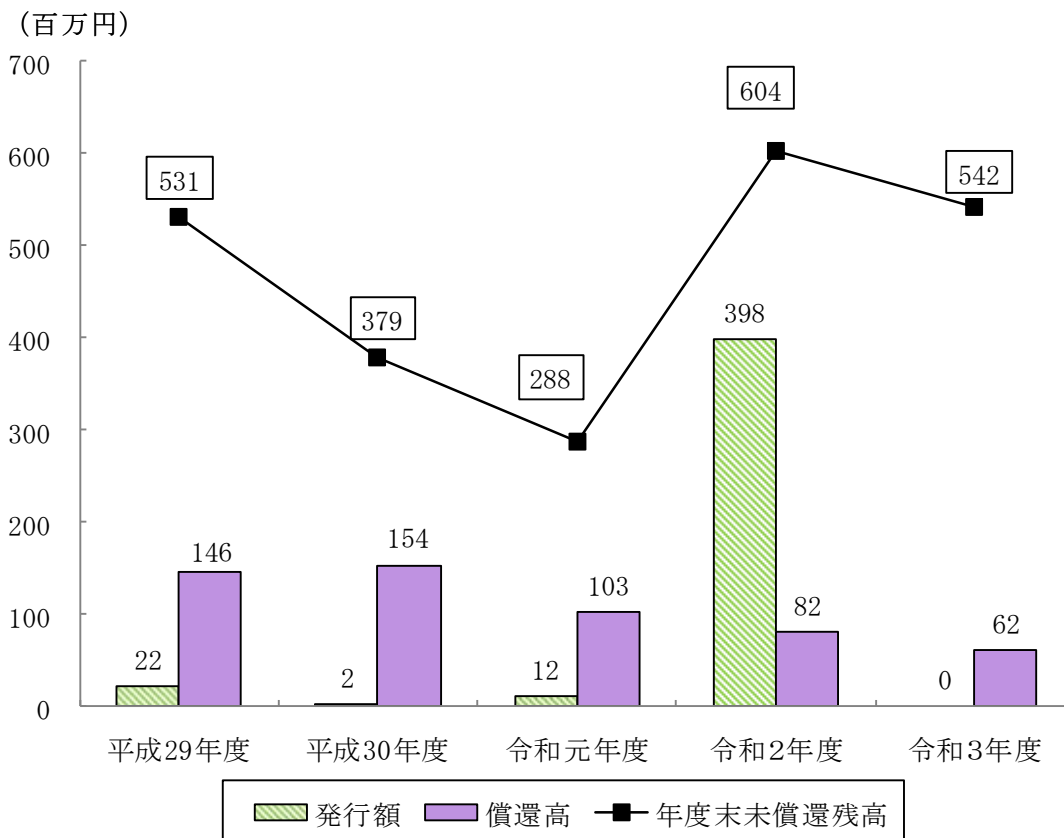
退職給付引当金は2億8,112万円で、前年度末に比べ8,484万円(23.2%)減少している。これは、新会計基準適用年度の退職手当の期末要支給額に相当する金額を、平成26年度から15事業年度に分割して計上することとされているものである。

イ 流動負債

流動負債は2億5,623万円で、前年度末に比べ8,967万円(25.9%)減少している。これは、未払金が1億2,920万円減少したことなどによるものである。。

企業債及び一時借入金は、当年度末から1年以内に返済期限の到来するものが計上されている。

第9図 企業債発行額、償還高及び年度末未償還残高の推移



当年度末企業債未償還残高の借入先内訳は、次のとおりである。

第8表 企業債未償還残高の内訳

| 借入先 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 残高 | 残高 | 残高 | 残高 | 残高 | 構成比 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 財務省財政融資資金 | 346,430 | 212,784 | 134,343 | 188,807 | 139,401 | 25.7 |
| 地方公共団体金融機構 | 178,332 | 166,063 | 153,546 | 388,976 | 375,948 | 69.4 |
| 市中金融機関 | 5,960 | — | — | 26,300 | 26,300 | 4.9 |
| 計 | 530,722 | 378,847 | 287,889 | 604,083 | 541,649 | 100.0 |

ウ 繰延収益

繰延収益は、償却資産の取得又は改良に伴い交付された補助金が長期前受金として整理されたものである。当年度末までの減価償却見合分8,431万円を差し引いた残高は7,961万円となっている。

(3)資 本

当年度末における資本総額は1億2,100万円で、前年度末に比べ2億1,582万円増加した。

ア 資本金

資本金は39億152万円で、前年度末に比べ4,082万円(1.1%)増加している。これは、一般会計から繰り入れられた出資金が加算された結果である。

イ 剰余金

欠損金は37億8,052万円で、前年度末に比べ1億7,500万円(4.4%)減少している。

資本剰余金は8,422万円で、前年度末からの増減はない。

利益剰余金は、当年度純利益1億7,500万円を加えた当年度未処理欠損金が38億6,474万円となり、翌年度に繰り越している。

(4) 一般会計からの繰入金

一般会計からの負担金、補助金及び出資金の年度別状況は、次のとおりである。

第9表 他会計補助金・出資金の状況

| 年度 | 他会計負担金及び 他会計補助金 | | 計 | | 他会計 出資金 | | 合 計 ③+④ | 指数 |
|----------|--------------------|------------|---------|----------------|------------|----------------|------------|-----|
| | 医業収益 ① | 医業外収益 ② | ①+②=③ | ③のうち基準 内繰入金 | ④ | ④のうち基 準内繰入金 | | |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| 平成 29 | 64,194 | 309,816 | 374,010 | 291,009 | 74,230 | 74,222 | 448,240 | 100 |
| 30 | 46,244 | 315,986 | 362,230 | 274,710 | 80,660 | 78,254 | 442,890 | 99 |
| 令和 元 | 45,731 | 288,232 | 333,963 | 232,056 | 67,521 | 52,721 | 401,484 | 90 |
| 2 | 47,420 | 316,480 | 363,900 | 238,102 | 49,480 | 42,271 | 413,380 | 92 |
| 3 | 47,410 | 334,590 | 382,000 | 379,050 | 40,820 | 32,512 | 422,820 | 94 |

(指数は平成29年度を100として比較)

(5) 財務比率等 (別表16「病院事業財務分析比率年度比較表」参照)

ア 収益率

(ア) 医業損益及び医業収支比率

当年度の医業損益は、2億9,810万円の損失で、前年度に比べ2億8,268万円損失額が減少している。これは、職員の給与費や材料費の増等により医業費用が増加した一方で、入院患者数の増等により医業収益が大幅に増加したことによるものである。

当年度の医業収支比率（医業に要する費用が、医業から生じた収益でどの程度賄われているかを示す指標）は84.5%で、前年度に比べ16.6ポイント上昇している。

(イ) 経常損益及び経常収支比率

当年度の経常損益は1億8,293万円の利益で、前年度に比べ2億4,434万円利益額が増加している。これは、入院患者の増などにより医業収益が大幅に増加したことなどによるものである。

当年度の経常収支比率（通常の事業活動に要する費用が、通常の事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標）は109.1%で、前年度に比べ12.3ポイント上昇している。

(ウ) 損益及び総収支比率

経常損益に特別損益を加えた当年度の損益は1億7,500万円の純利益となり、8期ぶりに黒字決算となった。

当年度の総収支比率（事業活動に要する費用が、事業活動から生ずる収益でどの程度賄われているかを示す指標）は108.7%で、前年度に比べ12.1ポイント上昇している。

第10表 医業損益，経常損益及び純損益の状況

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 医業損益① (医業収益－医業費用) | △ 547,308 | △ 482,220 | △ 423,576 | △ 580,789 | △ 298,108 |
| 経常損益② (①＋医業外収益－医業外費用) | △ 307,819 | △ 217,346 | △ 180,960 | △ 61,410 | 182,933 |
| 純損益 (②＋特別利益－特別損失) | △ 327,697 | △ 225,942 | △ 188,220 | △ 66,494 | 175,009 |

第11表 収支比率の推移

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| | % | % | % | % | % |
| 医業収支比率 (医業収益÷医業費用×100) | 73.9 | 75.2 | 77.5 | 67.9 | 84.5 |
| 経常収支比率 (経常収益÷経常費用×100) | 86.0 | 89.2 | 90.8 | 96.8 | 109.1 |
| 総収支比率 (総収益÷総費用×100) | 85.2 | 88.9 | 90.4 | 96.6 | 108.7 |

イ 構成比率

総資産のうち固定資産が占める割合を示し、経営の柔軟度をみる固定資産構成比率（比率は小さいほどよい）は70.8%で、前年度に比べ2.9ポイント低下している。

総資本のうち長期負債の割合をみる固定負債構成比率（比率は小さいほどよい）は66.9%で、前年度に比べ10.4ポイント低下し、他人資本への依存度が低くなっている。

財務状態の長期的な安全性をみる自己資本構成比率（比率は大きいほどよい）は14.5%で、前年度に比べ15.9ポイント上昇して、3期ぶりに債務超過を解消できた。

ウ 財務比率

固定資産が長期資本の範囲内で調達されているかをみる固定長期適合率（100%以下が適当）は87.0%で、前年度に比べ10.2ポイント低下している。

短期的支払能力についてみると、流動比率（200%以上が適当で、100%を下回っていれば不良債務が発生している）は157.1%で、前年度に比べ48.2ポイント上昇している。

当座比率（100%以上が適当）は156.2%で、前年度に比べ48.2ポイント上昇している。

資金不足比率（低いほどよい）は、2期連続で資金不足が生じていない。

いずれの比率も前年度より改善されたが、依然として厳しい資金繰りを示している。

(6) キャッシュ・フローの状況（別表17「病院事業キャッシュ・フロー計算書」参照）

業務活動によるキャッシュ・フローでは、3,879万円資金が増加している。これは、未払金等の減少により1億2,920万円減少、未収金の増加により2,966万円減少したものの、当年度純利益が1億7,500万円であったことなどによるものである。投資活

動によるキャッシュ・フローでは、2,044万円増加している。これは、固定資産の取得による支出により2,446万円減少したものの、固定資産の取得の財源にあてるための一般会計からの出資金による収入が4,082万円増加したことなどによるものである。財務活動によるキャッシュ・フローでは、6,243万円減少している。これは、建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出により6,243万円減少したことによるものである。

この結果、当年度の資金期末残高は1億1,352万円で、資金期首残高1億1,672万円に比べ319万円（2.7%）減少している。

第12表 キャッシュ・フロー計算書(概要)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 対前年度 | |
|--------------------------|-----------|----------|----------|----------|-----------|---------|
| | | | | | 増 減 | 増減率 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 業務活動による キャッシュ・フロー (A) | △ 106,051 | △ 62,074 | 149,275 | 38,798 | △ 110,478 | △ 74.0 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (B) | 73,952 | 46,912 | △ 92,115 | 20,440 | 112,555 | 122.2 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (C) | △ 151,875 | △ 10,958 | 36,194 | △ 62,434 | △ 98,628 | △ 272.5 |
| 資金増減額 (A)+(B)+(C) | △ 183,974 | △ 26,120 | 93,354 | △ 3,197 | △ 96,551 | △ 103.4 |
| 資金期首残高 | 233,465 | 49,491 | 23,371 | 116,726 | 93,354 | 399.4 |
| 資金期末残高 | 49,491 | 23,371 | 116,726 | 113,529 | △ 3,197 | △ 2.7 |

む す び

令和3年度病院事業決算の概要は、以上のとおりである。

当年度は4月に就任した病院事業管理者兼院長のもとで経営改善に取り組み、令和3年度病院事業の本業の経営成績を示す医業収支及び経常収支はともに8期ぶりに黒字となった。純利益額は1億7,500万円で前年度に比べ2億4,414万円増加し、平成26年度から8期ぶりに利益計上となった。これにより、当年度未処理欠損金は前年度繰越欠損金とあわせて38億6,474万円となり、前年度から1億7,501万円減少した。

その要因は、費用面では減価償却費、患者数の増加による材料費の増加及び職員数や退職者の増加による給与費の増加などによって総費用が19億2,413万円と、前年度に比べ1億1,212万円(6.2%)増加したが、収入面においては、年間患者数の増加、特に入院患者の大幅な増加に伴い医業収入が3億9,480万円(32.1%)増加したことによる。年間延入院患者数は3万2,850人で前年度に比べ7,319人(28.7%)の増加、病床利用率も90.9%(前年度比54.9ポイント増)に上昇し、年間延外来患者数も4万4,311人と1,214人(2.8%)増加した。また、当年度の収入においては医業収益の増加などにより、総収益は21億8,649万円で、前年度に比べ3億156万円(16.0%)の増収となった。また、企業債は新たな借入れが無かったことから、残高は6,243万円減少した。

経営状態を比率分析で見ると、収益の確保と費用の投下状況のバランスを示す医業収支比率(84.5%)、経常収支比率(109.1%)、総収支比率(108.7%)は、医業収支比率を除き平成26年度以降8期ぶりに100%を上回った。本年度は医業収支比率を含め各指標は改善しており経営努力の成果が見受けられる。短期的な支払能力を示す流動比率も157.1%(前年度108.9%)と改善されている。

なお、近隣自治体病院においても、別表18「近隣自治体病院の経営状況」のとおり、厳しい経営状態に置かれているが、自治体病院間でもそれぞれの病院の置かれた経営環境や診療サービスの提供度合いなどによって患者のみならず医師などの医療従事者からの選別が著しくなってきている。自治体病院の経営環境の問題として、①採算困難なへき地医療や救急医療に対応せざるを得ないこと、②医師の確保が困難なこと、③給与制度に弾力性がなく、経営状況を反映した給与の改正ができないこと、などがある。

笠岡市民病院は、救急医療、小児医療、島しょ部医療などの民間医療機関においては提供が困難とされる分野の医療に対しても、公立病院としての使命を果たすべく取り組んでいる。特に、新型コロナウイルス感染症への対応においては、県及び関係医療機関等と連携し、平日に加えて日曜・祝祭日の発熱外来の開設によるPCR検査と診察、ワクチン接種業務の実施、また新型コロナウイルス感染症患者用の入院病床を8床から11床に増床し受入れ可能な入院患者数の増等、地域医療を守る最後の砦として機能を発揮している。

こうした中で笠岡市民病院では、令和3年4月に就任した病院事業管理者兼院長のもとで経営の健全化に向けた経営改善に取り組んだ。主な成果は以下のとおりである。地域における医療体制の適正化の取り組みとして令和3年4月1日から許可病床数を194床から99床に変更し、入退院の管理の適正化を図り病床利用率は90.9%に向上した。医師の招へい及び確保に努め、常勤医師は前年度から2名増の10名となり、研修医の受入れや非常勤医師による診療体制の確保により、患者数増加に努めるとともに、施設基準の見直しにより患者1人1日当たりの診療収入は前年度と比較し増加している。また、医業費用では医療事務委託の見直しによる人員減等により経費は削減している。

笠岡市民病院が将来に亘って、安定的かつ継続的にその重要な役割を果たしていくためには経営基盤の安定が不可欠である。当年度は黒字決算により累積欠損金は前年度に比べ1億7,501万円減少し38億6,474万円となったものの依然として巨額である。引き続き経営改善に取り組み、収益増を図るとともに経費削減に努め、経営における黒字体質を維持されたい。

決 算 審 查 資 料

目 次

| | | |
|-------|-------------------|----|
| 別表 1 | 水道事業業務分析年度比較表 | 62 |
| 別表 2 | 水道事業比較損益計算書 | 63 |
| 別表 3 | 水道事業比較貸借対照表 | 64 |
| 別表 4 | 水道事業財務分析比率年度比較表 | 66 |
| 別表 5 | 水道事業キャッシュ・フロー計算書 | 68 |
| 別表 6 | 県内各市の水道事業経営状況 | 69 |
| 別表 7 | 下水道事業業務分析表 | 70 |
| 別表 8 | 下水道事業損益計算書 | 71 |
| 別表 9 | 下水道事業貸借対照表 | 72 |
| 別表 10 | 下水道事業財務分析比率表 | 74 |
| 別表 11 | 下水道事業キャッシュ・フロー計算書 | 76 |
| 別表 12 | 県内各市の下水道事業経営状況 | 77 |
| 別表 13 | 病院事業業務分析年度比較表 | 78 |
| 別表 14 | 病院事業比較損益計算書 | 79 |
| 別表 15 | 病院事業比較貸借対照表 | 80 |
| 別表 16 | 病院事業財務分析比率年度比較表 | 82 |
| 別表 17 | 病院事業キャッシュ・フロー計算書 | 84 |
| 別表 18 | 近隣自治体病院の経営状況 | 85 |

別表1 水道事業業務分析年度比較表

| 種別 | 区 分 | 単位 | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 前年度比較 | | 備 考 | |
|--------|--------------------------|--------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|--|----------------------|
| | | | | | | | 増減 | 増減率(%) | | |
| 給水普及状況 | 総 人 口 | 人 | 48,407 | 47,613 | 46,886 | 46,003 | △ 883 | △ 1.9 | 年度末現在市内総人口 | |
| | 計 画 給 水 人 口 | 人 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 0 | 0.0 | | |
| | 現 在 給 水 人 口 | 人 | 47,853 | 47,135 | 46,415 | 45,540 | △ 875 | △ 1.9 | | |
| | 給 水 戸 数 | 戸 | 21,829 | 21,750 | 21,711 | 21,593 | △ 118 | △ 0.5 | | |
| | 総 人 口 に 対 する 普 及 率 | % | 98.9 | 99.0 | 99.0 | 99.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| | 計 画 給 水 人 口 に 対 する 普 及 率 | % | 73.6 | 72.5 | 71.4 | 70.1 | △ 1.3 | △ 1.8 | | |
| 施設 | 配水施設 | 配 水 池 数 | 池 | 42 | 42 | 42 | 42 | 0 | 0.0 | |
| | | 導 送 配 水 管 延 長 | km | 490.08 | 500.91 | 501.65 | 502.40 | 0.75 | 0.1 | |
| | | 使 用 電 力 量 | kwh | 698,323 | 700,774 | 696,329 | 681,745 | △ 14,584 | △ 2.1 | |
| | 量 水 器 | 個 | 22,949 | 23,125 | 23,822 | 24,052 | 230 | 1.0 | | |
| | 1 日 配 水 能 力 | m ³ | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 0 | 0.0 | | |
| 設 | 年間配水量 | 有 収 水 量 | m ³ | 4,757,315 | 4,686,670 | 4,649,867 | 4,621,350 | △ 28,517 | △ 0.6 | |
| | | 無 収 水 量 | m ³ | 528,820 | 578,650 | 507,905 | 534,495 | 26,590 | 5.2 | |
| | | 総 配 水 量 | m ³ | 5,286,135 | 5,265,320 | 5,157,772 | 5,155,845 | △ 1,927 | △ 0.0 | |
| 業 | 有 収 率 | % | 90.0 | 89.0 | 90.2 | 89.6 | △ 0.6 | △ 0.7 | 年間総有収水量 年間総配水量 | |
| | 負 荷 率 | % | 89.1 | 89.1 | 76.7 | 90.4 | 13.7 | 17.9 | 1日平均配水量 1日最大配水量 | |
| | 施 設 利 用 率 | % | 36.2 | 36.0 | 35.3 | 35.3 | 0.0 | 0.0 | 1日平均配水量 1日配水能力 | |
| | 最 大 稼 働 率 | % | 40.6 | 40.4 | 46.1 | 39.1 | △ 7.0 | △ 15.2 | 1日最大配水量 1日配水能力 | |
| | 配 水 管 使 用 効 率 | m ³ /m | 10.8 | 10.5 | 10.3 | 10.3 | 0.0 | 0.0 | 年間総配水量 導送配水管延長 | |
| | 固 定 資 産 使 用 効 率 | m ³ /万円 | 8.2 | 7.8 | 7.2 | 6.8 | △ 0.4 | △ 5.6 | 年間総配水量 有形固定資産 | |
| | 1 日 最 大 配 水 量 | m ³ | 16,259 | 16,140 | 18,426 | 15,631 | △ 2,795 | △ 15.2 | | |
| | 1 日 平 均 配 水 量 | m ³ | 14,483 | 14,386 | 14,131 | 14,126 | △ 5 | △ 0.0 | | |
| | 1 日 平 均 給 水 量 | m ³ | 13,034 | 12,805 | 12,739 | 12,661 | △ 78 | △ 0.6 | | |
| | 1 人 1 日 平 均 給 水 量 | リットル | 272 | 272 | 274 | 278 | 4 | 1.5 | | |
| 務 | 職員一人当たり | 給 水 人 口 | 人 | 2,279 | 2,245 | 2,579 | 2,397 | △ 182 | △ 7.1 | 現在給水人口 損益勘定所属職員数 |
| | | 給 水 量 | m ³ | 226,539 | 223,175 | 258,326 | 243,229 | △ 15,097 | △ 5.8 | 年間総有収水量 損益勘定所属職員数 |
| | | 営 業 収 益 | 千円 | 53,792 | 53,440 | 48,876 | 58,214 | 9,338 | 19.1 | 営業収益 損益勘定所属職員数 |
| | | 営 業 費 用 | 千円 | 55,778 | 53,868 | 62,081 | 57,651 | △ 4,430 | △ 7.1 | 営業費用 損益勘定所属職員数 |
| | 供 給 単 価 | 円/m ³ | 230.09 | 230.84 | 180.86 | 231.46 | 50.60 | 28.0 | 給水収益 年間総有収水量 | |
| | 給 水 原 価 | 円/m ³ | 216.92 | 213.00 | 212.48 | 210.19 | △ 2.29 | △ 1.1 | 経常費用－(受託工事費＋付帯 事業費＋材料売却原価＋不用品 売却原価)－長期前受金戻入 年間総有収水量 | |
| | 販 売 損 益 | 円/m ³ | 13.17 | 17.84 | △ 31.62 | 21.27 | 52.89 | △ 167.3 | 供給単価－給水原価 | |
| | 損 益 勘 定 職 員 数 | 人 | 21 | 21 | 18 | 19 | 1 | 5.6 | | |

別表2 水道事業比較損益計算書

総 収 益

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|---------------|-----------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|--------------|
| | | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| 営業 収益 | 給 水 収 益 | 千円 1,094,606 | 千円 1,081,870 | 千円 840,963 | 千円 1,069,681 | 千円 228,718 | % 27.2 |
| | その他の営業収益 | 35,020 | 40,367 | 38,803 | 36,391 | △ 2,412 | △ 6.2 |
| | 計 | 1,129,626 | 1,122,237 | 879,766 | 1,106,071 | 226,306 | 25.7 |
| 営業 外 収益 | 受取利息及び配当金 | 761 | 535 | 584 | 229 | △ 355 | △ 60.8 |
| | 他会計補助金 | 3,860 | 3,420 | 6,294 | 2,127 | △ 4,166 | △ 66.2 |
| | 長期前受金戻入 | 150,236 | 156,944 | 150,423 | 147,514 | △ 2,909 | △ 1.9 |
| | 雑 収 益 | 5,054 | 43,732 | 33,748 | 30,701 | △ 3,047 | △ 9.0 |
| | 計 | 159,910 | 204,631 | 191,049 | 180,572 | △ 10,477 | △ 5.5 |
| 特 別 利 益 | 549 | 3,744 | 1,123 | 36 | △ 1,087 | △ 96.8 | |
| 合 計 | 1,290,086 | 1,330,612 | 1,071,937 | 1,286,679 | 214,742 | 20.0 | |

総 費 用

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|---------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|--------------|
| | | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| 営業 費 用 | 原 水 費 | 千円 527,826 | 千円 526,796 | 千円 516,071 | 千円 515,854 | 千円 △ 218 | % △ 0.0 |
| | 配水及び給水費 | 236,948 | 209,350 | 188,907 | 165,380 | △ 23,527 | △ 12.5 |
| | 総 係 費 | 114,097 | 92,478 | 109,712 | 116,342 | 6,630 | 6.0 |
| | 減価償却費 | 284,544 | 279,850 | 287,223 | 287,074 | △ 149 | △ 0.1 |
| | 資産減耗費 | 7,926 | 22,746 | 15,549 | 10,713 | △ 4,836 | △ 31.1 |
| | 計 | 1,171,342 | 1,131,221 | 1,117,463 | 1,095,362 | △ 22,101 | △ 2.0 |
| 営業 外 費用 | 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 5,921 | 4,638 | 3,754 | 3,500 | △ 254 | △ 6.8 |
| | 雑 支 出 | 4,919 | 19,339 | 17,220 | 20,026 | 2,805 | 16.3 |
| | 計 | 10,840 | 23,978 | 20,975 | 23,526 | 2,551 | 12.2 |
| 特 別 損 失 | 96 | 57,644 | 41,175 | 354 | △ 40,821 | △ 99.1 | |
| 合 計 | 1,182,278 | 1,212,842 | 1,179,612 | 1,119,242 | △ 60,370 | △ 5.1 | |

損 益

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|-------------|--|----------------|---------------|-----------------|--------------|---------------|--------------|
| | | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| 営 業 損 益 | | 千円 △ 41,715 | 千円 △ 8,984 | 千円 △ 237,697 | 千円 10,709 | 千円 248,406 | % △ 104.5 |
| 経 常 損 益 | | 107,355 | 171,669 | △ 67,623 | 167,755 | 235,378 | △ 348.1 |
| 当 年 度 純 損 益 | | 107,807 | 117,769 | △ 107,675 | 167,437 | 275,112 | △ 255.5 |

別表3 水道事業比較貸借対照表

資産の部

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較 | | 増(△)減率 E/C×100 % |
|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|---------|------------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D 千円 | 構成比 % | 金額 E=D-C 千円 | | |
| 固定資産 | 6,851,672 | 74.7 | 7,100,971 | 75.1 | 7,455,979 | 77.2 | 7,843,771 | 78.1 | 387,792 | 5.2 | |
| 土地 | 427,643 | 4.7 | 427,643 | 4.5 | 427,643 | 4.4 | 428,005 | 4.3 | 362 | 0.1 | |
| 建物 | 390,990 | 4.3 | 379,469 | 4.0 | 367,977 | 3.8 | 359,813 | 3.6 | △ 8,164 | △ 2.2 | |
| 構築物 | 5,268,017 | 57.4 | 5,513,916 | 58.3 | 5,801,226 | 60.1 | 6,090,202 | 60.6 | 288,976 | 5.0 | |
| 機械及び装置 | 247,787 | 2.7 | 281,929 | 3.0 | 268,738 | 2.8 | 262,117 | 2.6 | △ 6,622 | △ 2.5 | |
| 車両及び運搬具 | 2,271 | 0.0 | 2,438 | 0.0 | 2,030 | 0.0 | 2,441 | 0.0 | 411 | 20.3 | |
| 工具器具及び備品 | 1,546 | 0.0 | 1,436 | 0.0 | 1,330 | 0.0 | 1,224 | 0.0 | △ 106 | △ 8.0 | |
| 量水器 | 73,880 | 0.8 | 74,104 | 0.8 | 74,046 | 0.8 | 74,193 | 0.7 | 147 | 0.2 | |
| 建設仮勘定 | 66,963 | 0.7 | 87,004 | 0.9 | 207,002 | 2.1 | 320,270 | 3.2 | 113,268 | 54.7 | |
| 施設利用権 | 305,507 | 3.3 | 305,507 | 3.2 | 305,507 | 3.2 | 305,507 | 3.0 | 0 | 0.0 | |
| ソフトウェア | 1,440 | 0.0 | 960 | 0.0 | 480 | 0.0 | 0 | 0.0 | △ 480 | △ 100.0 | |
| 長期貸付金 | 65,628 | 0.7 | 26,566 | 0.3 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 流動資産 | 2,320,734 | 25.3 | 2,356,017 | 24.9 | 2,199,929 | 22.8 | 2,201,511 | 21.9 | 1,581 | 0.1 | |
| 現金預金 | 1,813,403 | 19.8 | 1,741,167 | 18.4 | 1,580,768 | 16.4 | 1,592,426 | 15.9 | 11,658 | 0.7 | |
| 未収金 | 430,899 | 4.7 | 542,736 | 5.7 | 594,334 | 6.2 | 575,464 | 5.7 | △ 18,870 | △ 3.2 | |
| 貸倒引当金 | △ 1,987 | △ 0.0 | △ 2,012 | △ 0.0 | △ 1,361 | △ 0.0 | △ 1,814 | △ 0.0 | △ 453 | 33.3 | |
| 貯蔵品 | 53,337 | 0.6 | 54,053 | 0.6 | 11,676 | 0.1 | 10,522 | 0.1 | △ 1,154 | △ 9.9 | |
| 前払金 | 25,081 | 0.3 | 20,072 | 0.2 | 14,513 | 0.2 | 24,913 | 0.2 | 10,400 | 71.7 | |
| 資産合計 | 9,172,406 | 100.0 | 9,456,989 | 100.0 | 9,655,909 | 100.0 | 10,045,282 | 100.0 | 389,374 | 4.0 | |

負債・資本の部

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較 | | 増(△)減率 E/C×100 % |
|-----------------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|--------|------------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D 千円 | 構成比 % | 金額 E=D-C 千円 | | |
| 固定負債 | 248,131 | 2.7 | 214,275 | 2.3 | 321,277 | 3.3 | 429,269 | 4.3 | 107,992 | 33.6 | |
| 企業債 | 133,972 | 1.5 | 107,721 | 1.1 | 217,732 | 2.3 | 337,572 | 3.4 | 119,841 | 55.0 | |
| 引当金 | 114,159 | 1.2 | 106,554 | 1.1 | 103,545 | 1.1 | 91,697 | 0.9 | △ 11,848 | △ 11.4 | |
| 流動負債 | 327,536 | 3.6 | 384,910 | 4.1 | 543,815 | 5.6 | 590,892 | 5.9 | 47,078 | 8.7 | |
| 企業債 | 25,367 | 0.3 | 26,252 | 0.3 | 23,989 | 0.2 | 28,159 | 0.3 | 4,171 | 17.4 | |
| 未払金 | 199,899 | 2.2 | 254,248 | 2.7 | 421,544 | 4.4 | 455,801 | 4.5 | 34,257 | 8.1 | |
| 引当金 | 9,037 | 0.1 | 8,713 | 0.1 | 8,842 | 0.1 | 9,540 | 0.1 | 698 | 7.9 | |
| その他流動負債 | 93,233 | 1.0 | 95,697 | 1.0 | 89,440 | 0.9 | 97,392 | 1.0 | 7,952 | 8.9 | |
| 繰延収益 | 3,133,597 | 34.2 | 3,214,485 | 34.0 | 3,237,686 | 33.5 | 3,289,636 | 32.7 | 51,951 | 1.6 | |
| 長期前受金 | 7,529,607 | 82.1 | 7,733,594 | 81.8 | 7,893,959 | 81.8 | 8,080,292 | 80.4 | 186,332 | 2.4 | |
| 長期前受金 収益化累計額 | △ 4,396,010 | △ 47.9 | △ 4,519,109 | △ 47.8 | △ 4,656,274 | △ 48.2 | △ 4,790,655 | △ 47.7 | △ 134,381 | 2.9 | |
| 負債合計 | 3,709,264 | 40.4 | 3,813,669 | 40.3 | 4,102,777 | 42.5 | 4,309,798 | 42.9 | 207,021 | 5.0 | |
| 資本金 | 3,990,280 | 43.5 | 4,051,001 | 42.8 | 4,118,488 | 42.7 | 4,309,403 | 42.9 | 190,915 | 4.6 | |
| 剰余金 | 1,472,862 | 16.1 | 1,592,319 | 16.8 | 1,434,644 | 14.9 | 1,426,081 | 14.2 | △ 8,563 | △ 0.6 | |
| 資本剰余金 | 600,020 | 6.5 | 651,708 | 6.9 | 651,708 | 6.7 | 651,708 | 6.5 | 0 | 0.0 | |
| 利益剰余金 | 872,842 | 9.5 | 940,611 | 9.9 | 782,936 | 8.1 | 774,374 | 7.7 | △ 8,563 | △ 1.1 | |
| 資本合計 | 5,463,141 | 59.6 | 5,643,319 | 59.7 | 5,553,131 | 57.5 | 5,735,484 | 57.1 | 182,353 | 3.3 | |
| 負債資本合計 | 9,172,406 | 100.0 | 9,456,989 | 100.0 | 9,655,909 | 100.0 | 10,045,282 | 100.0 | 389,374 | 4.0 | |

別表4 水道事業財務分析比率年度比較表（その1）

| 分析項目 | | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 比率公式 | 説明 |
|------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|--|--|
| 収益率 | 総収支比率 | % 109.12 | % 109.71 | % 90.87 | % 114.96 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 比率は100%以上で大きいほど経営状態は良好である。 |
| | 経常収支比率 | 109.08 | 114.86 | 94.06 | 114.99 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | 経常的な収益と費用の関連を示し高いほどよい。 |
| | 営業収支比率 | 96.44 | 99.21 | 78.73 | 100.98 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ | 業務活動の能率を示し高いほどよい。 |
| | 総利益率 | 1.18 | 1.26 | △ 1.12 | 1.70 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 投下資本と企業活動の結果としての利益との関係を表す。大きいほどよい。 |
| | 自己資本率 | 1.26 | 1.35 | △ 1.22 | 1.88 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均自己資本}} \times 100$ | 自己資本と企業活動の結果としての利益との関係を表す。大きいほどよい。 |
| 構成比率 | 固定資産比率 | 74.70 | 75.09 | 77.22 | 78.08 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 事業の財産構成の適正度をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 固定負債比率 | 2.71 | 2.27 | 3.33 | 4.27 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}} \times 100$ | 総資本中に長期負債が占める割合をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 自己資本率 | 93.72 | 93.66 | 91.04 | 89.84 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$ | 資本中の自己資本の割合をみる。比率は大きいほどよい。 |
| 財務比率 | 固定比率 | 79.70 | 80.17 | 84.82 | 86.91 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 固定資産が自己資本によってまかなわれているかをみる。比率は100%以下が適当。 |
| | 固定長期適合率 | 77.46 | 78.27 | 81.83 | 82.96 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ | 固定資産の調達に長期資本の範囲内で行われているかをみる。比率は少なくとも100%以下が適当。 |
| | 流動比率 | 708.54 | 612.10 | 404.54 | 372.57 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 企業の支払能力をみる。比率は200%以上が適当。 |
| | 当座比率 | 684.60 | 592.84 | 399.72 | 366.58 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動負債に対する当座資産の割合をみる。100%以上が適当。 |
| | 現金預金率 | 553.65 | 452.36 | 290.68 | 269.50 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動負債に対する現金預金の割合をみる。20%以上が適当。 |
| | 負債比率 | 6.70 | 6.76 | 9.84 | 11.30 | $\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 自己資本からみた他人資本への依存度を表す。比率は100%以下が適当。 |
| 回転率 | 総資本回転率（回） | 0.14 | 0.14 | 0.11 | 0.13 | $\frac{\text{総収益}}{\text{平均総資本}}$ | 資本の活用度をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 自己資本回転率（回） | 0.13 | 0.13 | 0.10 | 0.12 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 同上 |
| | 固定資産回転率（回） | 0.16 | 0.16 | 0.12 | 0.14 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 資産の稼働状況をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 未収金回転率（回） | 2.84 | 2.80 | 2.17 | 2.78 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 同上 |
| | 減価償却率 | 4.33 | 4.09 | 4.04 | 3.89 | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | 減価償却費の割合をみる。 |

別表4 水道事業財務分析比率年度比較表 (その2)

| 分析項目 | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 比率公式 | 説明 | |
|------|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-------|--|--|
| その他 | 利子負担率 | 3.15 | 3.16 | 2.00 | 0.91 | $\frac{\text{支払利息}}{\text{平均(企業債+借入金)}} \times 100$ | 企業債及び借入金の利子と負債を比較することにより利息の利率の高低を示し低いほど低廉な資金を利用。 |
| | 企業債償還額 対償還財源比率 | 14.45 | 6.38 | 14.62 | 5.28 | $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{減価償却費+当年度純利益}} \times 100$ | 企業債償還能力を示し低率ほど償還能力は高い。 |
| | 企業債元利償 還金対給水収 益比率 | 5.72 | 2.77 | 3.57 | 2.57 | $\frac{\text{企業債元利償還額}}{\text{給水収益}} \times 100$ | 給水収益に対する企業債元利償還金の割合を示し低いほどよい。 |
| | 職員給与費対 給水収益比率 | 14.26 | 11.82 | 16.65 | 13.34 | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{給水収益}} \times 100$ | 給水収益に対する職員給与費の割合であり低いほど良い。 |

- ※ 収益率 … 収益と費用とを対比して企業の経営活動の成果を表すものである。
 構成比率 … 企業の長期的健全性を示す指標で、構成部分の全体に対する関係を表すものである。
 財務比率 … 貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものである。
 回転率 … 企業の活動性を示すもので、高率ほど資本が効率的に使われていることを表すものである。

※ 上記各比率公式に用いた用語の定義は次のとおりである。

- 1 固定資産 = 取得価額－減価償却累計額
- 2 総資産 = 固定資産＋流動資産
- 3 自己資本 = 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益
- 4 総資本 = 資本金＋剰余金＋負債
- 5 負債 = 固定負債＋流動負債＋繰延収益
- 6 平均 = (期首＋期末) × 1/2
- 7 総収益 = 水道事業収益
- 8 総費用 = 水道事業費用
- 9 期末償却資産 = [有形固定資産(償却未済額)＋無形固定資産]－(土地＋建設仮勘定)
- 10 職員給与費 = 損益勘定所属職員給与費

別表5 水道事業キャッシュ・フロー計算書

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 対前年度 | | |
|-----------------------|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | | | | | 増減額 | 増減率 | |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % | |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 当年度純利益（△は純損失） | 107,807 | 117,769 | △ 107,675 | 167,437 | 275,112 | 164.3 |
| | 減価償却費 | 284,544 | 279,850 | 287,223 | 287,074 | △ 149 | △ 0.1 |
| | 固定資産除却費等 | 5,540 | 20,829 | 11,549 | 9,560 | △ 1,989 | △ 17.2 |
| | 貸倒引当金の増減額（△は減少） | △ 631 | 25 | △ 650 | 453 | 1,103 | △ 169.6 |
| | 退職給付引当金の増減額（△は減少） | △ 2,427 | △ 7,605 | △ 3,009 | △ 11,848 | △ 8,839 | 293.8 |
| | 賞与引当金の増減額（△は減少） | 907 | △ 324 | 129 | 698 | 569 | 440.7 |
| | 長期前受金戻入額 | △ 150,236 | △ 99,514 | △ 150,423 | △ 147,514 | 2,909 | △ 1.9 |
| | 受取利息 | △ 761 | △ 535 | △ 584 | △ 229 | 355 | △ 60.8 |
| | 支払利息 | 5,921 | 4,638 | 3,754 | 3,500 | △ 254 | △ 6.8 |
| | 未収金の増減額（△は増加） | 34,843 | △ 111,837 | △ 51,598 | 18,870 | 70,468 | △ 136.6 |
| | 貯蔵品の増減額（△は増加） | 135 | △ 716 | 42,377 | 1,154 | △ 41,223 | △ 97.3 |
| | 前払金の増減額（△は増加） | △ 17,877 | 5,009 | 5,559 | △ 10,400 | △ 15,959 | △ 287.1 |
| | 未払金の増減額（△は減少） | 11,957 | 54,349 | 167,295 | 34,257 | △ 133,038 | △ 79.5 |
| | その他流動負債の増減額（△は減少） | 3,876 | 2,464 | △ 6,257 | 7,952 | 14,209 | △ 227.1 |
| | 小 計 | 283,600 | 264,404 | 197,692 | 360,965 | 163,273 | 82.6 |
| | 利息の受取額 | 761 | 535 | 584 | 229 | △ 355 | △ 60.8 |
| 利息の支払額 | △ 5,921 | △ 4,638 | △ 3,754 | △ 3,500 | 254 | △ 6.8 | |
| 計 (A) | 278,440 | 260,300 | 194,522 | 357,694 | 163,172 | 83.9 | |
| キャッシュ活動による | 固定資産の取得による支出 | △ 273,208 | △ 568,381 | △ 676,304 | △ 673,259 | 3,045 | △ 0.5 |
| | 資本勘定支弁職員分の引当金 | 0 | 0 | △ 1,632 | △ 358 | 1,274 | △ 78.1 |
| | 固定資産の取得の財源に充てるための一般会計等からの負担金収入 | 83,294 | 130,137 | 87,833 | 42,143 | △ 45,690 | △ 52.0 |
| | 固定資産の取得の財源に充てるための一般会計からの出資金収入 | 17,066 | 16,421 | 5,020 | 3,000 | △ 2,020 | △ 40.2 |
| | 固定資産の取得の財源に充てるための国庫補助金収入 | 0 | 75,593 | 83,380 | 146,457 | 63,077 | 75.7 |
| | 他会計からの貸付金の回収による収入 | 39,062 | 39,062 | 26,566 | 0 | △ 26,566 | 皆減 |
| | 固定資産の売却による収入 | 0 | 0 | 0 | 54 | 54 | 皆増 |
| 計 (B) | △ 133,786 | △ 307,168 | △ 475,137 | △ 481,962 | △ 6,825 | 1.4 | |
| キャッシュ活動による | 建設改良費等の財源に充てるための企業債の発行による収入 | 0 | 0 | 134,000 | 148,000 | 14,000 | 10.4 |
| | 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 56,700 | △ 25,367 | △ 26,252 | △ 23,989 | 2,263 | △ 8.6 |
| | 企業債償還の財源に充てるための一般会計からの出資金による収入 | 0 | 0 | 12,467 | 11,915 | △ 552 | △ 4.4 |
| | 計 (C) | △ 56,700 | △ 25,367 | 120,215 | 135,926 | 15,711 | 13.1 |
| 資金増減額 (A) + (B) + (C) | 87,954 | △ 72,235 | △ 160,400 | 11,658 | 172,058 | △ 107.3 | |
| 資金期首残高 | 1,725,449 | 1,813,403 | 1,741,167 | 1,580,768 | △ 160,400 | △ 9.2 | |
| 資金期末残高 | 1,813,403 | 1,741,167 | 1,580,768 | 1,592,426 | 11,658 | 0.7 | |

別表6 県内各市の水道事業経営状況

(令和2年度)

| | 給水人口 (年度末現在) | 有収率 % | 施設 利用率 | 営業収支 比率 | 職員(損益勘定所属)一人当たり | | | 供給単価 円 | 給水原価 円 | 家庭使用料 (20m ³ /月) (口径13mm) 円 |
|-------|-----------------|----------|-----------|------------|-----------------|-------------------------|------------|-----------|-----------|---|
| | | | | | 給水人口 人 | 有収水量 千m ³ | 営業収益 万円 | | | |
| 岡山市 | 705,719 | 91.0 | 70.4 | 96.1 | 2,656 | 303 | 4,849 | 150.27 | 148.38 | 2,563 |
| 倉敷市 | 480,614 | 92.9 | 64.5 | 113.7 | 4,450 | 515 | 7,055 | 124.20 | 107.84 | 2,200 |
| 津山市 | 98,709 | 87.0 | 58.5 | 89.7 | 4,292 | 484 | 10,067 | 187.94 | 209.06 | 3,575 |
| 玉野市 | 57,175 | 92.0 | 79.2 | 104.1 | 2,486 | 469 | 5,649 | 117.57 | 105.86 | 2,178 |
| 笠岡市 | 46,415 | 90.2 | 35.3 | 78.7 | 2,579 | 258 | 4,888 | 180.86 | 213.00 | 4,268 |
| 井原市 | 30,245 | 86.5 | 56.6 | 97.1 | 2,520 | 238 | 3,757 | 155.57 | 147.53 | 3,080 |
| 総社市 | 66,628 | 89.2 | 67.5 | 93.6 | 7,403 | 788 | 11,378 | 139.34 | 136.68 | 2,750 |
| 高梁市 | 27,521 | 78.4 | 60.5 | 63.4 | 1,720 | 185 | 4,034 | 218.00 | 190.54 | 3,140 |
| 新見市 | 26,003 | 82.2 | 65.4 | 51.3 | 2,167 | 235 | 4,076 | 173.22 | 158.01 | 3,740 |
| 備前市 | 32,917 | 74.3 | 78.4 | 82.4 | 2,992 | 414 | 5,680 | 130.46 | 165.77 | 2,772 |
| 瀬戸内市 | 36,859 | 80.4 | 61.4 | 98.9 | 2,048 | 224 | 3,947 | 170.94 | 181.29 | 3,762 |
| 赤磐市 | 43,610 | 88.0 | 49.3 | 98.7 | 3,965 | 432 | 8,451 | 124.14 | 188.72 | 3,666 |
| 真庭市 | 38,699 | 78.0 | 52.6 | 86.6 | 4,300 | 449 | 9,683 | 214.29 | 210.16 | 4,290 |
| 美作市 | 26,695 | 70.9 | 48.4 | 76.3 | 1,161 | 135 | 2,733 | 195.27 | 197.94 | 4,180 |
| 浅口市 | 32,894 | 91.3 | 53.2 | 60.9 | 6,579 | 674 | 7,835 | 108.71 | 184.68 | 3,170 |
| 15市平均 | 116,714 | 84.8 | 60.1 | 86.1 | 3,421 | 387 | 6,272 | 159.40 | 169.70 | 3,289 |

(注) 1 総務省が公開している地方公営企業年鑑の数値を利用した。
2 15市平均は、各市の数値を合計し、15で除した数値である。

別表7 下水道事業業務分析表

| 種別 | 区分 | 単位 | 平成30年度 | | | | 令和元年度 | | | | 令和2年度 | | | | 令和3年度 | | | | 備考 |
|---------|----------|------|-----------|---------------|--------------|-----------|-----------|---------------|--------------|-----------|-----------|---------------|--------------|-----------|-----------|---------------|--------------|-----------|-----------------------|
| | | | 公共下水道事業 | 特定区域保全公共下水道事業 | 汚染処理排水施設整備事業 | 全体 | 公共下水道事業 | 特定区域保全公共下水道事業 | 汚染処理排水施設整備事業 | 全体 | 公共下水道事業 | 特定区域保全公共下水道事業 | 汚染処理排水施設整備事業 | 全体 | 公共下水道事業 | 特定区域保全公共下水道事業 | 汚染処理排水施設整備事業 | 全体 | |
| 下水道事業 | 全体計画面積 | ha | 1,382 | 125 | 11 | 1,518 | 1,382 | 125 | 11 | 1,518 | 1,382 | 125 | 11 | 1,518 | 1,382 | 125 | 11 | 1,518 | |
| | 現在処理区域面積 | ha | 821 | 26 | 11 | 858 | 821 | 26 | 11 | 858 | 821 | 26 | 11 | 858 | 821 | 26 | 11 | 873 | |
| 下水道普及状況 | 行政区域内人口 | 人 | 48,407 | | | | 47,613 | | | | 46,886 | | | | 46,003 | | | | 年度末現在市内総人口 |
| | 全体計画人口 | 人 | 29,000 | 2,540 | 1,310 | 32,850 | 29,000 | 2,540 | 1,310 | 32,850 | 29,000 | 2,540 | 1,310 | 32,850 | 29,000 | 2,540 | 1,310 | 32,850 | |
| 施設 | 処理区域人口 | 人 | 27,335 | 694 | 183 | 28,142 | 27,002 | 652 | 177 | 27,831 | 26,776 | 634 | 175 | 27,585 | 26,435 | 654 | 160 | 27,249 | 処理区域人口÷行政区域内人口×100 |
| | 普及率 | % | 56.5 | 1.3 | 0.4 | 58.1 | 56.7 | 1.4 | 0.4 | 58.5 | 57.1 | 1.4 | 0.4 | 58.8 | 57.5 | 1.4 | 0.3 | 59.2 | |
| 設備 | 水洗化率 | % | 24,571 | 321 | 171 | 25,063 | 24,399 | 339 | 165 | 24,903 | 24,329 | 358 | 163 | 24,850 | 24,167 | 375 | 148 | 24,690 | 水洗化人口÷処理区域人口×100 |
| | 水洗化率 | % | 89.9 | 51.4 | 93.4 | 89.1 | 90.4 | 82.0 | 93.2 | 89.5 | 90.9 | 86.5 | 93.1 | 90.1 | 91.4 | 87.3 | 92.5 | 90.6 | |
| 施設 | ポンプ場 | 箇所 | 1 | — | — | 2 | 1 | — | — | 2 | 1 | — | — | 2 | 1 | — | — | 2 | |
| | ポンプ場 | 箇所 | 4 | — | — | 4 | 4 | — | — | 4 | 4 | — | — | 4 | 4 | — | — | 4 | |
| 施設 | 汚水管 | km | 204 | 9 | 6 | 219 | 205 | 10 | 6 | 221 | 207 | 10 | 6 | 223 | 208 | 11 | 6 | 225 | |
| | 雨水管 | km | 14 | — | — | 14 | 14 | — | — | 14 | 14 | — | — | 14 | 14 | — | — | 14 | |
| 施設 | 有取水量 | m³ | 3,267,029 | 21,461 | 14,345 | 3,302,835 | 2,769,323 | 23,687 | 13,731 | 2,806,741 | 2,828,465 | 24,196 | 13,526 | 2,866,187 | 2,829,913 | 25,222 | 12,413 | 2,867,548 | |
| | 無取水量 | m³ | 635,551 | 2,617 | 2,757 | 641,125 | 479,320 | 1,047 | 1,767 | 482,134 | 605,686 | 2,016 | 1,864 | 609,566 | 605,215 | 1,715 | 2,359 | 609,289 | |
| 業務 | 汚水処理量 | m³ | 3,902,580 | 24,278 | 17,102 | 3,943,960 | 3,248,643 | 24,734 | 15,498 | 3,288,875 | 3,434,151 | 25,212 | 15,390 | 3,475,753 | 3,435,128 | 26,937 | 14,772 | 3,476,837 | 年間有取水量÷年間汚水処理量×100 |
| | 有取率 | % | 81.4 | 88.4 | 83.9 | 83.7 | 85.2 | 95.8 | 88.6 | 85.3 | 82.4 | 82.3 | 87.9 | 82.5 | 82.4 | 93.6 | 84.0 | 82.5 | |
| 業務 | 施設利用率 | % | 56.6 | — | 14.0 | 55.8 | 53.4 | — | 12.5 | 52.7 | 55.9 | — | 12.5 | 55.2 | 56.0 | — | 11.9 | 55.3 | 雨天時平均処理水量÷平常時処理能力×100 |
| | 経費回収率 | % | 82.6 | 52.1 | 24.5 | 81.2 | 81.8 | 51.9 | 23.4 | 80.4 | 85.2 | 50.4 | 18.8 | 83.2 | 81.3 | 51.8 | 18.6 | 79.7 | 下水道使用料÷汚水処理量×100 |
| 業務 | 処理区域人口 | 人 | 3,905 | 89 | 26 | 4,020 | 3,867 | 93 | 25 | 3,976 | 3,947 | 79 | 22 | 3,448 | 3,304 | 82 | 20 | 3,406 | |
| | 汚水処理水量 | m³ | 557,511 | 3,468 | 2,443 | 563,442 | 484,092 | 3,533 | 2,214 | 489,839 | 429,269 | 3,277 | 1,924 | 494,469 | 429,391 | 3,367 | 1,847 | 494,605 | |
| 業務 | 営業収益 | 千円 | 97,480 | 382 | 507 | 98,369 | 100,961 | 409 | 335 | 101,705 | 85,472 | 368 | 286 | 86,127 | 83,939 | 386 | 263 | 84,588 | |
| | 営業費用 | 千円 | 174,827 | 5,347 | 4,945 | 185,119 | 168,933 | 5,568 | 4,334 | 178,825 | 146,724 | 5,345 | 4,177 | 155,246 | 147,886 | 5,852 | 3,955 | 157,692 | |
| 業務 | 使用料単価 | 円/m³ | 129.74 | 124.60 | 169.54 | 151.78 | 152.69 | 130.87 | 170.64 | 152.51 | 152.67 | 121.71 | 169.08 | 152.49 | 152.16 | 122.39 | 169.66 | 151.96 | 下水道使用料÷年間有取水量 |
| | 汚水処理原価 | 円/m³ | 157.15 | 229.13 | 691.04 | 186.96 | 186.71 | 233.08 | 728.86 | 189.75 | 179.29 | 241.28 | 899.23 | 183.21 | 187.07 | 236.38 | 914.28 | 190.65 | 汚水処理費÷年間有取水量 |
| 業務 | 汚水処理損益 | 円/m³ | △ 27.41 | △ 114.53 | 521.50 | △ 35.20 | △ 34.02 | △ 112.21 | △ 588.22 | △ 37.24 | △ 26.62 | △ 119.57 | △ 730.15 | △ 30.72 | △ 34.91 | △ 113.99 | △ 744.62 | △ 38.67 | 汚水処理費÷年間有取水量 |
| | 利益勘定帳口数 | 人 | 7 | | | | 7 | | | | 8 | | | | 8 | | | | |

別表8 下水道事業損益計算書

総 収 益

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|--------------|--------------|
| | | 金 額 A | 金 額 B | 金 額 C | 金 額 D | 金 額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 営業 収益 | 下水道使用料 | 428,964 | 428,050 | 437,057 | 435,796 | △ 1,261 | △ 0.3 |
| | 他会計負担金 | 232,533 | 247,625 | 221,063 | 207,623 | △ 13,440 | △ 6.1 |
| | 下水処理負担金 | 23,905 | 35,348 | 30,127 | 32,227 | 2,100 | 7.0 |
| | 受託事業収益 | 813 | 821 | 737 | 870 | 133 | 18.1 |
| | その他の営業収益 | 2,370 | 90 | 29 | 187 | 158 | 551.4 |
| | 計 | 688,585 | 711,933 | 689,012 | 676,703 | △ 12,309 | △ 1.8 |
| 営業 外 収益 | 受取利息及び配当金 | 1 | 2 | 3 | 3 | △ 0 | △ 5.6 |
| | 他会計負担金 | 555,746 | 481,834 | 484,873 | 467,160 | △ 17,712 | △ 3.7 |
| | 長期前受金戻入 | 419,284 | 391,441 | 379,002 | 376,359 | △ 2,643 | △ 0.7 |
| | 雑 収 益 | 2,329 | 1,099 | 1,731 | 2,751 | 1,020 | 58.9 |
| | 計 | 977,360 | 874,376 | 865,609 | 846,272 | △ 19,336 | △ 2.2 |
| 特 別 利 益 | 3,427 | 3,723 | 0 | 0 | 0 | — | |
| 合 計 | 1,669,372 | 1,590,033 | 1,554,621 | 1,522,975 | △ 31,645 | △ 2.0 | |

総 費 用

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|---------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|--------------|
| | | 金 額 A | 金 額 B | 金 額 C | 金 額 D | 金 額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 営業 費 用 | 管 渠 費 | 49,203 | 48,199 | 55,316 | 46,019 | △ 9,297 | △ 16.8 |
| | ポンプ場費 | 24,895 | 38,494 | 23,041 | 28,642 | 5,601 | 24.3 |
| | 処理場費 | 189,516 | 183,158 | 196,937 | 204,833 | 7,897 | 4.0 |
| | 総 係 費 | 63,628 | 56,002 | 65,138 | 69,479 | 4,341 | 6.7 |
| | 減価償却費 | 963,008 | 925,919 | 909,536 | 912,563 | 3,027 | 0.3 |
| | 資産減耗費 | 5,587 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 計 | 1,295,837 | 1,251,773 | 1,249,968 | 1,261,536 | 11,568 | 0.9 |
| 営業 外 費用 | 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 240,331 | 219,991 | 198,722 | 179,396 | △ 19,326 | △ 9.7 |
| | 雑 支 出 | 23,153 | 9,705 | 26,027 | 24,108 | △ 1,918 | △ 7.4 |
| | 計 | 263,484 | 229,695 | 224,749 | 203,504 | △ 21,245 | △ 9.5 |
| 特 別 損 失 | 12,876 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | |
| 合 計 | 1,572,198 | 1,481,469 | 1,474,716 | 1,465,040 | △ 9,676 | △ 0.7 | |

損 益

| 項 目 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | 増(△)減 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|--------------|
| | 金 額 A | 金 額 B | 金 額 C | 金 額 D | 金 額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 営 業 損 益 | △ 607,252 | △ 539,840 | △ 560,955 | △ 584,833 | △ 23,878 | 4.3 |
| 経 常 損 益 | 106,624 | 104,841 | 79,904 | 57,935 | △ 21,969 | △ 27.5 |
| 当 年 度 純 損 益 | 97,174 | 79,904 | 79,904 | 57,935 | △ 21,969 | △ 27.5 |

別表9 下水道事業貸借対照表

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較 | | 増(△)減率 D/B×100 % |
|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|------------------------|------------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D=C-B 千円 | 増(△)減率 D/B×100 % | |
| 固定資産 | 27,818,839 | 97.8 | 27,466,293 | 98.5 | 27,287,397 | 98.6 | 26,836,412 | 98.7 | △ 450,985 | △ 1.7 | |
| 土地 | 541,964 | 1.9 | 541,964 | 1.9 | 541,964 | 2.0 | 541,964 | 2.0 | 0 | 0.0 | |
| 建物 | 847,996 | 3.0 | 813,297 | 2.9 | 778,599 | 2.8 | 743,900 | 2.7 | △ 34,699 | △ 4.5 | |
| 構築物 | 24,553,048 | 86.3 | 24,294,510 | 87.2 | 24,116,094 | 87.2 | 23,651,241 | 87.0 | △ 464,853 | △ 1.9 | |
| 機械及び装置 | 1,533,627 | 5.4 | 1,379,781 | 4.9 | 1,251,143 | 4.5 | 1,181,171 | 4.3 | △ 69,972 | △ 5.6 | |
| 車両及び運搬具 | 28 | 0.0 | 1,586 | 0.0 | 1,353 | 0.0 | 1,120 | 0.0 | △ 233 | △ 17.2 | |
| 工具器具及び備品 | 288 | 0.0 | 288 | 0.0 | 288 | 0.0 | 288 | 0.0 | 0 | 0.0 | |
| 建設仮勘定 | 76,025 | 0.3 | 124,399 | 0.4 | 114,313 | 0.4 | 143,507 | 0.5 | 29,194 | 25.5 | |
| 電話加入権 | 3,168 | 0.0 | 3,168 | 0.0 | 3,168 | 0.0 | 3,168 | 0.0 | 0 | 0.0 | |
| 施設利用権 | 225,880 | 0.8 | 272,012 | 1.0 | 446,714 | 1.6 | 537,819 | 2.0 | 91,105 | 20.4 | |
| ソフトウェア | 6,112 | 0.0 | 4,584 | 0.0 | 3,056 | 0.0 | 1,528 | 0.0 | △ 1,528 | △ 50.0 | |
| 基金 | 30,703 | 0.1 | 30,705 | 0.1 | 30,705 | 0.1 | 30,706 | 0.1 | 0 | 0.0 | |
| 流動資産 | 634,681 | 2.2 | 408,115 | 1.5 | 374,410 | 1.4 | 348,403 | 1.3 | △ 26,007 | △ 6.9 | |
| 現金預金 | 236,104 | 0.8 | 95,785 | 0.3 | 147,044 | 0.5 | 145,839 | 0.5 | △ 1,205 | △ 0.8 | |
| 未収金 | 317,586 | 1.1 | 245,624 | 0.9 | 213,804 | 0.8 | 203,084 | 0.7 | △ 10,720 | △ 5.0 | |
| 貸倒引当金 | △ 1,149 | 0.0 | △ 1,149 | 0.0 | △ 1,230 | 0.0 | △ 1,312 | 0.0 | △ 82 | 6.7 | |
| 前払金 | 82,140 | 0.3 | 67,855 | 0.2 | 14,000 | 0.1 | 0 | 0.0 | △ 14,000 | △ 100.0 | |
| その他流動資産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 792 | 0.0 | 792 | 0.0 | 0 | 0.0 | |
| 資産合計 | 28,453,520 | 100.0 | 27,874,408 | 100.0 | 27,661,808 | 100.0 | 27,184,815 | 100.0 | △ 476,992 | △ 1.7 | |

負債・資本の部

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較 | | 増(△)減率 D/B×100% |
|--------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|--------|--------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D=C-B 千円 | | |
| 固定負債 | 10,735,561 | 37.7 | 10,340,242 | 37.1 | 10,131,566 | 36.6 | 9,700,135 | 35.7 | △ 431,431 | △ 4.3 | |
| 企業引当金 | 10,729,213 | 37.7 | 10,331,981 | 37.1 | 10,117,405 | 36.6 | 9,681,194 | 35.6 | △ 436,210 | △ 4.3 | |
| 流動負債 | 6,348 | 0.0 | 8,261 | 0.0 | 14,162 | 0.1 | 18,941 | 0.1 | 4,779 | 33.7 | |
| 企業未引当金 | 1,213,170 | 4.3 | 1,040,050 | 3.7 | 1,072,516 | 3.9 | 1,079,280 | 4.0 | 6,764 | 0.6 | |
| 繰延収益 | 839,077 | 3.0 | 848,732 | 3.0 | 837,469 | 3.0 | 838,002 | 3.1 | 534 | 0.1 | |
| 繰延収益 | 366,732 | 1.3 | 183,956 | 0.7 | 200,975 | 0.7 | 230,784 | 0.8 | 29,809 | 14.8 | |
| 繰延収益 | 7,231 | 0.0 | 7,232 | 0.0 | 7,113 | 0.0 | 7,093 | 0.0 | △ 20 | △ 0.3 | |
| 繰延収益 | 130 | 0.0 | 130 | 0.0 | 26,980 | 0.1 | 3,402 | 0.0 | △ 23,558 | △ 87.4 | |
| 繰延収益 | 11,390,150 | 40.0 | 11,194,078 | 40.2 | 11,020,548 | 39.8 | 10,855,001 | 39.9 | △ 165,546 | △ 1.5 | |
| 繰延収益 | 22,663,227 | 79.6 | 22,858,596 | 82.0 | 23,064,068 | 83.4 | 23,274,880 | 85.6 | 210,812 | 0.9 | |
| 繰延収益 | △ 11,273,077 | △ 39.6 | △ 11,664,518 | △ 41.8 | △ 12,043,520 | △ 43.5 | △ 12,419,879 | △ 45.7 | △ 376,359 | 3.1 | |
| 負債合計 | 23,338,881 | 82.0 | 22,574,370 | 81.0 | 22,224,631 | 80.3 | 21,634,417 | 79.6 | △ 590,214 | △ 2.7 | |
| 資本金 | 4,475,501 | 15.7 | 4,552,337 | 16.3 | 4,609,571 | 16.7 | 4,864,858 | 17.9 | 255,287 | 5.5 | |
| 剰余金 | 639,138 | 2.3 | 747,702 | 2.7 | 827,606 | 3.0 | 685,541 | 2.5 | △ 142,065 | △ 17.2 | |
| 資本剰余金 | 541,964 | 1.9 | 541,964 | 1.9 | 541,964 | 2.0 | 541,964 | 2.0 | 0 | 0.0 | |
| 利益剰余金 | 97,174 | 0.4 | 205,738 | 0.7 | 285,642 | 1.0 | 143,577 | 0.5 | △ 142,065 | △ 49.7 | |
| 資本合計 | 5,114,639 | 18.0 | 5,300,038 | 19.0 | 5,437,177 | 19.7 | 5,550,399 | 20.4 | 113,222 | 2.1 | |
| 負債資本合計 | 28,453,520 | 100.0 | 27,874,408 | 100.0 | 27,661,808 | 100.0 | 27,184,815 | 100.0 | △ 476,992 | △ 1.7 | |

別表10 下水道事業財務分析比率表 (その1)

| 分析項目 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 比率公式 | 説明 | |
|------|------------|--------|--------|--------|--------|--|--|
| | % | % | % | % | | | |
| 収益率 | 総収支比率 | 106.18 | 107.33 | 105.42 | 103.95 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 比率は100%以上で大きいほど経営状態は良好である。 |
| | 経常収支率 | 106.84 | 107.08 | 105.42 | 103.95 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | 経常的な収益と費用の関連を示し、高いほどよい。 |
| | 営業収支率 | 53.14 | 56.87 | 55.12 | 53.64 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ | 業務活動の能率を示し高いほど良い。 |
| | 総資本利益率 | 0.34 | 0.39 | 0.29 | 0.21 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 投下資本と企業活動の結果としての利益との関係を表す。大きいほどよい。 |
| | 自己資本利益率 | 0.59 | 0.66 | 0.49 | 0.35 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均自己資本}} \times 100$ | 自己資本と企業活動の結果としての利益との関係を表す。大きいほどよい。 |
| 構成比率 | 固定資産構成率 | 97.77 | 98.54 | 98.65 | 98.72 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 事業の財産構成の適正度をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 固定負債構成率 | 37.73 | 37.10 | 36.63 | 35.68 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}} \times 100$ | 総資本中に長期負債が占める割合をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 自己資本構成率 | 58.01 | 59.17 | 59.50 | 60.35 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$ | 資本中の自己資本の割合をみる。比率は大きいほどよい。 |
| 財務比率 | 固定比率 | 168.55 | 166.52 | 165.80 | 163.58 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 固定資産が自己資本によってまかなわれているかをみる。比率は100%以下が適当。 |
| | 固定長期適合率 | 102.12 | 102.35 | 102.63 | 102.80 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ | 固定資産の調達が長期資本の範囲内で行われているかをみる。比率は少なくとも100%以下が適当。 |
| | 流動比率 | 52.32 | 39.24 | 34.91 | 32.28 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 企業の支払能力をみる。比率は200%以上が適当。 |
| | 当座比率 | 45.55 | 32.72 | 33.53 | 32.21 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動負債に対する当座資産の割合をみる。100%以上が適当。 |
| | 現金預金比率 | 19.46 | 9.21 | 13.71 | 13.51 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動負債に対する現金預金の割合をみる。20%以上が適当。 |
| | 負債比率 | 72.40 | 69.00 | 68.08 | 65.71 | $\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 自己資本からみた他人資本への依存度を表す。比率は100%以下が適当。 |
| 回転率 | 総資本回転率(回) | 0.06 | 0.06 | 0.06 | 0.06 | $\frac{\text{総収益}}{\text{平均総資本}}$ | 資本の活用度をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 自己資本回転率(回) | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 同上 |
| | 固定資産回転率(回) | 0.02 | 0.03 | 0.03 | 0.03 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 資産の稼働状況をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 未収金回転率(回) | 3.78 | 4.01 | 3.88 | 3.69 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 同上 |
| | 減価償却率 | 3.39 | 3.34 | 3.31 | 3.38 | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | 減価償却費の割合をみる。 |

別表10 下水道事業財務分析比率表 (その2)

| 分析項目 | 平成 | 令和 | 令和 | 令和 | 比率公式 | 説明 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--|--|
| | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | | |
| | % | % | % | % | | |
| 利子負担率 | 2.03 | 1.93 | 1.80 | 1.67 | $\frac{\text{支払利息}}{\text{平均(企業債+借入金)}} \times 100$ | 企業債及び借入金の利子と負債を比較することにより利息の利率の高低を示し低いほど低廉な資金を利用。 |
| 企業債償還額対償還率 | 75.14 | 81.11 | 86.37 | 86.89 | $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{減価償却費+当年度純利益}} \times 100$ | 企業債償還能力を示し低率ほど償還能力は高い。 |
| 企業債元利償還額対下水道使用料比率 | 241.72 | 247.42 | 240.99 | 234.67 | $\frac{\text{企業債元利償還額}}{\text{下水道使用料}} \times 100$ | 下水道使用料に対する企業債元利償還金の割合を示し低いほどよい。 |
| 職員給与費対下水道使用料比率 | 15.55 | 11.55 | 14.79 | 14.16 | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{下水道使用料}} \times 100$ | 下水道使用料に対する職員給与費の割合であり低いほど良い。 |

- ※ 収益率 … 収益と費用とを対比して企業の経営活動の成果を表すものである。
 構成比率 … 企業の長期的健全性を示す指標で、構成部分の全体に対する関係を表すものである。
 財務比率 … 貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものである。
 回転率 … 企業の活動性を示すもので、高率ほど資本が効率的に使われていることを表すものである。

※ 上記各比率公式に用いた用語の定義は次のとおりである。

- 1 固定資産 = 取得価額 - 減価償却累計額
- 2 総資産 = 固定資産 + 流動資産
- 3 自己資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益
- 4 総資本 = 資本金 + 剰余金 + 負債
- 5 負債 = 固定負債 + 流動負債 + 繰延収益
- 6 平均 = (期首 + 期末) × 1/2
- 7 総収益 = 下水道事業収益
- 8 総費用 = 下水道事業費用
- 9 期末償却資産 = [有形固定資産(償却未済額) + 無形固定資産] - (土地 + 建設仮勘定)
- 10 職員給与費 = 損益勘定所属職員給与費

別表11 下水道事業キャッシュ・フロー計算書

| 区 分 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 対前年度 | |
|--|--------------------------------|--------------|---------------|--------------|--------------|----------------|-------------|
| | | | | | | 増減額 | 増減率 |
| 業務活動による キャッシュ・フロー | 当期純利益 | 千円 97,174 | 千円 108,564 | 千円 79,904 | 千円 57,935 | 千円 △ 21,969 | % △ 27.5 |
| | 減価償却費 | 963,008 | 925,919 | 909,536 | 912,563 | 3,027 | 0.3 |
| | 固定資産除却費 | 5,587 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 長期前受金戻入額 | △ 419,284 | △ 391,441 | △ 379,002 | △ 376,359 | 2,643 | △ 0.7 |
| | 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | 1,149 | 0 | 81 | 82 | 1 | 1.2 |
| | 退職給与引当金の増減額 (△は減少) | 6,348 | 1,912 | 5,901 | 4,779 | △ 1,122 | △ 19.0 |
| | 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 7,231 | 1 | △ 119 | △ 20 | 99 | △ 82.9 |
| | 受取利息及び配当金 | △ 1 | △ 2 | △ 3 | △ 3 | 0 | △ 5.6 |
| | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 240,331 | 219,991 | 198,722 | 179,396 | △ 19,326 | △ 9.7 |
| | 未収金の増減額 (△は増加) | △ 128,226 | 71,962 | 31,820 | 10,720 | △ 21,099 | △ 66.3 |
| | 未払金の増減額 (△は減少) | 281,718 | △ 182,777 | 17,019 | 29,809 | 12,790 | 75.2 |
| | 前払金の増減額 (△は増加) | △ 82,140 | 0 | 53,855 | 0 | △ 53,855 | △ 100.0 |
| | その他 | 130 | 0 | 26,038 | △ 23,558 | △ 49,596 | △ 190.5 |
| | 小 計 | 973,025 | 754,129 | 943,752 | 795,345 | △ 148,407 | △ 15.7 |
| | 受取利息及び配当金 | 1 | 2 | 3 | 3 | △ 0 | △ 5.6 |
| | 支払利息及び企業債取扱諸費 | △ 240,331 | △ 219,991 | △ 198,722 | △ 179,396 | 19,326 | △ 9.7 |
| 計 (A) | 732,695 | 534,141 | 745,033 | 615,951 | △ 129,082 | △ 17.3 | |
| キャ 投 資 活 動 に よ る フ ロ ー | 有形固定資産の取得による支出 | △ 298,657 | △ 506,750 | △ 548,530 | △ 344,877 | 203,653 | △ 37.1 |
| | 無形固定資産の取得による支出 | △ 34,384 | △ 52,335 | △ 182,110 | △ 102,701 | 79,409 | △ 43.6 |
| | 基金の積立による支出 | △ 0 | △ 2 | △ 0 | △ 0 | △ 0 | 1.3 |
| | 国庫補助金による収入 | 192,980 | 134,470 | 171,666 | 166,000 | △ 5,666 | △ 3.3 |
| | 受益者負担金等による収入 | 40,340 | 60,899 | 33,806 | 44,812 | 11,006 | 32.6 |
| | 計 (B) | △ 99,721 | △ 363,719 | △ 525,168 | △ 236,766 | 288,402 | △ 54.9 |
| 財 務 活 動 に よ る フ ロ ー | 建設改良費の財源に充てるための 企業債の発行による収入 | 202,900 | 451,500 | 482,700 | 328,300 | △ 154,400 | △ 32.0 |
| | その他の企業債（資本費平準化債） による収入 | — | — | 146,000 | 79,300 | △ 66,700 | △ 45.7 |
| | 建設改良費の財源に充てるための 企業債の償還による支出 | △ 796,670 | △ 839,076 | △ 854,540 | △ 843,277 | 11,263 | △ 1.3 |
| | 他会計からの出資による収入 | 114,340 | 76,836 | 57,234 | 55,287 | △ 1,947 | △ 3.4 |
| 計 (C) | △ 479,430 | △ 310,741 | △ 168,606 | △ 380,390 | △ 211,784 | 125.6 | |
| 資金増減額 (A) + (B) + (C) | | 153,544 | △ 140,319 | 51,259 | △ 1,205 | △ 52,464 | △ 102.4 |
| 資金期首残高 | | 82,560 | 236,104 | 95,785 | 147,044 | 51,259 | 53.5 |
| 資金期末残高 | | 236,104 | 95,785 | 147,044 | 145,839 | △ 1,205 | △ 0.8 |

別表12 県内各市の下水道事業経営状況

公共下水道事業

(令和2年度)

| | 経常収支 比率 (収益的 収支比率) | 使用料 単価 (1m ³ 当たり) | 汚水処理 原価 (1m ³ 当たり) | 経費 回収率 | 水洗化率 | 有収率 | 施設 利用率 | 家庭使用料 (20m ³ /月) (税込み) |
|-------|-----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------|------|-------|-----------|---|
| | % | 円 | 円 | % | % | % | % | 円 |
| 岡山市 | 99.8 | 176.57 | 181.30 | 97.4 | 90.9 | 85.5 | 63.7 | 3,011 |
| 倉敷市 | 127.4 | 180.95 | 180.95 | 100.0 | 93.0 | 90.5 | 48.8 | 2,967 |
| 津山市 | 110.9 | 149.17 | 149.17 | 100.0 | 80.9 | 100.3 | 52.7 | 3,465 |
| 玉野市 | 107.7 | 178.86 | 168.93 | 105.9 | 93.2 | 91.5 | 55.3 | 3,190 |
| 笠岡市 | 107.1 | 152.67 | 179.29 | 85.2 | 90.9 | 82.4 | 55.9 | 2,596 |
| 井原市 | 97.7 | 143.02 | 133.29 | 107.3 | 79.1 | 67.2 | 93.6 | 2,739 |
| 総社市 | 104.2 | 144.81 | 317.14 | 45.7 | 96.6 | 64.7 | 57.2 | 2,840 |
| 高梁市 | 100.5 | 156.23 | 133.35 | 117.2 | 96.5 | 70.7 | 82.4 | 3,170 |
| 新見市 | 106.6 | 142.31 | 150.00 | 94.9 | 78.3 | 89.9 | 42.6 | 2,725 |
| 備前市 | 92.6 | 200.73 | 200.55 | 100.1 | 91.5 | 81.7 | 41.2 | 3,872 |
| 赤磐市 | 87.8 | 145.06 | 218.72 | 66.3 | 98.1 | 104.1 | 43.0 | 3,003 |
| 真庭市 | 101.6 | 148.68 | 317.30 | 46.9 | 54.7 | 81.5 | 56.8 | 3,168 |
| 美作市 | 98.4 | 151.64 | 187.03 | 81.1 | 89.1 | 86.0 | 59.0 | 3,223 |
| 浅口市 | 101.1 | 160.63 | 162.30 | 99.0 | 79.6 | 94.4 | 44.3 | 3,260 |
| 14市平均 | 103.1 | 159.38 | 191.38 | 89.1 | 86.6 | 85.0 | 56.9 | 3,088 |

(注) 14市平均は、各市の数値を合計し、14で除した数値である。

特定環境保全公共下水道事業

(令和2年度)

| | 経常収支 比率 (収益的 収支比率) | 使用料 単価 (1m ³ 当たり) | 汚水処理 原価 (1m ³ 当たり) | 経費 回収率 | 水洗化率 | 有収率 | 施設 利用率 | 家庭使用料 (20m ³ /月) (税込み) |
|-------|-----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------|------|-------|-----------|---|
| | % | 円 | 円 | % | % | % | % | 円 |
| 岡山市 | 100.1 | 210.57 | 379.03 | 55.6 | 90.5 | 92.8 | 50.7 | 3,011 |
| 津山市 | 92.4 | 204.66 | 292.55 | 70.0 | 71.0 | 104.9 | 29.4 | 3,465 |
| 笠岡市 | 78.4 | 121.71 | 241.28 | 50.4 | 56.5 | 92.3 | - | 2,596 |
| 井原市 | 112.5 | 142.34 | 41.38 | 344.0 | 61.0 | 0.0 | 93.6 | 2,739 |
| 総社市 | 100.0 | 144.50 | 205.52 | 70.3 | 86.0 | 96.9 | 57.7 | 2,840 |
| 高梁市 | 100.8 | 154.09 | 155.93 | 98.8 | 88.5 | 70.7 | 81.2 | 3,170 |
| 新見市 | 99.5 | 144.58 | 150.00 | 96.4 | 87.3 | 97.3 | 61.7 | 3,270 |
| 備前市 | 97.9 | 195.22 | 195.22 | 100.0 | 96.8 | 93.8 | 61.4 | 3,872 |
| 瀬戸内市 | 66.6 | 192.58 | 210.07 | 91.7 | 80.5 | 89.7 | 44.7 | 3,905 |
| 赤磐市 | 105.3 | 153.27 | 142.14 | 107.8 | 87.1 | 105.0 | 35.8 | 3,003 |
| 真庭市 | 98.0 | 150.33 | 471.96 | 31.9 | 78.8 | 82.7 | 29.5 | 3,168 |
| 美作市 | 97.8 | 153.41 | 242.34 | 63.3 | 88.2 | 101.7 | 36.3 | 3,223 |
| 浅口市 | 108.3 | 157.71 | 157.71 | 100.0 | 81.5 | 106.8 | 27.3 | 3,260 |
| 13市平均 | 96.7 | 163.46 | 221.93 | 98.5 | 81.1 | 87.3 | 46.9 | 3,194 |

(注) 13市平均は、各市の数値を合計し、13で除した数値である。

漁業集落排水事業

(令和2年度)

| | 経常収支 比率 (収益的 収支比率) | 使用料 単価 (1m ³ 当たり) | 汚水処理 原価 (1m ³ 当たり) | 経費 回収率 | 水洗化率 | 有収率 | 施設 利用率 | 家庭使用料 (20m ³ /月) (税込み) |
|------|-----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------|------|-------|-----------|---|
| | % | 円 | 円 | % | % | % | % | 円 |
| 笠岡市 | 93.5 | 169.08 | 899.23 | 18.8 | 93.1 | 87.9 | 12.5 | 2,596 |
| 備前市 | 125.7 | 204.77 | 394.66 | 51.9 | 99.6 | 33.1 | 54.8 | 3,872 |
| 瀬戸内市 | 94.8 | 191.70 | 972.78 | 19.7 | 98.3 | 100.8 | 21.1 | 3,905 |
| 3市平均 | 104.7 | 188.52 | 755.56 | 30.1 | 97.0 | 73.9 | 29.5 | 3457.7 |

(注) 3市平均は、各市の数値を合計し、3で除した数値である。

(注) 総務省が公開している下水道事業経営指標の数値を利用した。

別表13 病院事業業務分析年度比較表

| 分 析 項 目 | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 前年度比較 | | 備 考 |
|----------------------------------|------------------------|-------------|-------------|-------------|----------------|-------------|--|
| | | | | | 増 減 | 増減率 | |
| 1 病 床 数 | 床 194 | 床 194 | 床 194 | 床 99 | 床 △ 95 | % △ 49.0 | |
| 2 病 床 利 用 率 | % 49.4 | % 47.6 | % 36.1 | % 90.9 | ポイント 54.8 | % 151.8 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$ |
| 3 診 療 日 数 | 日 入院 365 | 日 366 | 日 365 | 日 365 | 日 0 | % 0.0 | |
| | 日 外来 256 | 日 254 | 日 254 | 日 254 | 日 0 | % 0.0 | |
| 4 1 日 平 均 患 者 数 | 人 入院 95.8 | 人 92.3 | 人 69.9 | 人 90.0 | 人 20.1 | % 28.8 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$ |
| | 人 外来 184.1 | 人 185.0 | 人 169.7 | 人 174.5 | 人 4.8 | % 2.8 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$ |
| 5 外 来 入 院 患 者 比 率 | % 134.8 | % 139.0 | % 168.8 | % 134.9 | ポイント △ 33.9 | % △ 20.1 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$ |
| 6 職 員 1 人 1 日 当 たり 患 者 数 | 人 1.4 | 人 1.4 | 人 1.2 | 人 1.4 | 人 0.2 | % 16.7 | $\frac{\text{年延入院外来患者数}}{\text{年延職員数}}$ |
| 医 師 | 人 入院 7.6 | 人 10.3 | 人 7.4 | 人 8.0 | 人 0.6 | % 8.1 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$ |
| | 人 外来 10.2 | 人 14.3 | 人 12.4 | 人 10.8 | 人 △ 1.6 | % △ 12.9 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$ |
| 看 護 部 門 | 人 入院 0.9 | 人 1.4 | 人 0.9 | 人 1.2 | 人 0.3 | % 33.3 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$ |
| | 人 外来 1.3 | 人 2.0 | 人 1.5 | 人 1.7 | 人 0.2 | % 13.3 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$ |
| 看 護 師 | 人 入院 1.8 | 人 1.9 | 人 1.6 | 人 2.1 | 人 0.5 | % 31.3 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病棟看護師数}}$ |
| | 人 外来 5.5 | 人 5.7 | 人 5.1 | 人 7.5 | 人 2.4 | % 47.1 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延外来看護師数}}$ |
| 7 患 者 1 人 1 日 当 たり 診 療 収 入 | 円 入院 27,215 | 円 28,722 | 円 30,459 | 円 31,486 | 円 1,027 | % 3.4 | $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$ |
| | 円 外来 7,942 | 円 7,852 | 円 7,858 | 円 9,021 | 円 1,163 | % 14.8 | $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$ |
| 8 職 員 1 人 1 日 当 たり 診 療 収 入 | 円 22,701 | 円 23,313 | 円 20,120 | 円 25,348 | 円 5,228 | % 26.0 | $\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延職員数}}$ |
| 9 医 療 材 料 消 費 率 | % 11.5 | % 10.4 | % 11.1 | % 12.2 | ポイント 1.1 | % 9.9 | $\frac{\text{医療材料費}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| 10 医 業 収 益 に 対 する 割 合 | % 薬 品 費 8.5 | % 7.6 | % 8.2 | % 8.2 | ポイント 0.0 | % 0.0 | $\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| | % 職 員 給 与 費 83.0 | % 80.6 | % 89.5 | % 71.5 | ポイント △ 18.0 | % △ 20.1 | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| 11 室 料 差 額 | 円 1,080 | 円 1,100 | 円 1,100 | 円 1,100 | 円 — | % — | |
| 1 人 1 日 当 たり 徴 収 額 | 円 最低 3,240 | 円 3,300 | 円 3,300 | 円 3,300 | 円 — | % — | |
| 入 院 収 益 に 対 する 室 料 差 額 収 入 の 割 合 | % 1.9 | % 1.9 | % 1.7 | % 1.5 | ポイント △ 0.2 | % △ 11.8 | $\frac{\text{室料差額収入}}{\text{入院収益}} \times 100$ |
| 総 収 益 に 対 する 室 料 差 額 収 入 の 割 合 | % 1.0 | % 1.0 | % 0.7 | % 0.7 | ポイント 0.0 | % 0.0 | $\frac{\text{室料差額収入}}{\text{総収益}} \times 100$ |
| 12 病 床 100 床 当 たり 職 員 数 | 人 82.5 | 人 80.9 | 人 78.4 | 人 156.6 | 人 78.2 | % 99.7 | $\frac{\text{年度末(各種)職員数}}{\text{年度末病床数}} \times 100$ |

別表14 病院事業比較損益計算書

総 収 益

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 増(△)減 | |
|-----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|--------------|
| | | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 医 業 収 益 | 入院収益 | 951,456 | 970,650 | 777,644 | 1,034,304 | 256,661 | 33.0 |
| | 外来収益 | 374,269 | 368,934 | 338,637 | 399,746 | 61,109 | 18.0 |
| | その他医業収益 | 132,910 | 122,722 | 114,945 | 191,976 | 77,031 | 67.0 |
| | 計 | 1,458,635 | 1,462,306 | 1,231,226 | 1,626,026 | 394,800 | 32.1 |
| 医 業 外 収 益 | 受取利息配当金 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 84.3 |
| | 他会計補助金 | 315,986 | 220,446 | 265,250 | 186,779 | △ 78,471 | △ 29.6 |
| | 補助金 | 95 | 88 | 276,291 | 184,937 | △ 91,354 | △ 33.1 |
| | 長期前受金戻入 | 4,754 | 2,085 | 1,110 | 5,912 | 4,802 | 432.6 |
| | その他医業外収益 | 21,176 | 20,383 | 15,770 | 30,911 | 15,141 | 96.0 |
| | 他会計負担金 | 0 | 67,786 | 51,230 | 147,811 | 96,581 | 188.5 |
| | 雑収益 | 1,325 | 6,191 | 1,838 | 3,549 | 1,711 | 93.1 |
| 計 | 343,337 | 316,980 | 611,490 | 559,901 | △ 51,589 | △ 8.4 | |
| 特別利益 | 899 | 619 | 42,217 | 570 | △ 41,647 | △ 98.7 | |
| 合 計 | 1,802,871 | 1,779,905 | 1,884,932 | 2,186,496 | 301,564 | 16.0 | |

総 費 用

| 項 目 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 増(△)減 | |
|-----------------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|--------------|
| | | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 医 業 費 用 | 給与費 | 1,211,377 | 1,177,928 | 1,102,473 | 1,162,605 | 60,132 | 5.5 |
| | 材料費 | 176,558 | 161,843 | 143,407 | 198,397 | 54,990 | 38.3 |
| | 経費 | 400,957 | 426,152 | 471,131 | 449,140 | △ 21,991 | △ 4.7 |
| | 減価償却費 | 148,032 | 114,751 | 93,185 | 107,317 | 14,132 | 15.2 |
| | 資産減耗費 | 439 | 2,046 | 347 | 5,633 | 5,286 | 1,523.6 |
| | 研究研修費 | 3,491 | 3,162 | 1,472 | 1,043 | △ 429 | △ 29.1 |
| | 計 | 1,940,855 | 1,885,882 | 1,812,014 | 1,924,134 | 112,120 | 6.2 |
| 医 業 外 費 用 | 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 4,425 | 3,356 | 3,053 | 3,392 | 339 | 11.1 |
| | 繰延勘定償却 | 11,983 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 雑支出 | 22,000 | 22,000 | 22,000 | 22,000 | 0 | 0.0 |
| | 雑損失 | 40,056 | 49,008 | 67,058 | 53,468 | △ 13,590 | △ 20.3 |
| | 計 | 78,464 | 74,364 | 92,111 | 78,860 | △ 13,251 | △ 14.4 |
| 特別損失 | 9,495 | 7,879 | 47,301 | 8,493 | △ 38,808 | △ 82.0 | |
| 合 計 | 2,028,814 | 1,968,126 | 1,951,426 | 2,011,487 | 60,061 | 3.1 | |

損 益

| 項 目 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 増(△)減 | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|--------------|
| | 金額 A | 金額 B | 金額 C | 金額 D | 金額 E=D-C | 率 E/C×100 |
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 医業損益 | △ 482,220 | △ 423,576 | △ 580,789 | △ 298,108 | 282,681 | △ 48.7 |
| 経常損益 | △ 217,346 | △ 180,960 | △ 61,410 | 182,933 | 244,342 | △ 397.9 |
| 当年度純損益 | △ 225,942 | △ 188,220 | △ 66,494 | 175,009 | 241,503 | △ 363.2 |

別表15 病院事業比較貸借対照表

資産の部

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較増(△)減率 | |
|-------------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|-------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D 千円 | 構成比 % | 金額 E=D-C 千円 | 率 E/C×100 % |
| 固定資産 | 1,068,993 | 78.2 | 973,431 | 80.8 | 1,056,173 | 73.7 | 977,236 | 70.8 | △ 78,937 | △ 7.5 |
| 土地 | 89,778 | 6.6 | 89,778 | 7.4 | 89,778 | 6.3 | 89,778 | 6.5 | 0 | 0.0 |
| 建物 | 623,232 | 45.6 | 589,898 | 48.9 | 558,017 | 38.9 | 526,220 | 38.1 | △ 31,796 | △ 5.7 |
| 構築物 | 6,769 | 0.5 | 6,769 | 0.6 | 6,769 | 0.5 | 6,769 | 0.5 | 0 | 0.0 |
| 器械備品 | 336,610 | 24.6 | 269,582 | 22.4 | 379,405 | 26.5 | 325,065 | 23.6 | △ 54,341 | △ 14.3 |
| 車両 | 70 | 0.0 | 70 | 0.0 | 70 | 0.0 | 70 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 電話加入権 | 249 | 0.0 | 249 | 0.0 | 249 | 0.0 | 249 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 水道施設 利用権 | 5,086 | 0.4 | 5,086 | 0.4 | 5,086 | 0.4 | 5,086 | 0.4 | 0 | 0.0 |
| 長期貸付金 | 7,200 | 0.5 | 12,000 | 1.0 | 16,800 | 1.2 | 24,000 | 1.7 | 7,200 | 42.9 |
| 流動資産 | 298,342 | 21.8 | 231,781 | 19.2 | 376,760 | 26.3 | 402,448 | 29.2 | 25,688 | 6.8 |
| 現金預金 | 49,491 | 3.6 | 23,371 | 1.9 | 116,726 | 8.1 | 113,529 | 8.2 | △ 3,197 | △ 2.7 |
| 未収金 | 245,248 | 17.9 | 203,486 | 16.9 | 259,361 | 18.1 | 289,022 | 20.9 | 29,661 | 11.4 |
| 貸倒引当金 | △ 2,352 | △ 0.2 | △ 2,352 | △ 0.2 | △ 2,352 | △ 0.2 | △ 2,352 | △ 0.2 | 0 | 0.0 |
| 貯蔵品 | 5,955 | 0.4 | 7,276 | 0.6 | 3,025 | 0.2 | 2,249 | 0.2 | △ 776 | △ 25.7 |
| その他の流動資産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 繰延勘定 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 退職給与金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 資産合計 | 1,367,336 | 100.0 | 1,205,212 | 100.0 | 1,432,933 | 100.0 | 1,379,684 | 100.0 | △ 53,249 | △ 3.7 |

負債・資本の部

| 項目 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 前年度比較 | | 増(△)減率 E/C×100 % |
|-----------------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|----------|-------------------|---------|------------------------|
| | 金額 A 千円 | 構成比 % | 金額 B 千円 | 構成比 % | 金額 C 千円 | 構成比 % | 金額 D 千円 | 構成比 % | 金額 E=D-C 千円 | | |
| 固定負債 | 701,597 | 51.3 | 721,717 | 59.9 | 1,107,612 | 77.3 | 922,830 | 66.9 | △ 184,781 | △ 16.7 | |
| 企業債 | 275,889 | 20.2 | 205,883 | 17.1 | 541,649 | 37.8 | 481,708 | 34.9 | △ 59,941 | △ 11.1 | |
| 他会計借入金 | 160,000 | 11.7 | 200,000 | 16.6 | 200,000 | 14.0 | 160,000 | 11.6 | △ 40,000 | △ 20.0 | |
| 退職給付引当金 | 265,708 | 19.4 | 315,834 | 26.2 | 365,963 | 25.5 | 281,123 | 20.4 | △ 84,840 | △ 23.2 | |
| 流動負債 | 579,746 | 42.4 | 520,287 | 43.2 | 345,906 | 24.1 | 256,236 | 18.6 | △ 89,670 | △ 25.9 | |
| 企業債 | 102,958 | 7.5 | 82,006 | 6.8 | 62,434 | 4.4 | 59,941 | 4.3 | △ 2,493 | △ 4.0 | |
| 他会計借入金 | 40,000 | 2.9 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 40,000 | 2.9 | 40,000 | — | |
| 一時借入金 | 200,000 | 14.6 | 280,000 | 23.2 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — | |
| 未払金 | 165,080 | 12.1 | 82,206 | 6.8 | 210,760 | 14.7 | 81,551 | 5.9 | △ 129,209 | △ 61.3 | |
| 賞与引当金 | 69,070 | 5.1 | 73,080 | 6.1 | 68,580 | 4.8 | 69,492 | 5.0 | 912 | 1.3 | |
| 預り金 | 2,637 | 0.2 | 2,995 | 0.2 | 4,132 | 0.3 | 5,252 | 0.4 | 1,120 | 27.1 | |
| 繰延収益 | 43,107 | 3.2 | 41,022 | 3.4 | 74,244 | 5.2 | 79,617 | 5.8 | 5,373 | 7.2 | |
| 長期前受金 | 118,311 | 8.7 | 118,311 | 9.8 | 152,643 | 10.7 | 163,928 | 11.9 | 11,285 | 7.4 | |
| 長期前受金 収益化累計額 | △ 75,204 | △ 5.5 | △ 77,289 | △ 6.4 | △ 78,399 | △ 5.5 | △ 84,310 | △ 6.1 | △ 5,912 | 7.5 | |
| 負債合計 | 1,324,450 | 96.9 | 1,283,026 | 106.5 | 1,527,761 | 106.6 | 1,258,684 | 91.2 | △ 269,078 | △ 17.6 | |
| 資本金 | 3,743,707 | 273.8 | 3,811,227 | 316.2 | 3,860,707 | 269.4 | 3,901,527 | 282.8 | 40,820 | 1.1 | |
| 剰余金 | △ 3,700,821 | △ 270.7 | △ 3,889,042 | △ 322.7 | △ 3,955,536 | △ 276.0 | △ 3,780,527 | △ 274.0 | 175,009 | △ 4.4 | |
| 資本剰余金 | 84,221 | 6.2 | 84,221 | 7.0 | 84,221 | 5.9 | 84,221 | 6.1 | 0 | 0.0 | |
| 利益剰余金 | △ 3,785,042 | △ 276.8 | △ 3,973,262 | △ 329.7 | △ 4,039,756 | △ 281.9 | △ 3,864,747 | △ 280.1 | 175,009 | △ 4.3 | |
| 資本合計 | 42,886 | 3.1 | △ 77,814 | △ 6.5 | △ 94,828 | △ 6.6 | 121,001 | 8.8 | 215,829 | △ 227.6 | |
| 負債・資本合計 | 1,367,336 | 100.0 | 1,205,212 | 100.0 | 1,432,933 | 100.0 | 1,379,684 | 100.0 | △ 53,249 | △ 3.7 | |

別表16 病院事業財務分析比率年度比較表 (その1)

| 分析項目 | | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 比 率 公 式 | 説 明 |
|------------------|-------------|------------|-----------|-----------|------------|--|---|
| 収 益 率 | 総収支比率 | % 88.9 | % 90.4 | % 96.6 | % 108.7 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 経営状態をみる。比率は100%以上で大きいほど良好である。 |
| | 経常収支比率 | 89.2 | 90.8 | 96.8 | 109.1 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | 経常的な収益と費用の関連を示し、高いほどよい。 |
| | 医業収支比率 | 75.2 | 77.5 | 67.9 | 84.5 | $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$ | 業務活動の能率を示す。高率ほど良好である。 |
| | 純利益対総収益比率 | △ 12.5 | △ 10.6 | △ 3.5 | 8.0 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{総収益}} \times 100$ | 純利益の割合をみる。 |
| 構 成 比 率 | 固定資産構成比率 | 78.2 | 80.8 | 73.7 | 70.8 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 事業の財産構成の適正度をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 固定負債構成比率 | 51.3 | 59.9 | 77.3 | 66.9 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ | 総資本中に長期負債が占める割合をみる。比率は小さいほどよい。 |
| | 自己資本構成比率 | 6.3 | △ 3.1 | △ 1.4 | 14.5 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ | 資本中の自己資本の割合をみる。比率は大きいほどよい。 |
| 財 務 比 率 | 固定長期適合率 | 135.7 | 142.1 | 97.2 | 87.0 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ | 固定資産の調達に長期資本の範囲内で行われているかをみる。比率は100%以下が適当。 |
| | 流動比率 | 51.5 | 44.5 | 108.9 | 157.1 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 企業の支払能力をみる。比率は200%以上が適当。 |
| | 当座比率 | 50.4 | 43.2 | 108.0 | 156.2 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 企業の支払能力をみる。比率は100%以上が適当。 |
| | 資金不足比率 | 12.2 | 14.1 | — | — | $\frac{\text{資金の不足額}}{\text{医業収益}} \times 100$ | 資金の不足額の事業の規模に対する割合をみる。比率は低いほどよい。 |
| | 現金預金比率 | 8.5 | 4.5 | 33.7 | 44.3 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動負債に対する現金預金の割合をみる。20%以上が適当。 |
| 回 転 率 | 総資本回転率 (回) | 1.2 | 1.4 | 1.3 | 1.6 | $\frac{\text{総収益}}{\text{平均総資本}}$ | 資本の活用度をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 固定資産回転率 (回) | 1.3 | 1.4 | 1.2 | 1.6 | $\frac{\text{医業収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 資産の稼働状況をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 未収金回転率 (回) | 6.2 | 6.9 | 6.5 | 7.5 | $\frac{\text{医業収益}}{\text{平均医業未収金}}$ | 資産の稼働状況をみる。回転が多いほどよい。 |
| | 減価償却率 | 13.2 | 11.6 | 8.9 | 11.1 | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | 減価償却費の割合により、投下資本の回収状況をみる。 |

別表16 病院事業財務分析比率年度比較表（その2）

| 分析項目 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 比率公式 | 説明 | |
|-------|-----------------|-------|-------|-------|-------|---|--|
| その他の他 | 利子負担率 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.6 | $\frac{\text{支払利息}}{\text{平均(企業債+借入金)}} \times 100$ | 企業債及び借入金の利子と負債を比較することにより利息の利率の高低を示し低いほど低廉な資金を利用。 |
| | 企業債元利償還金対医業収益比率 | 10.8 | 7.3 | 6.9 | 4.0 | $\frac{\text{企業債元利償還額}}{\text{医業収益}} \times 100$ | 医業収益に対する企業債元利償還金の割合を示し低いほどよい。 |
| | 他会計繰入金対医業収益比率 | 21.7 | 15.1 | 21.5 | 11.5 | $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{医業収益}} \times 100$ | 医業収益に対する他会計繰入金の割合を示し低いほどよい。 |
| | 累積欠損金率比 | 259.5 | 259.4 | 328.1 | 237.5 | $\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$ | 医業収益に対する累積欠損金の割合を示し低いほどよい。 |

※ 収益率 … 収益と費用とを対比して企業の経営活動の成果を表すものである。

構成比率 … 企業の長期的健全性を示す指標で、構成部分の全体に対する関係を表すものである。

財務比率 … 貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものである。

回転率 … 企業の活動性を示すもので、高率ほど資本が効率的に使われていることを表すものである。

※上記各比率公式に用いた用語は次のとおりである。

- 1 固定資産 = 取得価額 - 減価償却累計額
- 2 総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定
- 3 自己資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益
- 4 総資本 = 資本金 + 剰余金 + 負債
- 5 平均 = (期首 + 期末) × 1/2
- 6 総収益 = 病院事業収益
- 7 総費用 = 病院事業費用
- 8 資金の不足額 = 流動負債 - 建設改良等の財源に充てた企業債・長期借入金
- 流動資産 + 翌年度繰越財源
(資金不足が生じない場合は「-」とする)
- 9 期末償却資産 = [有形固定資産(償却未済額) + 無形固定資産] - (土地 + 建設仮勘定)

別表17 病院事業キャッシュ・フロー計算書

| 区 分 | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 前年度比較 | |
|-------------------|----------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | | | | | | 増減額 | 増減率 |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | % |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 当年度純利益 | △ 225,942 | △ 188,220 | △ 66,494 | 175,009 | 241,503 | △ 363.2 |
| | 減価償却費 | 148,032 | 114,751 | 93,185 | 107,317 | 14,132 | 15.2 |
| | 固定資産除却費等 | 27 | 1,420 | 0 | 3,285 | 3,285 | - |
| | 繰延勘定償却費 | 11,983 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| | 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| | 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 49,887 | 50,126 | 50,129 | △ 84,840 | △ 134,969 | △ 269.2 |
| | 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 2,740 | 4,010 | △ 4,500 | 912 | 5,412 | △ 120.3 |
| | 長期前受金戻入額 | △ 4,754 | △ 2,085 | △ 1,110 | △ 5,912 | △ 4,802 | 432.6 |
| | 受取利息及び受取配当金 | △ 2 | △ 2 | △ 2 | △ 3 | △ 1 | 84.3 |
| | 支払利息 | 4,425 | 3,356 | 3,053 | 3,392 | 339 | 11.1 |
| | 未収金の増減額 (△は増加) | 674 | 41,762 | △ 55,875 | △ 29,661 | 26,215 | △ 46.9 |
| | 貯蔵品の増減額 (△は増加) | 5,598 | △ 1,320 | 4,251 | 776 | △ 3,475 | △ 81.7 |
| | 未払金等の増減額 (△は減少) | △ 93,519 | △ 82,874 | 128,553 | △ 129,209 | △ 257,762 | △ 200.5 |
| | その他流動資産の増減額 (△は増加) | 36 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| | その他流動負債の増減額 (△は減少) | △ 813 | 358 | 1,137 | 1,120 | △ 17 | △ 1.5 |
| | 小 計 | △ 101,628 | △ 58,719 | 152,326 | 42,187 | △ 110,140 | △ 72.3 |
| | 利息及び配当金の受取額 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 84.3 |
| 利息の支払額 | △ 4,425 | △ 3,356 | △ 3,053 | △ 3,392 | △ 339 | 11.1 | |
| 計 (A) | △ 106,051 | △ 62,074 | 149,275 | 38,798 | △ 110,478 | △ 74.0 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 固定資産の取得による支出 | △ 4,129 | △ 15,809 | △ 171,127 | △ 24,465 | 146,662 | △ 85.7 |
| | 固定資産の取得の財源に充てるための一般会計からの出資金による収入 | 80,660 | 67,521 | 49,480 | 40,820 | △ 8,660 | △ 17.5 |
| | 建設改良費等の財源に充てるための補助金等による収入 | 2,221 | 0 | 34,332 | 11,285 | △ 23,047 | △ 67.1 |
| | 医師確保に伴う貸付金の支出 | △ 4,800 | △ 4,800 | △ 4,800 | △ 7,200 | △ 2,400 | 50.0 |
| | 計 (B) | 73,952 | 46,912 | △ 92,115 | 20,440 | 112,555 | △ 122.2 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 長期借入金による収入 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| | 長期借入金の返済による支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| | 一時借入金による収入 | 700,000 | 680,000 | 400,000 | 400,000 | 0 | 0.0 |
| | 一時借入金の返済による支出 | △ 900,000 | △ 600,000 | △ 680,000 | △ 400,000 | 280,000 | △ 41.2 |
| | 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 | 2,200 | 12,000 | 150,000 | 0 | △ 150,000 | △ 100.0 |
| | 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 154,075 | △ 102,958 | △ 82,006 | △ 62,434 | 19,572 | △ 23.9 |
| | その他の企業債（特別減収対策企業債）による収入 | 0 | 0 | 248,200 | 0 | △ 248,200 | 皆減 |
| 計 (C) | △ 151,875 | △ 10,958 | 36,194 | △ 62,434 | △ 98,628 | △ 272.5 | |
| 資金増減額 (A)+(B)+(C) | △ 183,974 | △ 26,120 | 93,354 | △ 3,197 | △ 96,551 | △ 103.4 | |
| 資金期首残高 | 233,465 | 49,491 | 23,371 | 116,726 | 93,354 | 399.4 | |
| 資金期末残高 | 49,491 | 23,371 | 116,726 | 113,529 | △ 3,197 | △ 2.7 | |

別表18 近隣自治体病院の経営状況

(令和2年度)

| 区 分 | 笠岡市民病院 | 倉敷市立 市民病院 | 玉野市民病院 | 井原市民病院 | 福山市民病院 |
|----------------------------|-----------|--------------|-----------|-----------|------------|
| 1 病 床 数 | 194 | 198 | 199 | 180 | 500 |
| 病床利用率 | 36.1 | 61.4 | 55.1 | 60.1 | 72.1 |
| 2 職 員 数 | 107 | 198 | 160 | 182 | 898 |
| 医 師 | 8 | 26 | 10 | 12 | 128 |
| 看 護 師 | 61 | 123 | 71 | 94 | 567 |
| そ の 他 | 38 | 49 | 79 | 76 | 203 |
| 3 1日平均患者数 | 239.6 | 528.9 | 324.5 | 330.9 | 1,216.1 |
| 入 院 | 69.9 | 121.5 | 109.7 | 108.2 | 366.2 |
| 外 来 | 169.7 | 407.4 | 214.8 | 222.7 | 849.9 |
| 4 医 業 収 益 | 1,231,226 | 2,937,390 | 1,951,137 | 2,295,638 | 17,766,147 |
| うち、入院 | 777,644 | 1,816,605 | 1,267,416 | 1,287,262 | 11,813,242 |
| うち、外来 | 338,637 | 873,508 | 479,882 | 509,821 | 5,293,205 |
| 5 医 業 費 用 | 1,812,014 | 3,575,819 | 2,290,868 | 2,573,795 | 18,547,857 |
| うち、給与費 | 1,102,473 | 2,196,649 | 1,525,370 | 1,742,500 | 8,815,379 |
| うち、材料費 | 143,407 | 349,559 | 252,289 | 259,689 | 6,024,903 |
| 6 医 業 損 益 | △ 580,788 | △ 638,429 | △ 339,731 | △ 278,157 | △ 781,710 |
| 7 他会計繰入金 | 401,484 | 370,285 | 499,048 | 602,784 | 1,487,645 |
| 基 準 内 | 284,777 | 364,340 | 271,227 | 602,784 | 1,487,645 |
| 基 準 外 | 116,707 | 5,945 | 227,821 | 0 | 0 |
| 8 医業収益（入院収益＋外来収益）に対する職員給与費 | 98.8 | 81.7 | 87.3 | 97.0 | 51.5 |
| 9 医業収支比率 | 67.9 | 82.1 | 85.2 | 89.2 | 95.8 |

※各市の病院事業会計の決算審査意見書及び地方公営企業決算状況調査から作成した。

(注) 1. 意見書中に該当数値そのものが記載されていない場合は、当事務局が算出している。

2. 病床利用率等の算出方法は各市によって相違がある。

3. 職員数には臨時職員は含んでいないが、給与費には賃金を含む。